

『吾妻鏡』にみる京洛方記事

野口武司

一

覇府鎌倉に君臨し、初期武家政権を掌握し領導した源頼朝以下、宗尊親王迄の歴代六將軍家に就いての治績・事蹟・行実、等を基軸に据えた叙述が展開されている攷の、半公的史乘たる『吾妻鏡』に、京洛方に関わる多種多様な記事が数多収載されていることは、周知に属する攷である。而して、斯うした同書所載の京洛方に関わる諸記事の有り様に就き、之を個々の当該記事に有する記載形式と其の意味内容との両面から彼此勘審して、件の諸記事をば、大凡、左記の如く分類整理することが可能であろう。即ち、

- 一、京洛方から鎌倉方へ差遣された使者・使節（後掲列挙史料中の有具名者には二重傍線、無具名者にして「使者」「使節」ないし、其れに相当する言辞には傍線が各々付記されている。）等に依る注進・報告・申言、或いは、其の差遣された使者・使節、等に依つて齎らされる記録・文書（後掲列挙史料中にみる有具名の無具名の其れには傍線が各々付記されている。）等の類と謂つた可成り明確にして信憑性の高い情報伝達の媒体ないし経路を通して京洛方に於いて生起勃発した某かの出来事、及び其れに関わる諸種の事情・状況・情勢・経緯、等が記載されているもの。

或いは又、然様に思量され理會されるものであり、之を分類Aと仮称する。

二、上記一の如く、京洛方に於いて生起勃発した某かの出来事、及び其れに関わる諸種の事情・状況・情勢・経緯、等が鎌倉方へ可成り明確にして信憑性の高い情報伝達の媒体ないし経路を通して知得されるものではなく、鎌倉方に於いて聞知されるものであり、或いは又、然様に思量され理會されるものであるが、其れは、何方かと言え、漠然としていて、稍、曖昧で不確かさを伴なうことも否めぬ風聞・伝聞・風説（後掲列挙史料中の該当部分、等には傍・印が付記されている。）、等と謂つた類の情報伝達の媒体ないし経路を通して知得されるもの。或いは又、然様に思量され理會されるものであり、之を分類Bと仮称する。

三、京洛方から鎌倉方へではなく、其の逆の鎌倉方から京洛方への使者・使節の差遣、即ち被差遣者の上洛に関わる記載である。其処には鎌倉方に依る京洛方への某かの政略・施策に関わる対応・対処ないし所信表明、等が記載されているもの。或いは又、然様に思量され理會されるものであり、之を分類Cと仮称する。

四、鎌倉方の京洛方への姿勢・対応、更には政略・施策、等に関わる某かの事柄が記載されているもの。或いは又、然様に思量され理會されるものであり、之を分類Dと仮称する。

五、京洛方に於いて生起勃発した某かの出来事、及び其れに関わる諸種の事情・状況・情勢・経緯、等が、鎌倉方への情報伝達者たる使者・使節の介在なしに記載されているもの。或いは又、然様に思量され理會されるものであり、之を分類Eと仮称する。

其処で、此等五種類の分類形式を以て記載されている京洛方記事に就いて、

(一)、其等五種類の分類形式を以て記載されている京洛方記事に認知される各々の形式が、同書に登載する歴代六將軍記に各々如何ように所見されるであろうか。換言すれば、存在分布するであろうか。

(二)、其等五種類の各分類形式と、其処に有する意味内容から各々如何ような特色を見出し得るであろうか。

と謂つた事柄を追窮し、檢覈することを通路として、同書の成立や性格の一斑を闡明すべき手掛かりを索求致したく思う。此れが本稿を執筆せんとした動機であり、又、其の意図する攸でもある。

先ず、以下に試みる行論の、より一層の明確化と便宜性を考慮して、同書に認められる先記一〜五の五分形式中、其の孰れかに該当すると判積される事例^(二形式以上に互つて重疊し、複合するものもある)の全てを摘出し、之を煩を厭わず、瑣を嫌わずに、各將

軍記毎に列挙することから始めよう^{(列挙順次は、各記事の懸けられている編年順次に随うと共に、各記事の頭部には其の通番号、末尾には当該記事の分類形式と所載条(年・月・日条)印付月は閏月を各々併記しておく。又、列挙史料中の}

(一)印個処は省略部分、中に就き、(二)印個処は所謂生の記録・文書類の引載部分に就いて省略のある処である。更に、列挙史料中には、其れが京洛方記事であることを、より能く表示すべく、傍波線が施されているものもある。又、一日条として懸けられている史料中には、記載内容を異にする出来事や事柄が取り上げられている別種の記事もあり、斯様な場合には、其の記事内容の相異に即応させるべく、(件)の列挙史料に付した通番号の右方に小字12・・を付記して一日条の記事を幾つかに分けてある処もある。

尚、本稿で謂う京洛方記事とは、京都、即ち山城を含む所謂五畿内五ヶ国の外、此れに隣接する近江、丹波、播磨、淡路、紀伊、伊賀、伊勢の七ヶ国を加えた都廬十二ヶ国に互る境域に於いて生起勃発した諸種多様な出来事、及び其れに関わる諸種の事情・状況・情勢・経緯、等を語り伝える記事の意であり、無論、其れは、同書の叙述対象範囲とする治承四(一一八〇)年四月より文永三(一二六六)年七月迄の八十七年間に於けるものであることを予め断つておく。

賴朝將軍記

1、入道源三位賴政卿可討滅平相國禪門清盛由。日者有用意事。然而以私計畧。太依難遂宿意。今日入夜。相具子息伊豆守仲綱等。潛參于一院第二宮之三條高倉御所。催前右兵衛佐賴朝以下源氏等。討彼氏族。可令執天下給之由申行之。仍仰散位宗信。被下令旨。而陸奧十郎義盛。廷尉爲義末子。折節在京之間。帶此令旨向東國。先相觸前右兵衛佐之後。可傳其外源氏等之趣。所被仰含也。義盛補八條院藏人。

名字改行家。
E

治承4・4・9条

2、高倉宮令旨。今日到着于前武衛將軍伊豆國北條館。八條院藏人行家所持來也。武衛裝束水干。先奉遙拜男山方之後。謹令披閣之給。侍中者。爲相觸甲斐信濃兩國源氏等。則下向彼國。(中略)平相國禪閣恣管領天下。刑罰近臣。剩奉遷仙洞於鳥羽之離宮。上皇御憤。頻惱。叡慮御。當于此時。令旨到來。仍欲舉義兵。寔惟天與取時至行謂歟。爰上總介平直方朝臣五代孫北條四郎時政主者。當國豪傑也。以武衛爲聲君。專顯無二忠節。因茲。最前招彼主。令披令旨給。(下略) A E " 4・4・27条

3、下河邊庄司行平進使者於武衛。告申入道三品用意事云々。 A E " 4・5・10条

4、陰。可被配流茂仁王於土佐國之旨。被宣下。上卿三條大納言實房。職事藏人右少弁行隆云々。是被下平家追討令旨事。依令露顯也。仍今日戊剋。檢非違使兼綱。光長等。相率隨兵。參彼三條高倉御所。先

- 之。得入道三品之告。逃出御。廷尉等雖追捕御所中。遂不令見給。此間。長兵衛尉信連取太刀相戰。光長郎等五六輩。爲之被疵。其後光長擲取信連。及家司一兩。女房三人歸去云々。 E " 4・5・15条
- 5、晴。今朝。廷尉等猶圍宮御所。破天井。放板敷。雖奉求不見給。而宮御息若宮。八條院女房三位局盛章女腹御坐八條院之間。池中納言賴盛。爲入道相國使。率精兵參八條御所。奉取若宮歸六波羅。此間洛中騷動。城外狼藉。不可勝計云々。 E " 4・5・16条
- 6、雨降。高倉宮去十五日密々入御三井寺。衆徒於法輪院構御所之由。風聞京都。仍源三位入道。近衛河原亭自放火。相率子姪家人等。參向宮御方云々。 E " 4・5・19条
- 7、雨降。三井寺衆徒等構城深溝。可追討平氏之由。僉議之云々。 E " 4・5・23条
- 8、入道三品中山堂并山庄等燒亡。 E " 4・5・24条
- 9、快霽。卯尅。宮令赴南都御。三井寺無勢之間。依令恃奈良衆徒御也。三位入道一族并寺衆徒等候御共。仍左衛門督知盛朝臣。權亮少將維盛朝臣已下入道相國子孫。率二万騎官兵追競。於宇治邊合戰。三位入道。同子息。仲綱兼綱仲宗及足利判官代義房等梟首。三品禪門首。非彼面之由。謳歌云々。宮又於光明山鳥居前有御事。御年三十云々。 E " 4・5・26条
- 10、官兵等燒拂宇治御室戶。是三井寺衆徒依構城郭也。同日。國々源氏并興福園城兩寺衆徒中應件令旨之輩。悉以可被攻擊之旨。於仙洞有其沙汰云々。 E " 4・5・27条
- 11、散位康信使者參着于北條也。武衛於閑所對面給。使者申云。去月廿六日。高倉宮有御事之後。請彼令旨

之源氏等。皆以可被追討之旨。有其沙汰。君者正統也。殊可有怖畏歟。早可遁奧州方給之由所存也者。此康信之母者。武衛乳母妹也。依彼好。其志偏有源家。凌山川。每月進三ケ度一各使者。申洛中子細。而今可被追討源氏之由事。依爲殊重事。相語弟康清。稱所勞止出仕。所差進也云々。 A E

12、入道源三品敗北之後。可被追討國々源氏之條。康信申狀不可被處浮言之間。遮欲廻平氏追討籌策。仍遣御書。被招累代御家人等。藤九郎盛長爲御使。又被相副小中太光家云々。 D E " 4・6・19条

13、三浦次郎義澄。義明二男。千葉六郎大夫胤頼。常胤六男。等參向北條。日來祇候京都。去月中旬之比。欲下向之刻。依宇

懸合戰等事。爲官兵被抑留之間。于今遲引。爲散數月恐鬱。參入之由申之。日來依番役所在京也。武衛對面件兩人給。御閑談移刻。他人不聞之。 A E " 4・6・27条

14、相模國住人大庭三郎景親以下。依去五月合戰事。令在京之東士等。多以下著云々。 A E " 4・8・2条

15、有近江國住人佐々木源三秀義者。平治逆亂時。候左典廐御方。於戰場竭兵略。而武衛坐事之後。不奉忘舊好兮。不諛平家權勢之故。得替相傳地佐々木庄之間。相率子息等秀衡秀義姨母夫也。赴奧州。至相

模國之刻。澁谷庄司重國感秀義勇敢之餘。令之留置之間。住當國既送二十年畢。此間。於子息定綱盛綱等者。所候于武衛之門下也。而今日。大庭三郎景親招秀義談云。景親在京之時。對面上總介忠清

平家侍之際。忠清披一封書狀。令讀聽于景親。是長田入道狀也。其詞云。北條四郎。比企掃部允等。爲前武衛

於大將軍。欲顯叛逆之志者。讀終。忠清云。斯事絕常篇。高倉宮御事之後。諸國源氏安否可糺行之由。沙汰最中此狀到着。定有子細歟。早可覽相國禪閣之狀也云々。景親答云。北條者已爲彼緣者之間。不知其意。掃部允者早世者也。景親聞之以降。意潛周章。與貴客有年來芳約之故也。仍今又漏脫之。賢息佐々木太郎等被候于武衛御方歟。尤可有_二用意事也_一云々。秀義心中驚駭之外無他。不能委細談話。歸畢云々。 D E " 4・8・9 条

16、左近少將惟盛朝臣爲襲源家。欲進發東國之間。攝政家被遣御馬。御廩案主兵衛志清方爲御使。羽林出逢御使。請取御馬云々。(下略) E " 4・9・22 条

17、今日。小松少將進發關東。薩摩守忠度。參河守知度等從之云々。是石橋合戰事。景親八月廿八日飛脚。九月二日入洛之間。日來有沙汰。首途云々 E " 4・9・29 条

18、於石橋合戰之時令分散之輩。今日多以參向于武衛鷺沼御旅館。又醍醐禪師全成同有光儀。被下令旨之由。於京都傳聞之。潛出本寺。以修業之躰下向之由。被申之。武衛泣令感其志給云々。 A E " 4・10・1 条

19、其後。加々美次郎長清參着。去八月上旬出京。於路次發病之間。一兩月休息美濃國神地邊。去月相扶。先下着甲斐國之處。一族皆參之由承之。則揚鞭。兄秋山太郎者。猶在京之旨申之。此間兄弟共屬知盛卿。在京都。而八月以後。頗有關東下向之志。仍寄事於老母病痾。雖申身暇。不許。爰高橋判官盛綱爲鷹裝束。招請之次。談話世上雜事。得其便。愁不被許下向事。盛綱聞之。向持佛堂之方合手。殆慚愧

云。當家之運因斯時者歟。於源氏人々者。家礼猶可被怖畏。矧亦如抑留下國事。頗似服仕家人。則稱可送短札。獻狀於彼知盛卿云。加々美下向事。早可被仰左右歟云々。卿翻盛綱狀裏有返報。其詞云。加々美甲州下向事。被聞食候訖。但兵革連續之時遠向。尤背御本懷。念可歸洛之由。可令相觸給上之趣所候也云々。 A E

20、今日。小松少將惟盛朝臣以下平將無功而入洛云々。 E

21、左兵衛督平知盛卿率數千官兵。下向近江國。与源氏山本前兵衛尉義經。同弟柏木冠者義兼等合戰。義經已下弃身忘命雖挑戰。知盛卿以多勢之計。放火烧廻彼等館并郎從宅之間。義經義兼失度逃亡。是去八月。於東國。源家舉義兵之由傳聞之以降。雖卜居於近國。偏存關東一味之儀。頻忽緒平相國禪閣威之故。今及此攻云々。 E

22、今日。藏人頭重衡朝臣。淡路守清房。肥後守貞能等。指東國發向。是爲襲源家也。但自路次歸洛云々。 E

23、山本兵衛尉義經參着鎌倉。以土肥二郎啓案内云。日來運志於關東之由。達平家之聽。觸事成阿黨之

刻。去一日。遂被攻落城墪之間。任素意參上。被追討彼凶徒之日。必可奉一方先登者。最前參向尤神妙。於今者。可被聽關東祗候之旨。被仰云々。(下略) A D E

24、平相國禪閣遣重衡朝臣於園城寺。与寺院衆徒遂合戰。是當寺僧侶。去五月之比。候三條宮之故也。南都同可被滅亡云々。凡此事。日來無沙汰之處。前武衛依彼令旨。於關東被遂合戰之間。衆徒定奉与歟

之由。禪閣廻思慮。及此儀云々。 D E

" 4・12・11条

25、今日。園城寺爲平家燒失。金堂以下堂舎塔廟。并大小乘經卷。顯密聖教。大畧以化灰燼云々。 E

" 4・12・12条

26、右馬允橘公長參着鎌倉。相具子息橘太公忠。橘次公成。是左兵衛督知盛卿家人也。去二日。藏人頭重衡朝臣

爲襲東國進發之間。爲前右大將宗盛之計。被相副之。爲弓馬達者之上。臨戰場廻智謀。勝人之

故。而公長倩見平家之爲躰。佳運已欲傾。又先年於粟田口邊。與長井齋藤別當。片切小八郎大夫干時各六條
廷尉御家人。

等。喧嘩之時。六條廷尉禪室定被及奏聞歟之由。成怖畏之處。匪畜止其憤被宥之。還被誠齋藤

片切等之間。不忘彼恩化。志偏在源家。依之。厭却大將軍之夕郎。尋緣者。先下向遠江國。次參

着鎌倉。以一所傍輩之好。屬加々美次郎長清。啓子細之處。可爲御家人之旨。有御許容云々。 A

E

" 4・12・19条

27、又上西孫子里見太郎義成自京都參上。日來雖屬平家。傳聞源家御繁榮。參之由申之。其志異祖父。早

可奉昵近之旨被免之。義成語申云。石橋合戰後。平家頻廻計議。於源氏一類者。悉以可誅亡之由。內々

有用意之間。向關東可襲武衛之趣。義成僞申之處。平家喜之。令免許之間參向。於駿河國千本松

原。長井齋藤別當實盛。瀨下四郎廣親等相逢云。東國勇士者。皆奉從武衛畢。仍武衛相引數万騎。令到

鎌倉給。而吾等二人者。先日依有蒙平家約諾事。上洛之由語申之。義成聞此事。弥揚鞭云々。 A E

" 4・12・22条

28、今日。重衡朝臣爲平相國禪閣使。相率數千官軍。爲攻南都衆徒首途云々。 E " 4・12・25 条

29、今日。重衡朝臣燒拂南都云々。東大興福兩寺郭内。堂塔一字而不免其災。佛像經論同以回祿云々。 E " 4・12・28 条

30、關東健士等廻南海。可入花洛之由風聞。仍平家分置家人等於所々海浦。其内。差遣伊豆江四郎。警固志摩國。而今日熊野山衆徒等競集于件國菜切嶋。襲攻江四郎之間。郎從多以被疵敗走。江四郎經太神宮御鎮坐神道山遁隱宇治岡之處。波多野小次郎忠綱義通二男。同三郎義定義通二孫等主從八騎。折節相逢于其所。爲抽忠於源家。遂合戰誅江四郎之子息一人云々。忠綱。義定者。相傳故波多野次郎義通遺跡。住于當國。右馬允義經有不義。於相模國雖蒙誅罰。於此兩人者。依思舊好。所勵勲功也。 D E " 5・1・5 条

31、去年十二月廿八日。南都東大寺。興神寺已下堂塔坊舍。悉以爲平家燒失。僅勅封倉寺封倉等免此災。火焰及大佛殿之間。不堪其口。周章投身。燒死者三人。兩寺之間。不意燒死者百餘人之由。今日風聞于關東。是相模國毛利庄住人僧印景之說也。印景爲學道。此兩三年在南都。依彼滅亡歸國云々。 B E " 5・1・18 条

32、熊野山惡僧等。去五日以後乱入伊勢志摩兩國。合戰及度々。至于十九日。浦七箇所皆悉追捕民屋。平家々人爲彼或捨要害之地逃亡。或伏誅又被疵之間。弥乘勝。今日燒拂二見浦人家。攻到于四瀨河邊之處。平氏一族關出羽守信兼相具姪伊藤次已下軍兵。相逢于船江邊防戰。惡僧張本戒光字大頭八郎房。中信兼之箭。仍

衆徒引退于一見浦。擲取女齡三四十者并少童五者等。以上三十余人令同船。指熊野浦解纜云々。尋此濫觴。南

海道者。當時平相國禪門虜掠之地也。而彼山依奉祈關東繁榮。爲亡平氏方人。有此企云々。平相國禪門

驕奢之餘。蔑如朝政。忽緒神威。破滅佛法。惱乱人庶。近則放大神宮御鎮坐入使者於伊勢國神三郡。充課兵

糧米。追捕民烟。天照太神鎮坐以降千百餘歲。未有如此例云々。凡此兩三年。彼禪門及子葉孫枝可敗北之

由。都鄙貴賤之間。皆蒙夢想。(下略) E " 5・1・21条

33、去年冬。於河內國爲平家所被殺害源氏前武藏權守義基之首。今日渡大路。懸獄門之樹。先檢非違使左

衛門少尉中原章貞。源仲賴。右衛門少尉中原基廣。安倍資成。右衛門志中原明基。左衛門府生大江經廣。右衛門

府生紀兼康等。行向七條河原。平氏家渡彼頸。又義基弟石河判官代義資。紺戶先生義廣。被生虜之間。相

具兄之首。被遣左獄舍云々。 E " 5・2・9条

34、左兵衛督知盛卿左少將清經朝臣。左馬頭行盛等。自近江國上洛。是爲追討源武衛從軍等發向之處。左武衛依

所勞如此云々。於美濃國所被討取之源氏并相從之勇士等之頸。今日入洛。知盛卿相具之歟。(下略) E

35、戌尅。入道平相國薨。九條河原口盛國家。自去月廿五日病惱云々。遺言云。三ケ日以後可有葬之儀。於遺骨者納幡磨國

山田法花堂。每七日可修如形佛事。每日不可修之。亦於京都不可成追善。子孫偏可營東國歸

往之計者。 E " 5・2・12条

36、前右大將宗盛。家人大夫判官景高以下千餘騎。爲襲前武衛發向東國云々。 E " 5・2・4条

36、前右大將宗盛。家人大夫判官景高以下千餘騎。爲襲前武衛發向東國云々。 E " 5・2・10条

37、被_レ下_二院廳御下文於東海道之諸國_一。藏人頭重衡朝臣帶_レ之。率_二千餘騎精兵_一。發_二向東國_一。是爲_レ追_二討前武衛_一也。 E " 5・②・15条

38、中宮大夫屬康信狀到_二着鎌倉_一。進_二一通記_一。所載_二洛中巨細_一也。又去四日平相國禪門薨。爲_レ送_二遺骨_一。下_二向幡磨國_一已畢。世上聊令_二落居_一者。可_二參向_一之由云々。 A E " 5・②・19条

39、義廣率_二三万余騎軍士_一。赴_二鎌倉方_一。先相_二語足利又太郎忠綱_一。忠綱本自背_二源家_一之間。成_二約諾_一亦小山与_二足利_一。雖有_二一流之好_一。依_レ爲_二一國之兩虎_一。爭_二權威之處_一。去年夏之比。可_レ誅_二滅平相國一族之旨_一。高倉宮被_レ下_二令旨於諸國_一畢。小山則承_二別語_一。忠綱非_二其列_一。太合_二鬱憤_一。加_二平氏_一。渡_二宇治河_一。敗_二入道_一三品賴政卿之軍陣。所_レ奉_レ射_レ宮也。異心未_レ散。且以_レ次爲_レ亡_二小山_一。有此企_{云々}。次義廣相_レ觸_レ可_レ与_レ之由於小山小四郎朝政。々々父政光者。爲_二皇居警衛_一。未在京。郎從悉以相_レ從_レ之。仍雖爲_二無勢_一。中心之所_レ之在_二武衛_一。可_レ討_二取義廣_一之由凝_二群議_一。老軍等云。早可_レ令_二与同_一之趣。僞而先令_二領狀_一之後。可_レ度_レ之也者。則示_二遣其旨_一。義廣成_二喜悅之思_一。來_二臨于朝政館之邊_一。(下略) D E " 5・②・23条

40、大中臣能親自_二伊勢國_一。通_二書狀於中八維平之許_一。是去正月十九日。号_二熊野山湛增之從類_一。濫_二入伊雜宮_一。鑽_二破御殿_一。犯_二用神寶_一之間。爲_二一祢宜成長神主沙汰_一。奉_レ遷_二御躰於內宮_一之處。同廿六日。件輩亦襲_二來山田宇治兩鄉_一。燒_二失人屋_一。奪_二取資財_一訖。天照大神鎮坐以來千百餘歲。皇御孫尊垂跡之後六百餘年。未_レ有_二如此_一例。當時源家再興之世也。尤可_レ有_二謹慎之儀_一者。維平覽_二此狀_一。湛增候_二御方_一。有_二此企_一。殊驚聞食。爲_二敬神_一可_レ有_二御立願_一之旨。被_二報仰_一云々。 A E " 5・3・6条

41、大夫屬入道送狀申云。去月七日。於院殿上有議定。仰武田太郎信義。可被下武衛追討廳御下文之由被定。又諸國源氏平均可被追伐之條者無其實。所限武衛許也。風聞之趣如此者。依之。於武田非無御隔心。被尋子細於信義之處。自駿河國今日參着。於身全不奉追討使事。縱雖被仰下。不可進奉。本自不存異心之條。以去年度々功。定思食知歟之由。陳謝及再三之上。至于子々孫々。對御子孫。不可引弓之趣。書起請文。令獻覽之間。有御對面。此間。猶依有御用心。召義澄。行平。定綱。盛綱。景時。令候于御座左右云々。武田自取腰刀与行平。入御之後退出。返取之云々。A D E

" 5・3・7条

42、園城寺律靜房日胤弟子僧日惠號帥公。參着于鎌倉。彼日胤者。千葉介常胤子息。前武衛御祈禱師也。仍去年五月。自伊豆國。遙被付御願書。日胤給之。一千日令參籠石清水宮寺。無言而令見讀大般若經。六百ヶ日之夜。眠之内。自寶殿賜金甲之由感靈夢。潛成所願成就思之處。翌朝聞高倉宮入御于三井寺之由。詔武衛御願書於日惠。奔參宮御方。遂同月廿六日於光明山鳥居。爲平氏被討取訖。而日惠相承先師之行業。果千日所願。守遺命欲參内之處。都鄙不靜之間。于今遲引之由申之云々。A E

" 5・5・8条

43、改元治承五年。爲養和元年。E

養和1・7・14条

44、藤原秀衡可令追討武衛也。平資永可追討木曾次郎義仲之由宣下。是平氏之依申行也。E

" 1・8・13条

45、今日。平氏但馬守經正朝臣。爲追討木曾冠者。進發北陸道。云々。 E " 1・8・15条

46、中宮亮通盛朝臣。爲追討木曾冠者。又赴北陸道。伊勢守清綱。上總介忠清。館太郎貞保發向東國。爲襲武衛也。 E " 1・8・16条

47、散位康信入道所進飛脚申云。今月一日。自福原歸洛。而去十六日。官軍等差東方發向。尤可被廻用意。 A E " 1・8・26条

48、頭中將維盛朝臣爲襲東國赴城外云々。 E " 1・10・3条

49、昨日。太神宮權祢宜度會光倫号相鹿郎大夫。自本宮參着。是爲致御祈禱。賜御願書也。今日。武衛對面給。光倫

申云。去月十九日。依平家之申行。爲東國歸往祈禱。任天慶之例。被奉金鎧於神宮。奉納以前。祭主親隆卿嫡男神祇少副定隆於伊勢國一志驛家頓滅。又件甲可被奉納事。同月十六日於京都。有御沙汰。當于其日。本宮正殿棟木。蜂作巢。雀小蛇生子。就是等之恠。勘先蹤。輕朝憲危國土之凶臣。當此時可敗北之條。兼而無疑者。仰曰。去永曆元年出京之時。有夢想告之後。當宮御事。渴仰之思異于他。所願成弁者。必可寄進新御厨云々。 A E " 1・10・20条

50、足利冠者義兼。源九郎義經。土肥二郎實平。土屋三郎宗遠。和田小太郎義盛等。爲防禦維盛朝臣。欲行向遠江國之處。佐々木源三秀能申云。件羽林。當時在近江國。下向不知其期。且十郎藏人張軍陣於尾張國。先可相支歟。各雖無楚忽。進發有何事哉云々。仍延引云々。 A D E " 1・11・5条

51、加賀賢者參着。是故入道源三位卿一族也。而彼三品禪門近親殖生弥太郎盛兼。去年宇治合戰以後。蟄居于或所

- 。潜欲參關東之處。九月廿一日。前右大將宗盛。遣勇士擬生虜刻。忽以自殺。号件与力衆。擗取少納言宗綱畢。依爲親昵。同被搜求之間。失度參向云々。 A E
- 52、中宮亮通盛朝臣。左馬頭行盛。自北國。歸洛。但馬守經正朝臣逗留若狹國云々。 E
- 53、太神宮奉幣御使歸參。二宮一祢宜各領納幣物。可抽懇祈之由。内々申之。但不奉狀。是若憚平家之後聞歟之旨。有御疑云々。 D E
- 54、改元。改養和二年。爲壽永元年。 E
- 55、十郎藏人(中略)又相恃山門衆徒。送牒狀於延曆寺。是忘謀平家祈請。可合力源氏之由也。 D E
- 56、爲追討木曾冠者義仲主所發向北陸道平氏軍兵等。悉以歸京都。已屬寒氣。在國難治之由。雖成披露。眞實之躰。怖義仲之武略之故也云々。 E
- 57、中納言法眼圓曉号宮法眼。自京都下向。是後三條院御後輔仁親王御孫。陸奥守源朝臣義家。御外孫也。武衛尋彼舊好。所被請申也。即參營中給。且御産間御祈事可被申處。爲果宿願。以下向便宜。參籠太神宮之間。于今遲々云々。祭主親隆卿令家人等奉送遼遠之境云々。 A D E
- 58、生倫神主注進申云。二宮祢宜等奉同意關東之由。有平家之讒奏。去月之比。公家及御沙汰。遂爲祠官惱乱歟云々。 A E
- 59、就生倫申狀。被遣御書於太神宮。(下略) A D E

60、伊与守義仲兼征夷大將軍云々。粗勘先規。於鎮守府宣下者。坂上中興以後。至藤原範季。安元二年三月雖及七十度。至征夷使者。僅爲兩度歟。所謂桓武天皇御宇延曆十六年丁丑十一月五日。被補按察使兼陸奥守坂上田村麻呂卿。朱雀院御宇天慶三年庚子正月十八日。被補參議右衛門督藤原忠文朝臣等也。尔以降。皇家廿二代。歲曆二百四十五年。絕而不補此職之處。今始例於三輩。可謂希代朝恩歟。 E

" 3 · 1 · 10 条

61、蒲冠者範賴。源九郎義經等。爲武衛御使率數万騎入洛。是爲追討義仲也。今日。範賴自勢多參洛。義經入自宇治路。木曾以三郎先生義廣。今井四郎兼平已下軍士等。於彼兩道雖防戰。皆以敗北。蒲冠者。源九郎相具河越太郎重賴。同小太郎重房。佐々木四郎高綱。畠山次郎重忠。澁谷庄司重國。梶原源太景季等。馳參六條殿。奉警衛仙洞。此間。一條次郎忠賴已下勇士競走于諸方。遂於近江國粟津邊。令相模國住人石田次郎誅戮義仲。其外錦織判官等者逐電云々。

征夷大將軍從四位下行伊豫守源朝臣義仲十一年春宮帶刀長義賢男

壽永二年八月十日任左馬頭。兼越後守。敍從五位下。同十六日遷任伊豫守。十二月十日辭左馬頭。同十三日敍從五位上。同敍正五位下。

元曆元年正月六日敍從四位下。十日。任征夷大將軍。

檢非違使右衛門權少尉源朝臣義廣 伊賀守義經男

壽永二年十二月廿一日任右衛門權少尉。元無蒙使宣旨。 E

" 3 · 1 · 20 条

62、源九郎義經主獲義仲首之由奏聞。今日及晚。九郎主搦進木曾專一者樋口次郎兼光。是爲木曾使。爲征石川判官代。日來在河內國。而石河逃亡之間。空以歸京。於八幡大渡邊。雖聞主人滅亡事。押以入洛之處。源九郎家人數輩馳向。相戰之後生虜之云々。 E

" 3 · 1 · 21 条

63、常陸國鹿嶋社祢宜等進使者於鎌倉。申曰。去十九日。社僧夢想曰。當所神。爲追罰義仲并平家。赴京都御云々。而同廿日戊尅。黑雲覆寶殿。四方悉如向暗。御殿大震動。鹿鷄等多以群集。頃之彼黑雲亘西方。鷄一羽在其雲中。見人目。是希代未聞奇瑞也者。(中略)件時尅。京鎌倉共以雷鳴地震云々。 E

" 3 · 1 · 23 条

64、晴。今朝。檢非違使等於七條河原。請取伊豫守義仲并忠直。兼平。行親等首。懸獄門前樹。亦囚人兼光同相具之被渡訖。上卿藤中納言。職事頭弁光雅朝臣云々。 E

" 3 · 1 · 26 条

65、未尅。遠江守義定。蒲冠者範賴。源九郎義經。一條次郎忠賴等飛脚參着鎌倉。去廿日遂合戰。誅義仲并伴黨之由申之。三人使者皆依召參北面石壺。聞食巨細之處。景時飛脚又參着。是所持參討亡囚人等交名注文也。方々使者雖參上。不能記錄。景時之思慮猶神妙之由。御感及再三云々。 A E

A E

" 3 · 1 · 27 条

66、小山四郎朝政。土肥次郎實平。澁谷庄司重國已下。可然御家人等使者參鎌倉。各所賀申合戰無爲之由也。 A

A

E

" 3 · 1 · 28 条

67、關東兩將爲征平氏。率軍兵赴西國。悉以今日出京云々。 E

" 3 · 1 · 29 条

68、樋口次郎兼光梟首。澁谷庄司重國奉之。仰郎從平太男。而斬損之間。子息澁谷次郎高重斬之。但去月廿日合戰之時依被疵。爲片手打云々。此兼光者。与武藏國兒玉之輩。爲親昵之間。彼等募勲功之賞。可賜兼光命之旨。申請之處。源九郎主雖被奏聞事由。依罪科不輕。遂以無有免許云々。 E

69、平家日來相從西海山陰兩道軍士數万騎。擄城墪於攝津与播磨之境一谷上。各群集。今日迎相國禪門三廻忌景。修佛事云々。 E

70、西剋。源氏兩將到攝津國。以七日卯剋。定箭合之期。大手大將軍蒲冠者範賴也。相從之輩。(中略)已下五万六千餘騎也。搦手大將軍源九郎義經也。相從之輩。(中略)已下二万餘騎也。平家聞此事。新三位中將資盛卿。小松少將有盛朝臣。備中守師盛。平内兵衛尉清家。惠美次郎盛方已下七千餘騎。着于當國三草山之西。源氏又陣于同山之東。隔三里行程。源平在東西。爰九郎主如信綱實平加評定。不待曉天。及夜半襲三品羽林。仍平家周章分散畢。 E

71、雪降。寅剋。源九郎主先引分殊勇士七十餘騎。着于一谷後山。号鶴越。爰武藏國住人熊谷次郎直實。平山武者所季重等。卯剋。偷廻于一谷之前路。自海道競襲于館際。爲源氏先陣之由。高聲名謁之間。飛驒三郎左衛門尉景綱。越中次郎兵衛盛次。上總五郎兵衛尉忠光。悪七兵衛尉景清等。引廿三騎。開木戶口。相戰之。熊谷小次郎直家被疵。季重郎從天亡。其後蒲冠者。并足利。秩父。三浦。鎌倉之輩等競來。源平軍士等互混乱。白旗赤旗交色。鬪戰爲躰。響山動地。(中略)九郎主相具三浦十郎義連已下勇士。自鶴越。此山猪鹿兔狐之外不通險阻也。被攻戰間。失

商量敗走。或策馬出一谷之館。或棹船赴四國之地。爰本三位中將重衡。於明石浦。爲景時。家國等被生虜。越前三位通盛。到湊河邊。爲源三俊綱被誅戮。其外薩摩守忠度朝臣。若狹守經俊。武藏守知章。大夫敦盛。業盛。越中前司盛俊。以上七人者。範賴。義經等之軍中所討取也。但馬前司經正。能登守教經。備中守師盛者。遠江守義定獲之云々。 E

72、關東兩將。自攝津國。進飛脚於京都。昨日於一谷遂合戰。大將軍九人梟首。其外誅戮及千餘輩之由申之。 E

73、源九郎主入洛。相具之輩不幾。從軍追可參洛歟。是平氏一族首可被渡大路之旨。爲奏聞。先以揚鞭云々。 E

74、平氏等之首可被渡大路之由。源氏兩將經奏聞。仍博陸三公。堀川亞相忠親等被預勅問。彼一族仕朝廷已年尙。可有優恕沙汰歟。將又範賴。義經爲果私宿意。所申請非無道理歟。兩樣之間。難決。勸慮。宜計申之由云々。而意見雖區分。兩將強申請之間。遂可被渡之由治定云々。勸使右衛門權佐定長數度往反云々。 E

75、平氏首聚于源九郎主六條室町亭。所謂通盛卿。忠度。經正。教經。敦盛。師盛。知章。經俊。業盛。盛俊等首也。然後。皆持向八條河原。大夫判官仲賴以下請取之。各付于長鎗刀。又付赤簡。平某之由。各注付之。向獄門

懸樹。觀者成市云々。 E

76、晴。右衛門權佐定長奉勅定。爲推問本三位中將重衡卿。向故中御門中納言家成八條堀川堂。土肥次郎實平

同車彼卿。來會件堂。於弘庇問之。口狀條々注進之云々。 E " 3・2・14条

77、辰剋。蒲冠者範賴。源九郎義經等飛脚。自攝津國參着鎌倉。獻合戰記錄。其趣。去七日於一谷合戰。平家

多以殞命。前内府已下浮海上赴四國方。本三位中將生虜之。通盛卿。忠度朝臣。經俊。已上三人。蒲冠者討取之。經正。師

盛。教經。已上三人。遠江守義定討取之。敦盛。知章。業盛。盛俊。已上四人。義經討取之。此外梟首者一千餘人。凡武藏相模下野等軍士。各所

竭大功也。追可注記言上云々。 A E " 3・2・15条

78、今日。又定長推問重衡卿。事次第同一昨日云々。 E " 3・2・16条

79、武衛被發御使於京都。是洛陽警固以下事所被仰也。又播磨。美作。備前。備中。備後。已上五ヶ國。景

時。實平等遣專使。可令守護之由云々。 C D E " 3・2・18条

80、去十五日。本三位中將遣前左衛門尉重國於四國。告勅定旨於前内府。是舊主并三種寶物可奉歸洛之

趣也。件返狀今日到來于京都。備叡覽云々。其狀云。(下略) E " 3・2・20条

81、有尾藤太知宣者。此間屬義仲朝臣。而内々任御氣色。參向關東。武衛今日直令問子細給。信濃國中野

御牧。紀伊國田中池田兩庄。令知行之旨申之。以何由緒。令傳領哉之由被尋下。自先祖秀鄉朝臣之

時。次第承繼處。平治乱逆之刻。於左典廐御方。窄籠之後得替。就愁申之。田中庄者。去年八月。木曾殿

賜御下文之由申之。召出彼下文覽之。仍知行不可有相違之旨被仰云々。 A E " 3・2・21条

82、前右馬助季高。散位宗輔等依同意于義仲朝臣。被召禁之被下使廳云々。 E " 3・2・23条

83、朝務事。武衛注御所存。條々被遣泰經朝臣之許云々。其詞云。(下略) D E " 3・2・25条

84、近江國住人佐々木三郎成綱參上。子息俊綱。一谷合戰之時。討取越前三位通盛。訖。可預賞之由申之。於勲功者。尤所感也。但日來者屬平氏。殊奉蔑如源家之處。平氏零落都之後始參上。頗非眞實志之由被仰云々。 A E " 3・2・27条

85、三位中將重衡卿。自土肥次郎實平之許。渡源九郎主亭。實平依可赴西海也。 E " 3・3・2条

86、去月十八日宣旨狀到着鎌倉。是近日武士等寄事於朝敵追討。於諸國庄園打止乃貢。奪取人物。而彼輩募關東威歟。無左右難處罪科之由。公家内々有其沙汰云々。武衛依令傳聞之給。下官全不案煩下庶民之計。其事早可被糺行之由。被申請之云々。(下略) A D E " 3・3・9条

87、晴。三位中將重衡卿今日出京赴關東。梶原平三景時相具之。是武衛依令申請給也。 D E " 3・3・10条

88、板垣三郎兼信飛脚去夜到來鎌倉。今日判官代邦通披露使者口狀。其趣。應貴命。爲追討平家所赴西海去八日出京云々也。而適列御門葉。奉一方追討使。可爲本懷之處。實平乍相具此手。稱蒙各別仰。於事不加所談。剩云西海雜務。云軍士手分。不交兼信口入。獨可相計之由。頻結構。始終爲如此者。頗可失勇心。居住西國之間。諸事兼信可爲上司之旨。賜御一行。欲當于眉目云々。此事會無許容。不可依門葉。不可依家人。凡實平貞心者。難混傍輩之上。守眼代器。委付西國巨細。訖。如兼信者。只向戰場。可弃命一段也。其猶以不可定。今申狀可謂過分者。使者空走歸云々。 A D " 3・3・17条

- 89、今日。大内冠者惟義可爲伊賀國守護之由。被仰付之云々。 D E " 3・3・20条
- 90、大井兵衛次郎實春欲向伊勢國。是平家々人為宗者。潜籠當國之旨。依有其聞。行向可征之由。令下知給之故也。 B C D E " 3・3・22条
- 91、池前大納言并室家之領等者。載平氏没官領注文。自公家被下云々。而爲酬故池禪尼恩德。申宥彼亞相勅勘給之上。以件家領卅四箇所。如元可爲彼家管領之旨。昨日有其沙汰。令辞之給。此内。於信濃國諏方社者。被相博伊賀國六ヶ山云々。《下略》 D E " 3・4・6条
- 92、源九郎使者自京都參着。去月廿七日有除目。武衛敍正四位下給之由申之。是義仲追討賞也。持參彼聞書。此事。藤原秀郷朝臣天慶三年三月九日自六位昇從下四位也。武衛御本位者從下五位也。被准彼例云々。亦依忠文字治民 部卿之例。可有征夷將軍宣下歟之由有其沙汰。而越階事者彼時准據可然。於將軍事者。賜節刀被任軍監軍曹之時。被行除目歟。被載今度除目之條。似始置其官。無左右難被宣下之由。依有諸卿群議。先敍位云々。 A E " 3・4・10条
- 93、快齋。新典廐能保。去月 廿七日任。被參鶴岡八幡宮。是被申慶之由也。次被參謁御亭。 E " 3・4・11条
- 94、改元。改壽永三年爲元曆元年。 E 元曆1・4・16条
- 95、賀茂社領四十一ヶ所。任院廳御下文。可止武家狼藉之由。有其沙汰。 D E " 1・4・24条
- 96、平氏在西海之由風聞。仍被遣軍兵。爲征罰無事御祈禱。以淡路國廣田庄。被寄附廣田社。其御下文。付前齋院次官親能上洛便宜。可被遣神祇伯仲資王云々。《下略》 B C D E " 1・4・28条

97、前齋院次官親能爲使節上洛。平家追討間事。向西海可奉行之云々。土肥次郎實平梶原平三景時等同首途。調

置兵船。來六月屬海上和氣期。可遂合戰之由被仰合云々。 C D E " 1・4・29条

98、雜色時澤爲使節上洛。是園城寺長吏僧正房覺痢病危急之由。依有其聞。被訪申之故也。武衛日來御祈禱

等事被仰付云々。 B C D E " 1・5・12条

99、申尅。伊勢國馳驛參着。申云。去四日。波多野三郎。大井兵衛次郎實春。山内瀧口三郎。并大内右衛門尉惟義家

人等。於當國羽取山。与志太三郎先生義廣合戰。殆及終日爭雌雄。然而遂獲義廣之首云々。此義

廣者。年來含叛逆之志。去々年率軍勢。擬參鎌倉之刻。小山四郎朝政依相禦之。不成而逐電。令屬

義仲訖。義仲滅亡之後又逃亡。曾不弁其存亡之間。武衛御憤未休之處。有此告。殊所令喜給也。 A

E " 1・5・15条

100、武衛被遣御書於泰經朝臣。是池前大納言。同息男。可被還任本官事。并御一族源氏之中。範賴。廣綱。義

信等可被聽一州國司事。内々可被計奏聞之趣也。大夫屬入道書此御書。付雜色鶴太郎云々。 C D

E " 1・5・21条

101、左衛門尉藤原朝綱拜領伊賀國壬生野鄉地頭職。是日來雖仕平家。懇志在關東之間。潜遁出都參上。募

其功。宇都宮社務職無相違之上。重被加新恩云々。 D E " 1・5・24条

102、武衛招請池前亞相給。是近日可有歸洛之間。爲餞別也。右典廐并前少將時家等在御前。先三獻。其後

數巡。又相互被談世上雜事等。(中略)武衛先召弥平左衛門尉宗清。左衛門尉季宗男。平家一族也。是亞相下着最初。被

尋申之處。依病起遲留之由。被答申之間。定今者令下向歟之由。令思案給之故歟。而未參着之旨。亞相被申之。太違亭主御本位云々。此宗清者。池禪尼侍也。平治有事之刻。奉懸志於武衛。仍爲報謝其事。相具可下向給之由。被仰送之間。亞相城外之日。示此趣於宗清之處。宗清云。令向戰場給者。進可候先陣。而情案關東之招引。爲被酬當初奉公歟。平家零落之今參向之條。尤稱耻存之由。直參屋嶋前内府云々。 A D E " 1・6・1条

103、石河兵衛判官代義資參着關東。可致朝夕官仕之由申之。是去養和元年爲平家所被生虜之河内源氏隨一也。近年者又爲義仲被襲。太失度云々。而依武衛被執申之免勅勘。去三月二日。右兵衛尉如元之由。被宣下云々。 A D E " 1・6・4条

104、去五日被行小除目。其餘書今日到來。武衛令申給任人事無相違。所謂權大納言平賴盛。侍從同光盛。河内守同保業。讚岐守藤能保。參河守源範賴。駿河守同廣綱。武藏守同義信云々。 A D E " 1・6・20条

105、成就院僧正房使者。去夜戌尅參着。是寂樂寺僧徒令乱入高野山領紀伊國阿弓河庄。致非法狼藉之由。依訴申也。則進覽當山結界繪圖。并大師御手印案文等。筑後權守俊兼於御前釋申之。凡吾朝弘法者。併爲大師聖跡之由。武衛有御信仰之間。不日被經沙汰。可止狼藉之旨。被下御書。其狀云。(下略) A

D E

" 1・7・2条

106、武衛爲追討前内府已下平氏等。以源九郎主。可遣西海事。被申仙洞云々。 D E " 1・7・3条

107、大内冠者惟義飛脚參着。申云。去七日於伊賀國。爲平家一族等被襲之間。所相恃之家人多以被誅戮。

云々。因茲諸人馳參。鎌倉中騷動云々。 A D E

” 1・7・5条

108、今日。井上太郎光盛於駿河國蒲原驛被誅。是依有同意于忠賴之聞也。光盛日來在京之間。吉香船越之輩

含兼日嚴命。相待下向之期。討取之云々。 D E

” 1・7・10条

109、伊賀國合戰之間事。被經其沙汰。可討亡平家隱逃之郎從等之由。被仰大内冠者。并加藤五景員入道父

子。及瀧口三郎經俊等云々。雜色友行宗重兩人。帶彼御書等進發云々。 C D E

” 1・7・18条

110、雨降。大内冠者飛脚重參着。申云。去十九日酉尅。与平家餘黨等合戰。逆徒敗北。討亡者九十餘人。其内張本

四人。富田進士家助。前兵衛尉家能。家清入道。平田太郎家繼入道等也。前出羽守信兼子息等。并忠清法師

等者。逃亡于山中畢。又佐々木源三秀能相具五郎義清。合戰之處。秀能爲平家被打取畢。惟義已雪

會稽之耻。可預抽賞歟云々。 A E

” 1・8・2条

111、又被發御使於京都。今度伊賀國兵革事。偏在出羽守信兼子息等結構歟。而彼輩遁圍之中。不知行方

云々。定隱遁京中歟。早尋搜之。不廻踵可令誅戮之趣。被仰遣源九郎主許云々。安達新三郎爲飛脚

首途云々。 C D E

” 1・8・3条

112、源九郎主使者參着。申云。去六日任左衛門少尉。蒙使宣旨。是雖非所望之限。依難被默止度々歟

功。爲自然朝恩之由。被仰下之間。不能固辞云々。此事頗違武衛御氣色。範賴義信等朝臣受領事者。起

自御意被舉申也。於此主事者。内々有儀。無左右不被聽之處。遮令所望歟之由有御疑。凡被

背御意事。不限今度歟。依之可爲平家追討使事。暫有御猶豫云々。 A D E

” 1・8・17条

113、安藝介廣元受領事。掃部頭安倍季弘朝臣木曾新師云々。可被停廢官職事。已上兩條。被申京都云々。 D E

" 1・8・20条

114、源廷尉飛脚參着。去十日。招信兼子息左衛門尉兼衡。次郎信衡。三郎兼時等。於宿廬誅戮之。同十一日。信兼

被下解官宣旨云々。 A E " 1・8・26条

115、出羽前司信兼入道已下平氏家人等京都之地。可為源廷尉沙汰之由。武衛被遣御書。(下略) D E

" 1・9・9条

116、參河守範賴朝臣去朔日使者。今日參着獻書狀。去月廿七日入洛。同廿九日賜追討使官符。今日九月一日發向西海

云々。 A E " 1・9・12条

117、河越太郎重賴息女上洛。為相嫁源廷尉也。是依武衛仰。兼日令約諾云々。重賴家子二人。郎從三十餘輩從

之首途云々。 C D E " 1・9・14条

118、平氏一族。去二月被破攝津國一谷要害之後。至于西海。掠虜彼國々。而為被攻襲之。被發遣軍兵

訖。 D E " 1・9・19条

119、玉井四郎資重濫行事。所被下院宣也。今日到來于關東。武衛殊依恐申給。則可停止之旨。被仰下

云々。(下略) A D E " 1・9・20条

120、去五日。季弘朝臣被停所帶職畢之由。自仙洞。被仰源廷尉義經。々々又所申其旨也。彼狀今日

到來鎌倉云々。 A E " 1・9・28条

- 121、因幡守廣元九月十八日任申云。去月十八日。源廷尉敍留。今月十五日聽院內昇殿云々。其儀駕八葉車。扈從衛府三人。共侍廿人。各騎馬於庭上舞蹈。撥劔笏參殿上云々。 A E " 1・10・24条
- 122、淡路國廣田庄者。先日被寄附廣田社之處。梶原平三景時爲討平氏。當時在彼國之間。郎從等乱入彼庄。妨乃貢獻。仍仲資王被申子細。更非改變儀。且可下知景時之由。今日被遣御報云々。 A D E " 1・10・27条
- 123、石清水別當成清法印申興行兩條。所被申京都也。俊兼奉行之。(下略) A D E " 1・10・28条
- 124、園城寺專當法師下着關東。所持參衆徒牒狀也。武衛則召出御前。被令因幡守廣元讀之。其狀云。(下略) A E " 1・11・23条
- 125、武衛召園城寺使者。賜御下文一通。所令寄附兩村於一寺伽藍給也。其狀云。(下略) D E " 1・12・1条
- 126、園城寺專當歸洛。而北條殿殊令歸依當寺給之間。相副慇懃御書。被申彼寺事於源廷尉。其詞曰。(下略) D E " 1・12・3条
- 127、今日。源廷尉請文自京都參着。是西國賜所領之輩事。任仰之旨。沙汰付之由云々。 A D E " 1・12・20条
- 128、爲追討平家在西海之東土等。無船糧絕而失合戰術之由。有其聞之間。日來有沙汰。用意船可送兵糧米之旨。所被仰付東國也。以其趣。欲被仰遣西海之處。參河守範賴(去年九月二日出京赴西海)。去年十一月十四日

- 飛脚。今日參着。兵糧闕乏間。軍士等不一揆。各戀本國。過半者欲逃歸云々。其外鎮西條々被申之。又被所望乘馬云々。就此申狀。聊雖散御不審。猶被下遣雜色定遠。信方。宗光等。但定遠。信方者在京。自京都。可相具之旨。被仰含于宗光。(下略) A D E " 2・1・6条
- 129、典膳大夫中原久經。近藤七國平。爲使節上洛。先々雖爲使節。他人相替。今度治定云々。是追討平氏之間。寄事於兵糧。散在武士於畿内近國所々致狼藉之由。有諸人之愁緒。仍雖不被相待平家滅亡。且爲被停止彼狼嘖。所被差遣也。先相鎮中國近邊之十一ヶ國。次可至九國四國。悉以經奏聞。可隨院宣。此一事之外。不可交私之沙汰之由。被定仰云々。(下略) C D E " 2・2・5条
- 130、爲平家追討御祈請。於鶴岡寶前。召聚鎌倉中僧徒。被轉讀大般若經。京都又被始行甘壇之秘法云々。 D E " 2・2・13条
- 131、關東軍兵爲追討平氏赴讚岐國。廷尉義經爲先陣。今日西剋解纜。大藏卿泰經朝臣稱可見彼行粧。自昨日到廷尉旅館。而卿諫云。泰經雖不知兵法。推量之所覃。爲大將軍者。未必競一陣歟。先可被遣次將哉者。廷尉云。殊有存念。於一陣欲弃命云々。則以進發。尤可謂精兵歟。(下略) E " 2・2・16条
- 132、廷尉昨日自渡部欲渡海之處。暴風俄起。舟船多破損。士卒船等一艘而不解纜。爰廷尉云。朝敵追討使暫時逗留。可有其恐。不可顧風波之難云々。仍丑剋。先出舟五艘。(下略) E " 2・2・18条
- 133、同日。住吉神主津守長盛參洛。經奏聞稱。去十六日。當社行恒例御神樂之間。及子剋。鳴鑼出自第三

神殿。指西方行云々。此間奉仕追討御祈。靈驗偈焉者歟。 E " 2・2・19条

134、平家籠于讚岐國志度道場。廷尉引八十騎兵。追到彼所。平氏家人田内左衛門尉歸伏于廷尉。亦河野四郎通信粧三十艘之兵船參加矣。義經主既渡阿波國。熊野別當湛增爲合力源氏同渡之由。今日風聞洛中云々。 E " 2・2・21条

135、入夜。爲追討御祈。於賀茂社。被行御神樂。有宮人曲云々。 E " 2・2・27条

136、今日。内藏寮領山城國精進御菌事。止給人景清妨。可令刑部兼信親領掌之旨。武衛直令下知給云々。 D E " 2・3・2条

137、有左馬頭義仲朝臣妹公。是先日武衛御臺所有御猶子之契。而自美濃國一村有御志間在國上洛。募御息女之威。在京之間。奸曲之輩多以屬之。捧往日弃捐古文書。寄附不知行所々於件姬公之後。又稱其使節。押妨權門庄公等。此事。當時人庶之所愁也。既達關東御遠聞之間。号之物狂女房。且停止彼濫吹。且可擗進相順族之由。今日被仰遣近藤七國平并在京畿内御家人等之許。但於御一族之中。奸濫人相交之條。依耻世

謗給。於御書之面。雖被載物狂之由。潜有憐愍御志。可參向關東之趣内々被諫仰云々。 B C D E " 2・3・3条

138、爲鎮畿内近國狼喫。以典膳大夫久經。近藤七國平。爲御使。被差遣已訖。而猶在洛武士現狼藉之由。依令聞及給。爲散叡疑之恐。被言上其子細云々。《下略》 B C D E " 2・3・4条

139、東大寺修造事。殊可抽丹誠之由。武衛被遣御書於南都衆徒中。又被送奉加物於大勸進重源聖人訖。所

謂八木一万石。沙金一千兩。上絹一千疋云々。御書云。(下略) D E " 2・3・7条

140、源廷尉義經飛脚自西國參着。申云。去月十七日。僅率百五十騎。凌暴風。自渡部解纜。翌日卯尅。着

于阿波國。則遂合戰。平家從兵或被誅。或逃亡。仍十九日。廷尉被向屋嶋訖。此使不待其左右馳參。而

於幡磨國願後之處。屋嶋方黑煙聳天。合戰已畢。内裏以下燒亡無其疑云々。 A E " 2・3・8条

141、平家悉以討滅之由。去夜源廷尉義經。使馳申京都。今日又以源兵衛尉弘綱。註傷死生虜之交名。奉仙洞

云々。 E " 2・4・4条

142、大藏卿泰經朝臣使者參着關東。追討無爲。偏依兵法之巧也。叡感少彙之由。可申之趣。所被院宣

也者。武衛殊謹悅給云々。 A D E " 2・4・14条

143、關東御家人。不蒙内舉。無功兮多以拜任衛府所司等官。各殊奇怪之由。被遣御下文於彼輩之中。件名字

載一紙。面々被注加其不可云々。(下略) D E " 2・4・15条

144、賢所神璽令着今津邊御。仍頭中將通資朝臣參其所。入夜。藤中納言。經房。宰相中將。泰通。權右中弁兼忠

朝臣。左中將公時朝臣。右少將範能朝臣。藏人左衛門權佐親雅等。參向桂河。大板之後。經朱雀大路并六條

。自大宮入御待賢門。渡御官朝所。經東門。此間。大夫判官義經着鎧供奉。候官東門。看督長着布衣。取

松明在前云々。 E " 2・4・24条

145、近年兵革之間。武勇之輩耀私威。於諸庄園致濫行歟。依之。去年春之比。宜從停止之由。被下綸旨訖。

而關東以實平景時。被差定近國惣追捕使之處。於彼兩人者。雖存廉直。所補置之眼代等。各有猥所

行之由。漸懷人之訴。就之早可令停止之旨。所被成御下文也。俊兼奉行之云々。

下 畿内近國實平押領所々

可令早任 院宣狀 停止實平濫妨知行事

（下略）

下 畿内近國景時押領所々

可令早任 院宣狀 停止景時濫妨知行事

（下略） D E

” 2・4・26条

145、今日。前内府已下生虜。依召可入洛之間。法皇爲御覽其躰。密々被立御車於六條坊城云々。申尅各入

洛。前内府。平大納言。

各駕八葉車。上前後簾。開物見云々。

右衛門督。

乘父車後。各淨衣。立烏帽子。

土肥二郎實平

黑糸威鎧

在車前。

伊勢三郎能盛

肩白赤威鎧

在同後。其外勇士相圍車。又美濃前司以下同相具之。信基時實等者。依被疵用閑路云々。皆悉入廷尉六

條室町第云々。同日則有罪狀定。前内府父子并家人等可被處死罪之由。明法博士章貞進勘文云々。 E

” 2・4・26条

146、建礼門院渡御于吉田邊。

律師實憲坊。

又若宮

今上兒。

御坐船津之間。

侍從信清令參向奉迎之。

奉入七條坊門亭

云々。 E

” 2・4・28条

146、今日。近江國住人前出羽守重遠參上。是累代御家人也。齡八旬云々。武衛哀其志召前。舍弟十郎并僧蓮仁等加

扶持。重遠申云。平治合戰之後。存譜代好之間。終不隨平家之威權兮。送廿餘年訖。適逢御執權之秋

- 。可開愁眉之處。還爲在京之東土等。稱兵糧。号番役。譴責之條太以難堪。凡非一身之訴。及諸人之愁。平氏之時曾無此儀。世上未收歟云々。申狀之趣。尤叶正理之由有御感。仍停止如然濫妨。可令成安堵之思之旨。直有恩裁云々。又國中訴訟事。可有御沙汰之由云々。 A D E " 2・4・28条
- 147、故伊与守義仲朝臣妹公。字富菊。自京都參上。是武衛令招引給之故也。御臺所殊愍給。先日所々押領由事。奸曲之族假名立面之條。全不知子細之旨陳謝云々。豫州爲朝敵雖預討罰。無指雜怠之女性。盍憐之乎云々。仍所賜美濃國遠山庄内一村也。 A D E " 2・5・1条
- 147、今日。建礼門院令落飭御云々。 E " 2・5・1条
- 148、梶原平三景時使者還于鎮西云々。仍被付御書。被勘發廷尉訖。於今者不可從彼下知。但平氏生虜等已入洛云々。是當時重事也。罪名治定之程。景時已下御家人等皆一心而可令守護。各任意不可令歸參之由云々。 D E " 2・5・4条
- 149、公家爲追討報賽。被發遣廿二社奉幣使。上卿右大將。良經。奉行弁兼忠朝臣云々。 E " 2・5・6条
- 150、源廷尉使者号龜井六郎。自京都參着。不存異心之由。所被獻起請文也。因幡前司廣元爲申次。而三州者。自西海連々進飛脚申子細。於事無自由之張行之間。武衛又被通懇志。廷尉者。動有自專計。今傳聞御氣色不快之由。始及此儀之間。非御許容之限。還爲御忿怒之基云々。 A D E " 2・5・7条
- 151、澁谷五郎重助不預關東御舉令任官事。可被申止召名之旨。重有沙汰。是父重國石橋合戰之時雖奉射武衛。依寬宥之儀被召仕之處。重助者猶令屬平家。背度々召畢。而平家赴城外之日留京都。從

義仲朝臣。滅亡之後爲_二廷尉專一_一之者。條々科被_レ優_レ精兵一事之處。結句令_二任官_一訖。旁不可_レ然之由有_二其沙汰_一。 D E " 2・5・9条

152、於_二志摩國麻生浦_一。加藤太光員郎從等擲_二取平氏家人上總介忠清法師_一。傳_二京師_一云々。 E " 2・5・10条

153、依_レ被_レ召_二進前内府_一之賞_上。武衛去月廿七日敍_二從二位_一給。除書今日到着。左典廩能保。所_レ被_レ執進_一也。近日可_二

參向_一之由被_二申送_一云々。 A E " 2・5・11条

154、廷尉使者_{景光}。參着。相_二具前内府父子_一令_二參向_一。去七日出京。今夜欲_レ着_二酒勾驛_一。明日可_レ入_二鎌倉_一之由申之。北

條殿爲_二御使_一。令_レ向_二酒勾宿_一給。是爲_レ迎_二取前内府_一也。被_レ相_二具武者所宗親_一。工藤小次郎行光等_{云々}。於_二廷尉者_一。無_二左右_一不可_レ參_二鎌倉_一。暫_二逗留_一其邊。可_レ隨_レ召_二之由_一。被_レ仰遣_一云々。小山七郎朝光爲_二使節_一云々。 A

D E " 2・5・15条

155、忠清法師於_二六條河原_一梟首_{云々}。 E

155、今日。前内府入_二鎌倉_一。(中略)此下向事。并同父子及殘黨罪條等事。二品屬_二經房卿_一。被_二奏聞_一之處。有_二其沙汰_一。

可_レ招_二下_一。又可_レ被_レ行_二死罪_一之旨。勅許既畢。但於_二時忠卿事_一者。可_レ被_レ寬_二死罪_一等之由_{云々}。是内侍所無爲御歸坐者。依_二彼卿功_一之故也_{云々}。 D E " 2・5・16条

156、卯剋。左典廩_{能保去七日与}到_レ着。直被_レ入_二營中_一。昨日極熱之間。聊有_二霍乱之氣_一。逗留之由被_レ申之_{云々}。 A D

E " 2・5・17条

157、京畿群盜等蜂起。敢難_レ禁之間。可_二相鎮_一之子細。今日被_レ經_二沙汰_一。先平氏家人等中遁_二出戰場_一之族。令_レ閑_二散

本在所。猶知行田園。剩橫行都鄙。爲事盜犯云々。 D E " 2・5・19 条

158、被差遣雜色六人於典膳大夫。近藤七等之許。是畿内雜訴成敗之間。久經三人。國平三人。可召仕之由。所

被仰付也。以此次。京畿之間可致沙汰條々。被遣御事書。其間。久經不可耽人之賄。國平不可

現僻事之趣。被載加之云々。 D E " 2・5・25 条

159、源藏人大夫賴兼申云。去十八日。盜人令推參禁裏。盜取畫御座御劔。藏人并女官等動搖求之。賴兼家人

武者所久實追奔于左衛門陣之外。生虜之。奉返置御劔於本所。件犯人被擄取之時。欲自戮之間。已半

死半生之由。只今有其告云々。如然之勇士殊可被加賞之由。二品被感仰。則取出劔。稱可與彼男

。賜賴兼。此人御氣色快然云々。 A D E " 2・5・27 条

160、去月廿日被下配流官符。上卿源中納言通親。參陣。頭弁光雅朝臣仰之云々。其交名目錄。今日到着鎌倉。(下略)

A E " 2・6・2 条

161、典膳大夫。近藤七等爲關東御使。帶院宣。巡檢畿内近國。成敗土民訴訟。然間。當時其誤不聞。二品

内々被感仰之處。尾張國有玉井四郎助重云者。本自爲先猛惡。令懷諸人愁之由謳歌。近日殊又有違

勅之科。仍件兩人爲尋沙汰。雖遣召文敢不應。還及謗言。于時久經等言上子細之間。爲俊兼奉行

。今日被仰助重云。違背綸命之上者。不可住日域。依令忽緒關東。不可參鎌倉。早可逐

電云々。 C D E " 2・6・16 条

162、池亞相賴盛。使者到着。去月廿九日。於東大寺邊任素懷。遂出家法名重蓮之由被申之。兼日所被申合二品

也云々。 A E

" 2・6・18条

163、卯剋。廷尉着近江國篠原宿。令橘馬允公長誅前内府。次至野路口。以堀弥太郎景光。梟前右金吾清

宗。此間。大原本性上人爲父子知識。被來臨于其所々。兩客共歸上人教化。忽翻怨念。住欣求淨土之

志云々。又重衡卿今日被召入花洛云々。抑前内府宗盛公。者。其身備公家御外戚。其官昇槐門内相府也。然而

朝敵罪名無據于宥歟。粗訪前蹤。成務天皇御宇三年正月。武内宿祢始任大臣。天智天皇七年十月十三

日。大織冠始任内大臣。武内与大織冠中間。大臣十六人歟。給以降。至于此内府。昇件職之臣一百三十三人。此内於内大臣者九人歟。其中非無

逢殃之例歟。所謂。用明天皇二年四月九日 帝崩御。七月日。上宮太子于時十六歲。誅大臣守屋。皇極天皇舒明天皇皇后。三年甲

辰六月。於大極殿。誅大臣入鹿。大臣蝦夷子。天武天皇元年七月廿三日。太政大臣大友皇子怖叛逆過自殺。同八

月廿七日。帝誅右大臣金連。同年左大臣赤兄配流。孝謙天皇御宇天平寶字元年丁酉七月十二日。右大臣豐

成被遷大宰權帥。同八年甲辰九月十九日。誅大師正一位仲磨。号惠美。桓武天皇御宇延曆元年壬戌六月。左

大臣魚名。左遷。醍醐天皇御宇昌泰四年辛酉正月廿五日。右大臣菅原公。遷太宰權帥。給。冷泉天皇御宇安和二

年己巳三月廿六日。左大臣高明。配同官。一條天皇御宇長德二年丙申四月廿四日。内大臣伊周又左遷帥。高

倉院御宇治承三年己亥十一月十七日。太政大臣師長配尾張國等是也。 E " 2・6・21条

164、重衡卿被遣東大寺。依衆徒申請也。 E " 2・6・22条

165、前内大臣并右衛門督清宗等首。源廷尉家人等持向六條河原。檢非違使大夫尉知康。六位尉章貞。信盛。公朝。

志明基。府生經廣。兼康等莅其所。請取之。懸獄門前樹矣。此事。頭右大弁光雅朝臣參陣。仰別當家通。別

當仰頭弁。々々傳大夫史隆職。々々傳廷尉知康云々。今日。前三位中將重衡於南都殞頸云々。是爲伽藍火災張本之間。衆徒強申請之云々。 E " 2・6・23条

166、佐々木三郎成綱者。平家在世之程者。奉背源家。於事現不忠。而彼氏族城外之後奉追從。遂去年一谷合戰。子息俊綱討取越前三位通盛訖。仍雖望其賞。令惡先非給之間。敢無御許容之處。屬侍從公佐朝臣。頻依愁申之。募子息之功。於本知行所者。可被沙汰付之由。有御契約云々。 A D

E

" 2・6・25条

167、橘右馬允。淺羽庄司等自京都歸參。去月廿一日前内府父子梟首事。同廿二日被遣彼首於獄門被渡重衡於南都事等。具申之云々。 A E " 2・7・2条

168、前筑後守貞能者。平家一族。故入道大相國專一腹心者也。而西海合戰不敗以前逐電。不知行方之處。去比忽然而來于宇都宮左衛門尉朝綱之許。平氏運命縮之刻。知少其時。遂出家遁彼与同之難訖。於今者隱居山林。可果往生素懷也。但雖山林。不蒙關東免許者難求之。早可申預此身之由懇望云々。朝綱則啓事之由之處。平氏近親家人也。爲降人之條。還非無其疑之由。有御氣色。隨而無許否之仰。而朝綱強申請云。屬平家在京之時。聞與義兵給事。欲參向之刻。前内府不免之。爰貞能申宥朝綱并重能有重等之間。各全身參御方。攻怨敵畢。是畜匪思私芳志。於上又有功者哉。後日若彼入道有企反逆事者。永可令斷朝綱子孫給云々。仍今日有宥御沙汰。所被召預朝綱也。 D E " 2・7・7条

169、神護寺文學房。以關東潤色。得院奏之便。去正月廿五日捧緣起狀。申下御手印之後。爲寄附寺領

於近國令煩_レ庄園之由有其聞。二品殊依_レ驚思食。釋門人爭現_レ邪狂哉。早可_レ停止如_レ然濫吹之由。可_レ下知給_上云々。俊兼奉_レ行之云々。 B D E " 2・7・15条

170、地震良久。京都去九日午剋大地震。得長壽院。蓮華王院。最勝光院以下佛閣。或顛倒。或破損。又閑院御殿

棟折。釜殿以下屋々少々顛倒。占文之所_レ推。其慎不_レ輕云々。而源廷尉六條室町亭。云_二門垣_一。云_二家屋_一。無_二聊類傾_一云々。可_レ謂_二不思議_一歟。 E " 2・7・19条

171、泰經朝臣消息到着。今月上旬之比。佛嚴上人夢中。赤衣人多現云。無_レ罪之輩爲_二平家緣坐_一。多以蒙_二配流之罪

。故有_二地震等_一云々。凡爲_二滅亡衆_一消_レ罪。去五月廿七日被_レ始_レ行不斷御讀經畢。然者。流罪中僧等事者。可_レ有_二免許_一歟之由。有_二其沙汰_一。相計可_レ令_二申宥_一給_上之趣也云々。 A D E " 2・7・29条

172、前備前守行家者。二品叔父也。而度々雖_レ被_レ差_レ遣于平氏軍陣。終依_レ不_レ顯_二其功_一。二品強不_レ令_二賞翫_一給_上。備

州又無_二進參向_一。當時半_二面西國_一。以_二關東之親昵_一。於_二在々所々_一。譴_二責人民_一。加之。挿_二謀反之志_一。緯既發覺云々。仍相_二具近國御家人等_一。早可_レ追_二討行家_一之由。今日被_レ下_二御書於佐々木太郎定綱_一云々。 D E " 2・8・4条

173、改元。改_二元曆二年爲_二文治元年_一。左大弁兼光撰_二進之_一。 E 文治 1・8・14条

174、二品被_レ進_二御書於京都_一。是葛上神湯兩庄事。可_レ被_レ下_二院廳御下文_一之由也。勅使河原後三郎爲_二使節_一上洛云々。 C D E " 1・8・28条

175、去十六日有_二小除目_一。其間書今日到來。源氏多以承_二朝恩_一。所謂義範伊豆守。惟義相摸守。義兼上總介。遠光信濃守。義

資越後守。義經伊与守等也。義經朝臣官職事。於以前者。二品類雖被傾申。至今度豫州事者。去四月之比。内々被付泰經朝臣畢。而彼不義等雖令露顯。今更不能被申止之。偏被任。勅定云々。其外五ヶ國事者。任人面々直懇望申之間。且募勲功之賞。且爲添二品眉目。殊所及嚴密御沙汰也云々。各可令知行國務之由云々。皆是當時關東御分國也。 A D E " 1. 8. 29 条

176、二品御素意偏以孝爲本之處。未盡水菽之酬。而平治有事。嚴閣天亡給之後。以每日轉讀法花經。被備沒後追福。而令極榮貴給之今。被企一伽藍作事。可安先考御廟於其地之由。存念御之間。潜被伺奏此由。法皇亦叡感動功之餘。去十二日仰刑官於東獄門邊被尋出故左典廐首。相副正清号鎌田二郎兵衛尉首。江

判官公朝爲勅使被下之。今日公朝下着。仍二品爲令奉迎之。參向固瀨河邊給。御遺骨者文學上人門弟僧等奉懸頸。二品自奉請取之還向。于時改以前御裝束。練色水干着素服給云々。 A D E " 1. 8. 30 条

176、又播磨國書寫山事。二品御歸依異于他。性空上人聖跡。不断法花經轉讀之靈場也。尤如舊可被興行之由。先度粗被仰泰經朝臣之許畢。重可被奏達之旨。今日内々及御沙汰云々。 D E " 1. 8. 30 条

177、梶原源太左衛門尉景季。義勝房成尋等。爲使節上洛也。南御堂供養導師御布施并堂莊嚴具。大略已調置京都爲奉行也。亦

平家緣坐之輩未赴配所事。若乍居蒙勅免者不及子細。遂又可被下遣者。早可有御沙汰歟之由被申之。(中略)去五月廿日前大納言時忠卿以下被下配流官符畢。而于今在京之間。二品鬱憤給之處。豫州爲件亞相聳。依思其好抑留之。加之引級備前々司行家。擬背關東之由。風聞之間如斯云々。 B C

D E

" 1. 9. 2 条

178、御堂供養導師事。被請申本覺院僧正公顯之處。領狀先畢。仍下向之間宿次雜事以下。今日被宛催御家人等

。因幡前司。齋院次官等奉行之。進發日雜事。佐々木太郎左衛門尉定綱可沙汰之云々。 D E

" 1・9・10条

179、景季。成尋等入洛。則申配流人々事云々。 E

" 1・9・12条

180、新藤中納言經房卿者廉直貞臣也。仍二品常令通子細給。於今者吉凶互被示合而黃門有望之由。内々被申之

間。二品令吹舉之給云々。 A D E " 1・9・18条

181、參河守範賴。使者參着。既出鎮西在途中。今月相構可入洛。八月中可參洛之由雖蒙嚴命。依風波之難

遲留。恐思云々。此使自京都先立之旨申之。而今申狀被重御旨之條。揭焉之由。被感仰矣。 A D

E " 1・9・21条

182、前大納言時忠卿下向配所能登國云々。 E " 1・9・23条

183、梶原源太左衛門尉景季自京都歸參。於御前申云。參向伊豫守亭。申御使由之處。稱違例無對面。仍此

密事以不能傳。歸旅宿。六條油小路。相隔一兩日。又令參之時。乍懸脇足被相逢。其躰誠以憔悴。灸有

數ヶ所。而試達行家追討事之處。被報云。所勞更不偽。義經之所思者。縱雖爲如強竊之犯人。直欲

糺行之。況於行家事哉。彼非他家。同爲六孫王之餘苗。掌弓馬。難准直也人。遣家人等許。輒難降

伏之。然者早加療治。平愈之後可廻計之趣。可披露之由云々者。二品仰曰。同意行家之間。搦虛病之

條已以露顯云々。景時承之。申云。初日參之時不遂面拜。隔一兩日之後有見參。以之案事情。一日不

食。一夜不眠者。其身必悴。灸者又雖何ヶ所。一瞬之程可加之。況於歷日數乎。然者一兩日中被相搦如然之事歟。有同心用意分不可及御疑貽云々。 A D E " 1・10・6条

184、可誅伊豫守義經之事。日來被凝群議。而今被遣土左房昌俊。此追討事。人々多以有辭退氣之處。昌俊進而申領狀之間。殊蒙御感仰。(中略)昌俊相具八十三騎軍勢。三上弥六家季。昌俊弟。錦織三郎。門真太郎。藍澤二郎以下云々。行程可爲九ケ日之由被定云々。 C D E " 1・10・9条

185、今日。佐々木三郎成綱号本 佐々木。本知行田地如元可領掌之旨。被書下之。但可從佐々木太郎左衛門尉定綱所堪云々。是雖非一族。佐々木庄總管領者定綱也。成綱分在其内之故歟。 D E " 1・10・11条

186、去十一日并今日。伊豫大夫判官義經潛仙洞。奏聞云。前備前守行家向背關東企謀反。其故者。可誅其身之趣。鎌倉二位卿所命。達行家後聞之間。以何過怠可誅無罪叔父哉之由。依含鬱陶也。義經頗雖加制止。敢不拘。而義經亦退平氏凶惡。令屬世於靜謐。是盍大功乎。然而二品曾不存其酬。適所計宛之所領等悉以改變。剩可誅滅之由有結搦之間。爲遁其難已同意行家。此上者可賜賴朝追討官符。無勅許。者兩人共欲自殺云々。能可宥行家鬱憤之旨有勅答云々。 D E " 1・10・13条

187、齋宮用途可被進納之由事。并太神宮御領伊雜神戶。鈴母御厨。沼田御牧。員部神戶。田公御厨等所々散在武士無其故押領事。可被尋成敗由事。院宣到來。兩條所被載別帟也。 A E " 1・10・15条

188、土左房昌俊。先日依含關東嚴命相具水尾谷十郎已下六十餘騎軍士。襲伊豫大夫判官義經六條室町亭。于時豫州方壯士等逍遙西河邊之間。所殘留之家人雖不幾。相具佐藤四郎兵衛尉忠信等。自開門戶。懸出

責戰。行家傳聞此事。自後面來加。相共防戰。仍小時昌俊退散。豫州家人等走散求之。豫州則馳參仙洞。奏無爲之由云々。 D E " 1・10・17条

189、義經言上事。可有勅許否。昨日於仙洞有議定。而當時義經外無警衛之士。不蒙勅許者。若及

濫行之時。仰何者可被防禦哉。爲遁今之難。先被宣下。追被仰子細於關東。二品定無其憤歎之由治定。仍被下宣旨。上卿左大臣經宗云々。(下略) E " 1・10・18条

190、法皇御護御劔去年紛失。去比江判官公朝求得之。令献上之。風聞之間。今日二品以御書被感仰公朝云々。是

以左典厩太刀所被奉獻也。号吠丸。蒔鳩塙云々。先考御重寶再備朝家御護之条。依爲御眉目。今及此儀云々。 B D E " 1・10・19条

191、御堂供養導師本覺院僧正坊公顯下着。所相具廿口龍象也。參河守範賴朝臣相伴參着云々。彼朝臣今夜即參二品

御所。申日來事。去月廿七日自西海入洛云々。於鎮西尋取仙洞重寶御劔鵜丸。今度進上訖。是平氏黨類壽永二年城外之刻。清經朝臣自法住寺殿取御劔二腰。其隨一也云々。又唐錦十端。唐綾絹羅等百十端。(中

略)米千石。牛十頭等。同進院之由申之。(下略) A E " 1・10・20条

192、今日。源藏人大夫賴兼自京都參着。去五月。家人久實擲進犯人。依件賞。去十一日敍從五位上。久

實又賜兵衛尉。而讓息男久長之由申之。又御堂供養願文到着。草式部大夫光範。清書右少弁定長也。因幡守

廣元於御前讀申之云々。 A E " 1・10・21条

193、左馬頭能保家人等自京都馳參。申云。去十六日。前備前守行家追捕祇候人之家屋。擲取下部等。結句行家移

住北小路東洞院御亭云々。又風聞說云。去十七日。土佐房合戰不成其功。行家義經等申下二品追討 宣旨云々。二品曾不令動搖給。御堂供養沙汰之外無他云々。 A D E " 1・10・22条

194、山内瀧口三郎經俊僕從自伊勢國奔參。申云。伊豫守稱 宣旨。被催近國軍兵。此間。爲誅經俊。去十

九日被圍守護所。定不遁歟云々。仰曰。此事非實證歟。經俊無左右非可被度于人^上云々。經俊者

所被補置勢州守護也。 A D E " 1・10・23条

195、土佐房昌俊并伴黨三人。自鞍馬山奧。豫州家人等求獲之。今日於六條河原梟首云々。 E " 1・10・26条

196、爲征豫州備州等之叛逆。二品今日上洛給。於東國健士者直可被具之。山道北陸之輩者經山道可參會

于近江美濃等所々之由。被廻御書。(中略)已尅令進發給。 C D E " 1・10・29条

197、豫州已欲赴西國。仍爲令儲乘船。先遣大夫判官友實之處。有庄四郎者。元与州家人。當時不相從。今日於途中相逢

友實問云。今出行何事哉。友實任實答事由。庄僞示合如元可屬与州之趣。友實又稱可傳達其旨於

豫州。相具進行。爰庄忽被誅戮廷尉訖。件友實者越前國齋藤一族也。垂髮而候仁和寺宮。首服時屬平家

。其後向背相從木曾々々被追討之比。爲豫州家人。遂以如此云々。 E " 1・11・2条

198、前備前守行家。櫻威甲。伊豫守義經赤地錦直垂。萌黃威甲。等赴西海。先進使者於仙洞。申云。爲遁鎌倉譴責。零落鎮

西。最後雖可參拜。行粧異躰之間。已以首途云々。前中將時實。侍從良成。義經同母弟。一條大藏卿長成男。伊豆右衛門尉有綱。堀

弥太郎景光。佐藤四郎兵衛尉忠信。伊勢三郎能盛。片岡八郎弘經。弁慶法師已下相從。彼此之勢二百騎歟云々。 E

199、關東發遣御家人等入洛。二品忿怒之趣。先申左府云々。今日。豫州至河尻之處。攝津國源氏多田藏人大夫行綱。豐嶋冠者等遮前途。聊發矢石。豫州懸敗之間。不能挑戰。然而与州勢多以零落。所殘不幾云々。 E

" 1. 11. 5条

200、行家。義經於大物濱乘船之刻。疾風俄起而逆浪覆船之間。慮外止渡海之儀。伴類分散。相從豫州之輩纔四人。所謂伊豆右衛門尉。堀弥太郎。武藏房弁慶并妾女字靜。一人也。今夜一宿于天王寺邊。自此所逐電云々。今日。可尋進件兩人之旨。被下院宣於諸國云々。 E

" 1. 11. 6条

201、二品召聚軍士。爲聞食定京都事。逗留黃瀬河宿給之處。去三日行家。義經出中國落西海之由。有其告。但件兩人賜院廳御下文。四國九國住人宜從兩人下知之旨被載之。行家補四國地頭。義經補九州地頭之故也云々。 A E

" 1. 11. 7条

201、今度事。云宣旨。云廳御下文。被任逆徒申請畢。依何被弃捐乎度々勲功哉之由。二品頻鬱陶給。而可被下彼宣旨否及御沙汰之時。右府頗被扶持關東之旨。風聞之間。二品欣悅給云々。 B D E

" 1. 11. 7条

201、今日義經被解却見任。伊与守檢非違使云々。 E

" 1. 11. 7条

202、大和守重弘。一品房昌寬等爲使節自黃瀬河上洛。行家義經等事所被鬱申也。又彼等已落都之間。止御上洛之儀。今日令歸鎌倉給云々。 C D E

" 1. 11. 8条

203、還「御鎌倉」之處。左典廩被「申」云。只今都人傳言云。義經反逆間可「被」下「追討」。宣旨「否事」。被「仰」合左右內府

并帥納言經房等「之處」。右府意見首尾殊被「盡」理。皆是豈關東引級之詞也。內府是非不「被」申「分明之儀」。左府早

可「被」宣「下」之由被「申切」。帥納言再三「傾」申之「云々」。又刑部卿賴經。右馬權頭業忠等者。其志偏有「豫州腹心」。廷

尉知康同前之由「云々」。 A E " 1. 11. 10 条

204、義經等反逆事。任「申請」被「宣」下「畢」。但追可「被」誘「關東」之由。在「叡慮」之處。二品之鬱憤興盛之間。日來

沙汰之趣。已相違畢。爰義經行家巧「反逆」。赴「西海」之間。於「大物濱」漂沒之由雖「有」風聞。亡命之條非「無」所

疑。早仰「有勢之輩」。尋「搜山林」可「召」進其身之由。被「下」院宣於畿內近國々司等「云々」。 D E " 1. 11. 11 条

205、今日。河越重賴所領等被「收公」。是依「爲」義經緣者「也」。其內。伊勢國香取五ヶ郷。大井兵三次郎實春賜「之」。其

外所者。重賴老母預「之」。又下河邊四郎政義同被「召」放所領等。爲「重賴」之故也。 D E " 1. 11. 12 条

206、大藏卿泰經朝臣使者參着。依「怖」刑欺。直不「參」營中。先到「左典廩御亭」。告「被」獻「狀於鎌倉殿」之由。又

一通獻「典廩」。義經等事。全非「微臣結構」。只「怖」武威「傳奏許也」。及「何樣遠聞哉」。就「世上浮說」。無「左右不

鑽」之樣。可「被」宥申「云々」。典廩相「具使者」。達「子細給」。府卿之狀披覽。俊兼讀「申」之。其趣。行家義經謀叛

事偏爲「天魔所爲欺」。無「宣」下「者參」宮中「可」自「殺」之由。言上之間。爲「避」當時難。一旦雖「似」有「勅許

」。曾非「叡慮之所」。與「云々」。是偏傳「天氣」欺。二品被「投」返報「云」。行家義經謀叛事。爲「天魔所爲」之由被「

仰」下。甚無「謂事候」。天魔者爲「佛法」成「妨」。於「人倫」致「煩」者也。賴朝降「伏數多之朝敵」。奉「任」世務於君「之

忠。何忽變「反逆」。非「指叡慮」被「下」。院宣「哉」。云「行家」。云「義經」。召取之間。諸國衰弊。人民滅亡歟。仍日本第一大天狗者。更非「他者」歟云々。 A D E " 1. 11. 15条

207、豫州籠「大和國吉野山」之由。風聞之間。執行相「催惡僧等」。日來雖「索」山林。無「其實」之處。今夜亥剋。豫州妾

靜自「當山藤尾坂」降到「于藏王堂」。其牀尤奇恠。衆徒等見「咎之」。相具向「執行坊」。具問「子細」。靜云。吾是九

郎大夫判官与守今伊。妾也。自「大物濱」豫州來「此山」。五ヶ日逗留之處。衆徒蜂起之由依「風聞」。伊豫守者假「山臥」之姿

「逐電訖」。于「時与」數多金銀類於我。「付」雜色男等「欲」送「京」。而彼男共取「財寶」。弃「置」于深峯雪中之間。如此

迷來云々。 E " 1. 11. 17条

208、就「靜」之說。爲「搜」求豫州。吉野大衆等又踏「山谷」。靜者。執行頗令「憐愍」。相勞之後。稱「可」進「鎌倉」之由

云々。 E " 1. 11. 18条

209、伊豫守義經。前備前守行家等出「京都」。去六日於「大物濱」乘「船解」纜之時。遭「惡風」漂没之由。及「傳聞」之處。八

鳴冠者時清同八日歸「京畢」。兩人未「死」之旨。言上云々。次讚岐中將時實朝臣。乍「爲」流人身「潜在」洛。而今度相「具

義經」。赴「西海」。緯不「成」兮伴黨離散之刻。歸京之間。村上右馬助經業舍弟禪師經伊生「虜」之云々。兩條達「叡聽」

畢之由。有「其聞」云々。 E " 1. 11. 20条

210、豫州凌「吉野山深雪」。潜向「多武峰」。是爲「祈」請大織冠御影云々。到着之所者。南院内藤室。其坊主号「十字坊」

之惡僧也。賞「翫」豫州云々。 E " 1. 11. 22条

211、二品爲「國土泰平」。被「奏」御願書於諸社。先太神宮分。被「付」生倫神主。其外近國一宮云々。 D E

212、今日。北條殿入洛云々。行家義經叛逆事。二品鬱陶之趣。帥中納言具以奏達。仍今日條々有沙汰。慥可尋索之由被宣下。其狀云(下略) D E " 1. 11. 24条

213、大藏卿泰經朝臣籠居。是義經申下追討宣旨事。依爲彼朝臣傳奏。源二位卿殊鬱申之趣。達叡聞之間。勅定如此云々。泰經同意行家義經謀叛事。載書狀挾竹枝。昨日立帥中納言庭。黃門乍驚披見之。付定長朝臣備奏覽云々。 D E " 1. 11. 26条

214、補任諸國平均守護地頭。不論權門勢家庄公。可宛課兵糧米段別五升之由。今夜。北條殿、謁申藤中納言經房卿云々。 D E " 1. 11. 28条

215、北條殿所被申之諸國守護地頭兵糧米事。早任申請可有御沙汰之由。被仰下之間。帥中納言被傳勅於北條殿云々。 D E " 1. 11. 29条

215、又多武峯十字坊相談豫州云。寺院非廣。住侶又不幾。遁隱始終不可叶。自是欲奉送遠津河邊。彼所者人馬不通之深山也者。豫州諾之。大欣悅之間。差惡僧八人送之。謂惡僧者。道德。行德。拾悟。拾禪。樂達。樂圓。文妙。文實等也云々。 E " 1. 11. 29条

215、今日。二品被定驛路之法。依此間重事上洛御使雜色等。伊豆駿河以西。迄于近江國。不論權門庄々。取傳馬。可騎用之。且於到來所可沙汰其糧之由云々。 D E " 1. 11. 29条

216、平氏族相漏誅戮配流二罪之輩多以在京都。又前中將時實。去夏雖含配流宣下不向配所。今度同意

義經赴西海之由風聞。仍是彼早尋取之。可召預在京御家人之由。今日被仰遣北條殿。去月廿五日入洛云々。 B

D E

" 1・12・1条

217、今度同意行家義經之侍臣并北面輩事。具達關東。仍可被申行罪科之由。注交名於折紙。被遣帥中納

言。其上。殊結構衆六人可申請之旨。被觸仰北條殿。謂六人者。侍從良成。少内記信康。伊与寺右筆。 右馬權頭業

忠。兵庫頭章綱。大夫判官知康。信盛。左衛門尉信實。時成等也。 A D E " 1・12・6条

217、又右府有引級關東之間。依令露中丹。被献一通書云々。廣元。善心。俊兼。邦通等沙汰此間事云々。院

奏折紙狀云。(下略) A B D E

" 1・12・6条

218、雜色濱四郎爲御使。帶院奏折紙狀并被献右府御書等上洛。左典廡下部黒法師丸爲京都案内者被相

副之。有義經同心間之侍臣事。被申子細之中。民部卿成範卿者爲右府御縁者之間。被除折紙云々。此

間事等。京都巨細者。大畧以被示合左典廡并侍從公佐等治定云々。彼公佐朝臣者。二品御外舅北條殿外

孫法橋全成息女子也。也。旁以有其好之上。心操太穩便。不背御意之故。今度則令舉申右馬權頭給云々。 C D E

" 1・12・7条

219、吉野執行送靜於北條殿御亭。就之。爲搜求豫州。可被發遣軍士於吉野山之由云々。 E

" 1・12・8条

220、北條殿飛脚自京都參着。被注申洛中子細。謀反人家屋等先點定之。同意惡事之輩。當時露顯分。不逐

電之樣廻計畧。此上又申帥中納言殿畢。次豫州妾出來。相尋之處。豫州出都赴西海之曉。被相伴至大

物濱。而船漂倒之間。不遂渡海。伴類皆分散。其夜者宿天王寺。豫州自此逐電。于時約曰。今一兩日於當所可相待。可遣迎者也。但過約日者速可行避云々。相待之處。送馬之間乘之。雖不知何所。經路次。有三二日。到吉野山。逗留彼山五ケ日。遂別離。其後更不知行方。吾凌深山雪。希有而着藏王堂之時。執行所虜置也者。申狀如此。何樣可計沙汰乎云々。 A E " 1・12・15条

221、小松内府息丹後侍從忠房。後藤兵衛尉基清預之。亦北條殿任關東仰。屋嶋前内府息童二人。越前三位通盛卿息一人被搜出之。於遍照寺奥。大覺寺北菖蒲澤。虜權亮三位中將惟盛卿嫡男。代令乘輿被向野地之處。神護寺文學上人。稱有師弟之昵。申請北條殿云。須啓子細於鎌倉。待其左右之程。可被宥置云々。前土佐守宗實。府息。左府猶子也。是又被申二品。暫可有免許之由被仰遣。依之。兩人者被閣之。於屋嶋内府息等者梟首云々。 D E " 1・12・17条

222、帥中納言爲御使。可被下向之由。今日風聞關東。已叡慮治定云々。是行家義經之間事。條々被奏聞之趣。爲有勅答歟。二品殊令恐申給。可言上事用使者并書狀。被仰下事又披奉書散鬱念。如卿相爲御使被凌長途之條。尤可慎之由被申之云々。 B D E " 1・12・23条

223、文學上人弟子某。爲上人飛脚參申云。故維盛卿嫡男六代公者。爲門弟之處。已欲被梟罪。彼黨類悉被追討畢。如此少生者。縱雖被赦置有何事哉。就中祖父内府於貴邊被盡芳心。且募彼功。且被優文學。可預給歟云々。彼者爲平將軍正統也。雖少年爭無成人之期哉。尤難測其心中。但上人申狀又以非可默止。進退谷之由被仰云々。使者僧懇望及再三之間。暫可奉預上人之旨。被遣御書於北條殿云々。 A

D E

224、前中將時實朝臣同意豫州。赴西海之間。於路次生虜之。今日武者所宗親相具所參向也。 A E

" 1. 12. 24条

224、又左府御書到來。是故小松内府末子前土佐守宗實者。自幼齡當初為猶子。而依彼餘族。可有斷罪之由風

" 1. 12. 26条

聞。狂欲申請之云々。可存其旨之趣被報申云々。 A D E

" 1. 12. 26条

225、北條殿御使參着。去十七日。被下解官宣旨。大外記師尙送之。則奉獻其狀云々。《下略》 A E

" 1. 12. 26条

226、前中將時實朝臣為流人不赴配所。剩同道豫州之間。已有重疊之過。仍令生虜被召下。在美濃藤次

" 1. 12. 29条

安平西御門家矣。被問子細之處。無分明陳謝。承伏之故歟。然而於關東。依難被定刑。今日可被

返進京都之由。治定云々。 D E

" 2. 1. 5条

226、亦帥中納言為御使可有參向之由有其聞。非指子細者。可令留給歟。又去冬註折紙被申條々。所

詮可在聖斷之旨。所被示遣也。 B D E

" 2. 1. 5条

227、雨降。北條殿飛脚自京都參着。御使雜色鶴二郎等去冬十二月廿六日入洛。令申給之趣。同廿七日有其沙汰。解

官配流等。藏人宮内權少輔親經宣下。別當家通。藤宰相雅長。書除目云々。《下略》 A E

" 2. 1. 7条

228、高野山衆徒。依有訴申旨。北條殿令加下知給上。為止寺領狼藉。被差遣雜色云々。《下略》 E

" 2. 1. 9条

229、攝津國貴志輩事。所_レ被_レ加_二御家人_一也。但止_二關東番役等_一。可_レ勤_二左馬頭能保_一。宿直_一之由。被_レ定_二云々_一。 D E

" 2 · 1 · 10 条

230、高瀨庄事。不可_レ交_二武家沙汰_一之由。雖_レ被_レ仰_下。北條殿注_二所存於折紙_一。被_レ付_二帥中納言_一云々。高瀨庄事。雖_レ令_レ究_二濟兵狼米_一候_上。於_二地頭惣追捕使_一者被_レ補候畢。但於_二狼藉者_一可_レ令_二停止_一候也。 D E

" 2 · 1 · 11 条

231、去冬下向_二左府御使_一。今日歸洛。依_二御報遲々_一也。然而非_レ無_二使節之驗_一云々。是被_レ下_二官符於豫州等_一事。依_二左府計議_一之由。風聞_一之旨。頗以不快。而不_レ被_レ宣_下者。行家義經於_二洛中_一企_二謀反_一歟。給_二官符_一赴_二西海_一之故。君臣共安全。是何被_レ處_二不義_一哉由被_レ申_下之。二品承披由被_レ諾申_一云々。 A B D E

" 2 · 1 · 17 条

232、神祇大副大中臣公宣。少副爲定等使者。此間參任。今日歸國。是去年十一月九日。祭主神祇權大副親俊卿於_二伊勢國_一薨逝。仍各捧_二欸狀_一。望_二祭主闕_一之處。神宮奉行親宗卿。光雅朝臣等就_レ賄。同月廿五日被_レ補_二能隆朝臣_一。訖。是所_レ被_レ超越_一也。件兩奉行者。与_二同謀反_一之凶臣也。其奸濫已顯露。神慮不快歟。聖断依違。盍_レ被_レ諫奏_一哉。早可_レ令_二奏聞_一給_二由載_一之。光倫神主執_レ申_下之。仍被_レ進_二此狀於京都_一者。但如_レ此事。二品依_レ不知_二委細_一。只爲_レ散_二人鬱憤_一執申許也。於_レ爲_二非據_一者。不可_レ有_二勅裁_一。難_二執申_一之由被_レ申_下之。 A D E

" 2 · 1 · 19 条

233、法皇今年六十御寶算也。仍可_レ被_レ行_二御賀_一之旨。爲_レ被_レ申_下行之。上絹三百疋。國絹五百疋。麿牙等。此外斑幔六十帖。所_レ令_レ進_二上京都_一也。又去年被_レ言_二上條々_一。悉_レ以_レ被_レ施行_一之上者。流刑等事。早可_レ被_レ行_二之由被_レ申_下之。大

夫屬入道令執沙汰此間事云々。 D E " 2・1・21条

234、日吉塔下彼岸衆訴訟事。有其沙汰。非二品一方御成敗之間。今日所被執申京都也。《下略》 D E " 2・1・24条

235、攝錄事。早可被宣下之由。二品令申京都給。當執柄依伊豫守義經謀逆事。有雜說等之故也云々。 D " 2・1・26条

E

236、豫州在所于今不聞。而猶有可被推問事。可進靜女之由。被仰北條殿云々。又此事尤可有沙汰由。付

經房卿令申給云々。 D E " 2・1・29条

237、今日。北條殿於六條河原。刎群黨十八人首。凡如此犯人者不可渡使廳。直可處刎刑之由云々。 E " 2・2・1条

238、左典廐能保。歸洛。相伴室家姫君一人等。去夜。二品被遣御馬十足以下餞物。御臺所令進長絹三百足於室

家并姫君給。又左典廐昇進事。及同室家可爲禁裏御乳母歟事。二品所令執申給也。次爲御共被差進

當參在國御家人等。所謂岩原平三。《中略》勝田三郎等也。此外宿次兵士等。兼日被定下云々。典廐御在鎌倉

者。諸事被申合間。雖爲至要。當時於京都。巨細無人于媒介。仍令忿給。又神佛事。并禁裏仙洞等

事。節會除目及豫州事。可被觸申于議卿事等。注條々具示付給云々。 D E " 2・2・6条

239、北條殿飛脚自京都到來。持參院宣。御熊野詣事。定長奉書如此。今春中欲令遂御。々山供米等可被

沙汰進之由云々。則所被副進左少弁奉書也。是去三日戊剋。自帥中納言之許。到來于北條殿。今月中可

執進御請文之旨。嚴密被相觸之間。不經日時。令獻上之由。被載彼狀云々。(下略) A E

" 2・2・9条

240、當番雜色自京都參着。進北條殿狀等。靜女相催可送進。又正月廿三日。同廿八日。洛中群盜蜂起。則擲

獲之。去一日。十八人梟首畢。經數日者。似寬刑之間。不及召渡使廳。直致沙汰云々。 A E

" 2・2・13条

241、豫州隱住多武峯事風聞。依之彼師壇鞍馬東光坊阿闍梨。南都周防得業等。有同意之疑。可被召下之

云々。 B D E " 2・2・18条

242、弓削庄兵糧米事。可停止之由。為帥中納言奉。被仰下北條殿。召問沙汰者。可令言上之由。今日被

進請文。而無左右不成免判。頗以稱可有御不審。黃門加斟酌。暫不奏御返事之由云々。 E

" 2・2・21条

243、前大史隆職宿祿。為不忠逆臣所職改替之身也。猶押領官知行保。令抑留公要重書等由事。有其沙汰。可

被申京都云々。大夫史廣房內々訴申二品之故也云々。 A D E " 2・2・23条

244、北條殿自去年在京。執行武家事之間。於事賢直。貴賤之所美談也。而或不善之者。稱北條殿下知。欲

押取七條細工證。就訴申。職事被尋下之。仍北條殿殊驚駭。今日則陳謝之云々。(下略) E

" 2・2・25条

245、安達新三郎為飛脚上洛。被申條々。可被下攝政詔於右府之事在其內歟。右府者法性寺殿三男也。和漢才

- 智頗令越人給云々。當攝政殿本自爲平氏緣人。關東有御隔心之處。去年義經顯逆心之時給追討。宣旨偏依彼御議奏之由風聞。仍可被舉申之趣。内々被啓右府。而不可叶時宜之旨。右府雖有御猶豫。遂被申之歟云々。又北條殿早可被歸參之由被仰遣。於關東事可有御談合事有數。洛中守護者已可被仰左典廐之故也。 C D E
- 246、被申京都條々有其沙汰。治定云々。(下略) D E
- 247、所衆中原信房者。依爲造酒正宗房孫子。殊被優賞。今日賜近江國善積庄。是雖爲圓勝寺領。致信房所望之上。爲被酬宗房舊勞如此云々。 D E
- 248、諸國被補惣追捕使并地頭内七ヶ國分。北條殿被拜領畢。而深存公平。去比上表地頭職。其上重被付書狀於帥中納言。黃門又付定長朝臣被奏聞之。(下略) D E
- 249、今南。石負庄兵糧米可停止之由。昨日帥中納言以使者被傳院宣於北條殿之間。今日所被成進下文也。 E
- 249、亦北條殿言上事。奏聞之由。左少弁所被示送于帥中納言之狀。黃門遣北條殿云々。(下略) E
- 249、今日。故前宰相光能卿後室比丘尼阿光去月進使者於關東。相傳家領丹波國栗村庄爲武士被成妨由訴申之。仍早可停止濫吹之趣被仰云々。(下略) A D E
- 249、又南都大佛師成朝。爲奉造立勝長壽院御佛。被召下之處。傍輩佛師以此下向之隙。競望當職之

由。歎申之間。取彼狀令舉申給。其狀云。(下略) A D E " 2・3・2条

250、主水司供御新丹波國神吉。依補地頭職。有事煩之由。依訴申之。可被免除之旨。被遣御消息於北條殿。因幡前司沙汰之。 A D E " 2・3・4条

251、召靜女。以俊兼盛時等。被尋問豫州事。先日逗留吉野山之由申之。太以不被信用者。靜申云。非山中。當山僧坊也。而依聞大衆蜂起事。自其所以山臥之姿。稱可入大峯之由入山。件坊主僧送之。我又慕而至。一鳥居邊之處。女人不入峯之由。彼僧相叱之間。赴京方之時。在共雜色等取財寶。逐電之後。迷行于藏王堂云々。重被尋坊主僧名。申忘却之由。凡於京都申旨。与今口狀頗依違。任法可召問之旨。被仰出云々。又或入大峯云々。或來多武峯後。逐電之由風聞。彼是間定有虛事歟云々。 A B D E " 2・3・6条

252、北條殿被申七ヶ國地頭上表事。兵糧米事。沒官所々事。已經奏聞畢之由。左少弁遣奉書於帥中納言。彼卿又送其狀於北條殿云々。(下略) E " 2・3・7条

253、源藏人大夫賴兼愁申丹波國五箇庄事。二品可令執申京都給之由。及御沙汰。是入道源三位卿賴政。家領也。治承四年有事之後。屋嶋前内府知行之。今度沒官領内被付賴兼。而可爲仙洞御領之由有仰歟。 A D E " 2・3・8条

254、伊勢太神宮領地頭等之中。乃貢已下事。可致精勤之由。日來有其沙汰。今日被施行之。御信仰異他故也。(下略) D E " 2・3・10条

255、小中太光家爲使節上洛。是左典廐賢息。二品御外姪。依可令加首服給。被獻御馬三疋。長持被納砂金絹等。二掉之故也。 C D E " 2・3・12条

256、可搜求行家義經事。宣旨到來關東。其詞云。(下略) A E " 2・3・14条

257、伊豫前司義經橫行所々。今日。參大神宮。稱爲所願成就。奉金作劍。此太刀。度々合戰之間。所令帶之也云々。 E " 2・3・15条

258、山城介久兼爲使節上洛。被仰伊勢國神領顛倒奉行等事。又諸國兵糧米催事。漸可被止之由。被仰北條殿。是及狼藉之旨。預所有訴之故也。依之可被奏達此趣之旨。被申帥中納言許云々。(下略) C D E " 2・3・16条

259、諸國兵糧米催事。於今者可停止之由。被宣下云々。是依爲神社佛寺權門勢家。凡人庶愁歎及所々訴之間。度々被經御沙汰。可令停止之旨。被申京都已畢云々。 D E " 2・3・21条

259、又法皇御灌頂用途事。可被沙汰之由。被仰下已訖。仍今日。爲俊兼奉行。所被宛御領也。現米千石。駿河上総兩國分。白布千反。國絹百疋。散在御領分。 D E " 2・3・21条

260、北條殿可歸關東之由。奏聞訖。在京頻叶叡慮之間。雖令拘留御上。含二品御旨已欲歸國。仍洛中事可示付何人哉之由。有勅問。付帥中納言。被奏御返事云々。(下略) D E " 2・3・23条

261、前攝政殿家領可被付當攝錄御方歟之由。二品内々有御存案。前攝政家聞此事。以狀被愁奏。仍今日。帥中納言被仰聞其子細於北條殿。早可申達關東之由。被申御返事云々。 D E

261、又播磨國守護人等事。在廳注文二通。并景時代官注文等。爲同人奉行被下之。可施行之由云々。 E " 2・3・24条

261、北條殿近日依可被歸參關東。公家殊被惜思食之由。帥中納言被傳勅旨。是則亦公平忘私之故也。且其身雖令下向。差置穩便代官。可令執沙汰地頭等雜事之旨。度々被仰下之處。敢無其仁。重一旦勅定。差置非器代官等。若有現不當之事者。還可有其恐欺之由。固辞及再三。但洛中警衛事者示付平六時定。内々二品仰也云々 D E " 2・3・24条

262、以紀伊權守有經爲御使。被宛申丹波國篠村庄於松尾延朗上人。本是三位中將重衡卿所領也。後爲義經之勸賞地也。而豫州奉寄附上人。々々雖固辞。依不等閑。領納之後。爲令富慰民戶。止乃貢。勸百姓。令唱弥陀寶号。隨其數反出返抄用所濟云々。豫州逐電以後。可返上由被申之處。本自豫州者傳領之主也。爲本主有寄奉志之由。被仰遣畢云々。(下略) C D E " 2・3・26条

263、北條殿已欲進發關東。仍爲警衛洛中。撰定勇士被差置之。其交名注載折紙。所付進帥中納言也。 E " 2・3・27条

264、去年依關東訴被處罪科人々事。可被宥刑之由。京都頗有秘計沙汰。就中。前大藏卿泰經殊歎息。以專使内々示送因幡前司廣元許。仍廣元廻芳情。申止遠流畢。且取二品嚴命。投返報云々。(下略) A

D E

" 2・3・29条

265、前刑部卿賴經。前大藏卿泰經等被_レ下_二流刑官符_一間事。不_レ誤之由。兩人頻陳謝。泰經朝臣事。可_レ被_レ免_二歸京_一之

旨。可_レ被_レ申_二京都_一之由云々。 D E " 2・4・2条

265、又北面之輩誇_二朝恩有_二驕逸之思_一。殊加_二御誠_一。可_レ召仕_二之由云々。 D E " 2・4・2条

266、右兵衛尉長谷部信連者。三條宮侍也。宮依_二平家讒_一。蒙_二配流官符_一御之時。廷尉等乱_二入御所中_一之處。此信連有

_二防戰大功_一之間。宮令_レ遁_二三井寺_一御訖。而今爲_レ抽_二奉公_一參向。仍感_二先日武功_一。態爲_二御家人_一召仕之由。被_レ仰

_二遣土肥二郎實平_一于時在
西海。之許云々。 D E " 2・4・4条

267、帥中納言去月十七日私書狀到_二來鎌倉_一。盛時披_二露之_一。其詞云。(下略) A E " 2・4・5条

268、法皇御灌頂用途等事。爲_二京進_一被_レ出_二解文_一。爲_二俊兼善信等奉行_一。差_二進御使雜色_一。(下略) C D E " 2・4・7条

269、北條殿自_二京都_一參着。京畿沙汰間事。條々有_二御問_一。亦被_レ申_二子細_一。就_二中_一。注_二謀反輩知行所々_一。可_レ檢_二知其

地_一之由雖_二言上_一。不_レ被_レ聽_二之_一。次前攝政殿被_レ仰_二家領等難_一被_レ付_二渡當執柄方_一由事。加_二潤色詞_一被_レ計_二申_一。次播

磨國守護人妨_二國領_一由事。在_二廳注文_一。景時代官狀雖_レ被_レ下_二之_一。未_レ申_二切是非_一。次今南。石負兩庄并弓削杣兵

糧事。度々被_レ下_二院宣_一之間。早可_レ停止_二之由_一。捧_二請文_一下向畢。凡條々。去月廿四日蒙_二傳_一奏_二之由_一。每事不

違_二二品御命_一云々。 A D E " 2・4・13条

270、小中太光家自_二京都_一歸參。左典廩被_レ献_二御返報_一云々。去月廿五日。賢息首服。理髮右中將實教朝臣。加冠内府

云々。 A E " 2・4・15条

271、攝錄御家領等事。二品令申京都給。其趣。前攝政殿。稱白河殿領。除氏寺社領等外者。皆御押領云々。尤

以不便次第候。攝政家爭無御家領候哉。平家在世之時。号中攝政殿後室白河殿悉所領掌候也。松殿纒氏寺

領計知行給。其時事極無道邪政候哉。代々家領。新攝政家可令領掌給候。只知足院殿御附屬高陽院之御

庄五十餘所云々。以其。前攝政家可有御領掌候歟。最任道理可被仰下候歟者。 D E

” 2・4・20条

271、又今日行家義經猶在洛中。叡岳惡僧等同意結構之由。有其聞之間。殊可被申沙汰歟。不然者。差登勇士

於彼山。可搜求件惡僧等之由。被仰遣帥中納言許。依之。源刑部兼爲賴元者新中納言知盛卿侍。故爲長親者也。爲使節上洛

云々。 B C D E ” 2・4・20条

272、當時京中嗷々。更不相鎮。被獻御消息於内府已下議奏公卿等。是抽兢戰之誠。可令興行善政給由

也。其狀云。(下略) D E ” 2・4・30条

273、前對馬守親光可被還任之由。重所被申京都也。此親光在任之間。平氏下向鎮西。可參向屋嶋之由雖

相觸。不從。(中略)彼氏族滅亡後。依二品仰。無爲上洛。其翔已大功也。(中略)依賀茂齋院成功。賜重遷任

宣旨。以此次可拜任尋常國之趣。内々望二品御舉達。而無闕國。如元可拜任彼嶋之由。被奏聞

之。以除目之次可被任之旨。勅答畢。而去春除目之時。他人拜任云々。是依廷尉公朝訴被閣之。公朝就

鎌倉内儀。支申之趣發言。然而不帶證文。親光捧嚴密御消息者也。爭有御改變乎。除日後朝。周章所失

度也。早重可有御内舉之由。頗令愁申之間。及此沙汰云々。 A D E ” 2・5・2条

- 274、前大藏卿。前刑部卿等罪科事。於今者可被免歸京之由。去三月被奏聞畢。叡慮頗快然云々。仍左典廩被執進職事奉書。今日所到來也。(下略) A D E " 2・5・9条
- 275、紀伊刑部兼爲頼爲飛脚自京都到着。所持參院宣也。以夜繼日可進之旨。帥中納言被觸仰之由云々。北條殿被歸關東之後。洛中之狼藉不可勝計。去月廿九日夜。上下七ヶ所群盜乱入云々。(下略) A E " 2・5・13条
- 276、廷尉公朝自京都參着。所帶院宣等也。以知家宿所爲旅館云々。 A E " 2・5・14条
- 277、北條殿雜色自京都參着。去六日左典廩室家女子御平產之由。申之云々。典廩被申云。可鎮世上嗷々之由。去七日蒙院宣云々。 A E " 2・5・15条
- 278、前攝政御家領事。去月之比。被下委細勅答。帥中納言殿奉書今日所到來鎌倉也。(下略) A E " 2・5・18条
- 279、能保朝臣。平六僮仗時定。及常陸房昌明等飛脚參着。持參前備前守行家之首。先被召件使者於營中。被尋問事次第。各申云。備州日來橫行和泉河内邊之由。風聞之間。搜求之處。去十二日。在于和泉國一在廳日向權守清實許之由。得其告行向。圍清實小木郷宅。先之。備州逃到後山。入或民家二階之上。時定襲寄於後。昌明競進於前。備州所相具之壯士一兩輩雖防戰。昌明擲取之。時定相加。其所梟首畢。同十三日。又誅備州男大夫尉光家云々。又左典廩書狀到來。前備前守誅戮事。以左少弁定長奏聞之處。不可被知食。可申攝政之由被仰下。仍申攝政。又不知之由返答之間。送獻之云々。此事。御感已絕常篇

。恩賞尤得其次者也。

前備前守從五位下源朝臣行家

大夫尉爲義十男

治承四年四月九日補八條院藏人。本名義盛。今日改行家。

壽永二年八月七日任備後守。勲功賞。

同十三日遷任備前守。

檢非違使從五位下左衛門權少尉同朝臣光家

前備前守行家一男

壽永二年十一月九日補藏人。任左衛門權少尉。蒙使宣旨。勲功賞。元曆二年六月十六日敍留。 A D

E

” 2・5・25条

280、院宣一通到來。去十六日狀也。行家朝臣被誅事有叡感之由云々。行家伏誅。梟首已入洛。爲天下尤神妙之

旨被載之。左馬頭所被執進也。是始不叶叡慮歟之由。就能保朝臣書狀。頗及二品御疑之處。覽此院

宣之後。被解御伊鬱云々。 A D E ” 2・5・28条

281、神祇權大副公宣獻書狀。申送云。与州去比經廻伊勢國。參詣神宮。當時又在南都邊由風聞。而祭主能隆

朝臣有内通事。致祈禱歟云々。 A E ” 2・6・7条

282、去四月之比。政道事。殊可致興行之趣。付議卿令奏聞給了。勅答之條々。執職事目錄。帥中納言被

進之。今日所到來也。(下略) A D E

" 2・6・9条

283、當番雜色宗廉自京都參着。去六日。於一條河崎觀音堂邊。尋出与州母并妹等生虜。可召進關東。歟由云々。 A E

" 2・6・13条

284、梶原刑部兼朝景自京都進使者。執申内大臣家訴事。是家領等爲武士被押妨事也。所謂越前國北條殿眼代越後介高成妨國務。般若野庄藤内朝宗。瀨高庄藤内遠景。大嶋庄土肥次郎實平。三上庄佐々木三郎秀綱。各或三年。或一兩年。煩所務抑乃貢云々。二品殊令驚給。速可止妨之由。面々可被仰含之由云々。 A D E

" 2・6・17条

285、水尾谷藤七爲使節上洛。是去二日入道前大納言賴盛。薨卒之間。爲令訪彼舊跡也云々。 C D E

" 2・6・18条

286、爲搜尋求行家義經隱居所。於畿内近國。被補守護地頭之處。其輩寄事於兵糧。譴責累日。万民爲之含愁訴。諸國依此事令凋弊云々。仍雖可被待義經左右。有人愁歟。諸國守護武士并地頭等早可停止。但於近國沒官跡者。不可然之由。二品被申京都。以帥中納言。可奏聞之旨。被付御書於廷尉公朝歸洛便宜。 D E

" 2・6・21条

286、又因幡前司廣元爲使節所上洛也。爲天下澄清。被下院宣。(下略) C D E

" 2・6・21条

287、左馬頭飛脚自京都到來。豫州隱居仁和寺。石倉邊之由。依有其告。雖遣刑部兼朝景。兵衛尉基清已下勇士無其實。而當時在叡山。惡僧等扶持之由風聞云々。 A E

" 2・6・22条

288、歡喜光院領播磨國矢野別符事。海老名四郎能季稱地頭。不隨寺家所堪之由。依被下院宣。向後可止。

非分押妨之旨。二品令加下知給云々。 D E " 2・6・25条

289、左馬頭能保。飛脚參着。去十六日平六儼仗時定於大和國宇多郡。与伊豆右衛門尉源有綱義經合戰。然而有綱敗

北。入深山自殺。郎從三人傷死了。擲取殘黨五人。相具右金吾首。同廿日傳京師云々。是伊豆守仲綱男也。

A E " 2・6・28条

290、伊勢國林崎御厨事。為平家与黨人家資跡。雖被加沒官領注文。就大神宮訴申之。不可有地頭之旨。被

下院宣之間。今日有沙汰。所被止字佐美平次實正知行也。(下略) D E " 2・6・29条

291、以平六儼仗時定。可被任左右兵衛尉之由。被申京都。是依有度々勲功也。 D E " 2・7・1条

291、又伊勢國林崎御厨。被止地頭職訖之由事。今日所被迎遣左中弁光長之許。為奏聞也。(下略) D E " 2・7・1条

292、院北面左衛門尉能盛入道并院廳官定康所知武士濫妨事。早可停止之由。被仰下之旨。左馬頭消息到來。 A E " 2・7・8条

293、被訪故前備前守行家去五月十三日誅戮歿後。明日依可被修佛事。今夕為俊兼沙汰。被送遣施物僧食等於行慈

法橋之許云々。 D E " 2・7・11条

294、因幡前司廣元。去十九日注進没官京地目六。今日二品所經御覽也。(下略) A D E " 2・7・27条

295、左馬頭飛脚到來。狀云。擲前伊豫守小舍人童五郎丸。召問子細之處。至于去六月廿日之比。隱居山上候之旨。所申上候也。如件白狀者。叡山惡僧俊章。承意。仲教等。令同心与力者。仍相觸其由於座主并殿法印訖。又所經奏聞也云々。亦義經者。与殿三位中將殿良經。依爲同名。被改義行之由云々。 A

E

" 2・⑦・10条

296、因幡前司廣元歸參關東。去比所上洛也。諸國守護地頭條々事。委細預下問。言上所存了。又播磨備前兩國武士妨。注文給之。可糺明之由蒙仰。是廣元者。爲二品御腹心專一之由。去月十四日及公家御沙汰。面目之所至也云々。 A C E

" 2・⑦・19条

297、左典廐消息到來。就五郎丸白狀。可召進同意干豫州山侶之趣。相觸山座主之處。彼輩逃亡之旨申之。而去十一日猶在山門歟之由。風聞之間。則奏聞子細。仍去十六日於大炊御門仙洞。有公卿僉議。山上并橫河末寺庄園悉相觸之。不日搜尋可召進其身之由。被仰座主全玄。已下之僧綱了。而稱彼逃脫輩之緣坐。召進三人之間。則被下使廳訖。此事今差遣軍士於台嶺之由雖言上。無左右被遣勇士之條。偏可爲法滅之因。且可被仰子細於座主之由。諸卿一同被定申之趣。具被載之云々。又同十七日院宣所到來也。(下略) A E

" 2・⑦・26条

298、被召皇太神宮祢宜長重。々々着衣冠參營中。而被寄附駿河國方上御厨於本宮之由。二品直被仰含。於御下文者。去廿二日所被成置也。而長重遲參之間。于今被閣之。今日被下彼神主了。是義行參詣神宮凝丹祈之由。風聞之間。爲敗其逆心。及此儀云々。 B D E

" 2・⑦・28条

299、去月廿日之比。生_下虜同_二意豫州_一惡僧仲教及承意母女_上之由。台嶺言上之間。被_レ觸_二左典廐_一云々。就_レ之。猶可_レ被_レ尋_二義行在所_一之旨。被_二仰遣_一云々。 D E " 2・8・3条

300、比企藤内爲_二使節_一上洛。是依_レ進_二上皇御熊野詣御物等_一也。日來被_レ宛_二召諸庄園_一云々。 C D E " 2・8・4条

301、於_二蓮花王院領紀伊國由良庄_一。七條細工紀太搦_二謀計_一致_二濫妨_一之由。領家範季朝臣折紙并_二院宣到來之間_一。今日_レ令_二下知_一給之云々。(下略) A D E " 2・8・26条

302、土佐守國基。二品御一族也。殊有_二断金契約_一。仍伊勢國玉垣御厨領主職已下。多令_二示付_一之給。又彼家人刑部兼_二景重可_レ候_一關東之由。被_レ仰付。是渡部黨也。 D E " 2・8・27条

303、又賀茂別雷社領事。院宣到來之間。停_二止地頭知行_一。被_レ付_二社家_一之由。令_二下知_一給。此外。同社領備後國有福_二庄_一。可_レ停_二止實平狼藉_一之由云々。下_二近江國安曇河御厨_一可_レ令_二早停_一止定綱知行_レ任_二先例_一勤_中仕神役_上事_二右件御厨者。賀茂別雷社領也。而近日依_二彼定綱之無道知行_一。有限神役及_二闕怠_一之旨。以_二社家之申狀_一。自_レ院所_レ被_二仰下_一也。(下略) A D E " 2・9・5条

304、梶原刑部兼朝景去夜自_二京都_一歸參。是去年被_レ撰_二遣勇士於廿六ヶ國_一之時所_レ向_二土佐國_一也。件國如_二嚴命_一沙汰_二鎮之_一參上。今日召_二御前_一。尋_二洛中事等_一給。先豫州逐電之後沙汰次第并同意之輩事。具言上。又申云。春三月之比。召_二群盜張本平庄司_一。丹波國_{住人}被_レ禁_二置左獄_一。餘人競來。切_二破彼獄_一。庄司已下犯人悉遁出訖。仍別當家通。仰_二廷尉等_一。雖_レ搜_二尋諸方_一不出來。而八月十一日朝景擲獲之。同廿一日將_二參大理門下_一。令_レ請_二取廷尉_一云々。 A

305、女房少將局使者到來于鎌倉。蓮花王院法華堂領伊勢國釋尊寺。武士致妨。早可被停止之由云々。 A E

" 2・9・15条

306、糟屋藤太有季於京都生虜与州家人堀弥太郎景光。此間隱住京都又於中御門東洞院。誅同家人忠信云々。有季競到

" 2・9・20条

之處。忠信本自依爲精兵相戰。輒不被討取。然而以多勢襲攻之間。忠信并郎從一人自戮訖。是日來相從与州之處。去比自宇治邊別離歸洛中。尋往日密通青女。遣一通書。彼女以件書令見當時夫。其夫語有季之間。行向獲之云々。是鎮守府將軍秀衡近親者也。豫州去治承四年被參向關東之時。撰勇敢士差進繼信等云々。 E

" 2・9・22条

307、平六兵衛尉時定執進召使則國狀。二通書之。一通付職事云々。彼一通。今日所到來也。是紀伊國由良庄七條紀太濫行事也。(下略) A E

" 2・9・25条

308、北條兵衛尉飛脚參着。申云。去廿二日糟屋藤太有季虜堀弥太郎。誅佐藤兵衛尉者。景光白狀云。豫州此間在南京聖弘得業邊。又景光爲与州使者。度々向木工頭範季之許。有示合事云々。仍南都之事。付左典廩。經奏聞。差副五百餘騎於比企藤内朝宗。爲搜求之。遣南都了云々。 A E

" 2・9・29条

309、去月朝宗等打入南都。雖搜求聖弘得業邊。不獲義行本名義經。去比改名。之間。空以歸洛。依之南都頗物忿。衆徒成蜂起含鬱訴。可停止維摩大會之由風聞云々。 E

" 2・10・10条

310、丑剋。雜色鶴次郎爲御使上洛。是木工頭範季朝臣同意伊豫守義行事。殊可訴申之旨。被仰北條兵衛尉

行程所被定三箇日也。 C D E " 2・10・16条

311、与州事。猶被付帥中納言。其趣。義行于今不出來。是且公卿侍臣皆悉惡鎌倉。且京中諸人同意結構之故

候。就中範季朝臣同意事。所憤存候也。兼又仁和寺宮御同意之由承及候。子細何様事哉云々。是大夫尉友實爲

与州使。出京都行向攝津國了。而彼友實居所屋。北條殿被點定訖。是御室御近隣也。則被觸申子細之

處。非反逆者家之由。一旦雖被謝仰。此屋自御室借給友實之條。露顯之間。頗非無御同心之疑。仍

及此儀云々。又大夫屬入道申云。義行者其訓能行也。能隱之儀也。故于今不獲之歟。如此事尤可思字

訓。可憚同音云々。依之猶可爲義經之由。被申攝政家云々。 D E " 2・11・5条

312、雜色鶴次郎并貢馬御使生澤。御廐舍人宗重寺自京都歸參。北條兵衛尉書狀到來。貢馬去二日經御覽訖。同日

木工頭兼皇后宮亮範季解却見任之云々。 A E " 2・11・17条

313、去月八日宣旨。同九日院宣。去比到來。今日被奉御請文。大夫屬入道。筑後權守等加所談云々。是平

氏追捕跡地頭等以非指謀叛跡。宛行課役。煩公官等之間。國司領家所訴申也。現在謀叛人跡之外者。可

令停止之由云々。(下略) A D E " 2・11・24条

314、可搜求義行改義顯。事。去十八日於院殿上。有公卿僉議。如先度。猶可被下宣旨於畿内北

陸道。於京都者。仰使廳相分保々可尋求之。又如奉幣諸社。仁王會御修法御祈。可被始行之

旨。群議一同之由。右武衛被申送之云々。 A E " 2・11・29条

315、去年同意行家義顯等之凶臣事。依一品御鬱陶。或被解却見任。或被下配流官符訖。其中。前廷尉

知康殊現奇恠之間。被憤申之處。稱可陳申。所參向關東也。何樣可被沙汰哉。可隨勅定之旨。可被申京都之由云々。 D E " 2・12・11条

316、當時。比企藤内朝宗已下御家人差置郎從等於南都。守聖弘得業坊。是爲尋義顯也。而去比。山階寺別當僧

正企參洛。此事已可爲一寺滅亡之基歟。早可尋索之趣申請之由。右武衛所被申送也。 A E " 2・12・15条

" 2・12・15条

317、左女牛御地令奉寄六條若宮給。早可令奉行之旨。所被仰阿闍梨季嚴也。是六條以南。西洞院以東壹町也。 D E " 3・1・15条

318、合鹿大夫光生爲御使。爲奉幣于太神宮。進發伊勢國。神馬八疋。内外宮分各々二疋。風宮。荒祭。伊雜。瀧原各一疋。砂金廿兩。御劔二

腰。所被奉送也。是依伊豫守義經反逆御祈禱也。 C D E " 3・1・20条

319、江廷尉公朝日來在鎌倉。歸洛之間。院宣條々被申御返事云々。 D E " 3・1・21条

320、前廷尉知康同意于行家義顯叛逆事。露顯之後。爲遁一旦之難。參向關東訖。断罪之篇。二品頗難被決

賢慮之間。度々雖被伺奏。于今依無左右。言上事等不預分明。勅裁之條。有恐斝之由。所被仰遣

黃門經房。之許也。 D E " 3・1・23条

321、二品以沒官領内二箇所。可被避進于建礼門院之由。有其沙汰。是攝津國眞井。鳴屋兩庄也。元者八條前

内府知行云々。依被訪申彼御幽栖也。 D E " 3・2・1条

322、有大夫屬定康者。關東之功士也。彼近江國領所。平家在世之時者稱源家方人被收公。滅亡今又守護定綱爲

兵糧米點定之。依之企參上。募申有勞之間。停止旁狼藉。如元可領掌之趣。今日被仰下云々。 A

D E

" 3・2・9 条

323、前伊豫守義顯日來隱住所々。度々遁追捕使之害訖。遂經伊勢美濃等國。赴奥州。是依侍陸奥守秀衡入道權勢也。相具妻室男女。皆假姿於山臥并兒童等云々。 E

" 3・2・10 条

324、美濃權守親能爲上洛使節進發。相具貢馬十疋。是來月上旬之比。法皇依可有御熊野詣也。 C D E

" 3・2・16 条

325、右近將監家景。昨日自京都參着。携文筆者也。仍北條殿懇勸被舉申之。在京之時。試示付所々地頭事之處。始終无誤云々。二品御許容之間。今日召御前。則可賜月俸等之由。被仰下政所。(下略) D E

" 3・2・28 条

326、南都周防得業聖弘依召參向。爲豫州師檀之故也。日者小山七郎朝光預置之。今日。二品有御對面。直及

御問答。仰曰。豫州者欲濫邦國之凶臣也。而逐電之後。搜求諸國山澤。可誅戮之旨。度々被宣下

畢。然者。天下尊卑皆背彼之處。貴房獨致祈禱。剩有同意結搆之間。其企如何者。聖弘答申云。豫州爲

君御使。征平家刻。合戰屬無爲之樣。可廻祈請之旨。懇勸契約之間。年來抽丹誠。非報國之志乎。爰

豫州稱蒙關東譴責。逐電之時。以謂師檀之好。來南都之間。相搆先遁一旦害。退可被謝申于二品

之由。加諷詞。相副下法師等。送伊賀國畢。其後全不通音信。謂祈請不祈謀叛。謂諷詞和

逆心畢。彼此何被處与同哉。凡倩案關東安全。只在豫州武功歟。而聞食讒訴。忽忘奉公。被召返

恩賞地之時。發逆心之條。人間所堪。可然事歟。速翻日來御氣色。就和平之儀。被召還豫州。兄弟令成魚水思給者。可爲治國之謀也。申狀更非引級之篇。所求天下靜謐之術也者。二品依感得業直心給。早爲勝長壽院供僧職。可抽關東御繁榮御祈禱之由被仰含云々。 A D E

" 3・3・8条

327、江判官公朝進使者申云。可有兩社行幸。橋渡行事所奉之也。殊欲飭行粧。仍可爲莫大經營。偏仰御成助也云々。 A E

" 3・3・15条

328、右武衛使者到來。是山徒民部卿禪師同意義顯之間。召出可被罪科之由。二品令申給之間。雖被仰座主僧

正全玄。逐電云々。仍重就憤申。爲權右中弁定長朝臣奉。下知山門事也。則被副獻座主請文云々。(下略)

A D E " 3・3・18条

329、依被重上宮太子聖跡。法隆寺領地頭金子十郎妨事。可停止之趣。去年下知給之處。猶不靜謐之由。寺家帶院宣。就訴申。遣雜色里久。可止鰲庄押領之由及沙汰。件庄事。太子殊依執思食。有被載趣。二品專所聞食驚也。(下略) A C D E

" 3・3・19条

330、洛邊可被建御亭之由。日來有沙汰。而當時无可然地之間。可給闕所之旨。被申帥中納言。山科澤殿領有便宜地。所望云々。 D E

" 3・4・1条

331、被始行百部大般若經轉讀。鶴岡。勝長壽院。菅根山。走湯山。并相摸國中寺々供僧等盡數勤行。是太上法皇御不豫。玉躰不安。仍御使上下向已及數度。然而御平愈之由。未聞之間。及此儀云々。 C D E

332、百部大般若經轉讀事。一昨日歷二七ケ日結願。仍被奉卷數於仙洞。今日大和守重弘帶之上洛云々。 C D
E
" 3・4・2条

333、前大藏卿泰經出仕事。可有勅許之趣。去月六日院宣所令到來也。而此事度々被仰下之上。二品御鬱憤漸欲令休之間。可被免歸京之由。内々雖被申之。又有豫儀。於昵近奉公事者。暫不可有勅許之旨。所被申也。 A D E
" 3・4・19条

334、三月公卿勅使驛家雜事。伊勢國地頭御家人等多以對捍之間。召在廳等注進狀被下之。仍今日二品覽彼目錄。仰不法之輩。可被誠向後懈緩之由。及嚴密御沙汰云々。件目錄云。(下略) A D E
" 3・4・29条

335、閑院皇居。去々年七月。大地震動之時破壞。可被加修造之由。有其沙汰。而彼時倒傾殿舍。同冬比被引直之處。清涼殿東西六箇間役。雖被宛參河守。範賴。無沙汰。而參向關東之由。有傳申二品之者。仍乍沿朝恩。懈緩國役。太無謂。可有罪科之由。以此次被仰。參州殊恐申。今度造營之時。可勵微力云々。 A D E
" 3・5・13条

336、大和守重弘自京都參着。上皇御惱事。已令復本御。依此御事。去月三日被行非常赦。但伊豫守義顯并緣坐衆者被除之由申之。 A E
" 3・5・15条

337、宇治藏人三郎義定代官押領伊勢國齋宮寮田櫛田鄉内所處云々。可被糺明之旨。自仙洞被仰下之。即被尋問義定之處。在鎌倉既及多年之間。不知彼國子細。可召進眼代之由謝申之。而懷理訴者。追可

言上_レ歟。今臨_二群行之期_一。武家之輩押_レ領件式田之上者。乍_レ含_二勅定_一。不_レ行_二其科_一者。似_レ輕_二御旨_一。仍被_レ收_二公義定恩地_一云々。 A D E " 3・5・26条

338、於_二六條若宮_一可_レ始_二行放生會_一之由。有_二其沙汰_一。且可_レ被_レ窺_二叡慮_一云々。 D E " 3・6・18条

339、伊勢國沒官領事。加藤太光員隨_レ令_二注進_一之。被_レ補_二地頭_一之處。彼輩於_二太神宮御領_一致_二濫行_一之由。自_二所々_一有_二其訴_一之間。宜_レ令_二停止_一之由。今日被_二定下_一。其狀云。(下略) A D E " 3・6・20条

340、因幡前司廣元爲_二使節_一上洛。閑院 皇居可_レ加_二修復_一之由被_レ申之。又帥中納言經房。望_二申大納言_一。其事可_レ預_二御舉_一之旨。日來内々被_レ申_二于_二一品_一。此卿爲_二膠漆御知音_一也。仍无_二左右_一雖_レ可_レ被_二奏達_一。上臈有_二數歟_一。隨_二京都之形勢_一。可_レ奏試_二之由_一。被_レ仰_二廣元_一。凡不_レ限_二此卿_一。於_二廉直臣_一者。於_二事_一可_レ加_二扶持_一之由。朝暮被_レ挿_二御意_一。偏爲_レ君爲_レ世也云々。 C D E " 3・6・21条

341、雜色正光爲_二御使_一。帶_二御書_一。赴_二伊勢國_一。是當國沼田御厨者。畠山二郎重忠所領地頭職也。而重忠眼代内別當眞正令_レ追_二捕員部大領家綱所從等宅_一。沒_二收資財_一之間。家綱差_二進神人等_一令_二訴申_一。仍爲_レ被_レ糺_二行其科_一也。又正光寄_二事於御使_一。於_二現濫行者_一。加_レ誠可_レ言_二上子細_一之趣。被_レ仰_二遣山城介久兼_一。云々。在_二彼國_一。 A C D E " 3・6・29条

342、初齋宮來九月依_レ可_レ有_二群行_一。被_レ進_二其用途_一。日來所_レ被_レ宛_二諸御家人_一也。善信奉行云々。 D E " 3・7・2条

343、山城守橘維康自_二京都_一參向。爲_レ致_二官仕_一也。池亞相禪門被_レ舉_二申_一之云々。如_二前駟_一事可_レ勤役_二之人_一。依_レ有_二御尋_一

也。則爲俊兼之沙汰。點給旅宿云々。 D E " 3・7・3 条

344、雜色里長爲御使上洛。是右武衛能保。姬公爲御乳母依可有參內。被遣長絹百疋之故也。御家人等面々

沙汰進之云々。 C D E " 3・7・4 条

345、右武衛消息到來。所副進院宣也。是前大藏卿素經。去年被處義顯与同之過訖。可被免歸洛之由。就

令申給被免之。而本自依爲近臣。於今者可被聽昵近之趣。被仰下之故也。(下略) A D E

" 3・7・19 条

346、右武衛能保。消息到來。當時京中。群盜乱入所處。尊卑爲之莫不消魂。就中。去年十二月三日。強盜推

參太皇太后宮。殺害大夫進仲賢以下男女以來。太畧隔夜有此事。差勇士等。殊可警衛給之由。有天氣

云々。 A E " 3・8・12 条

347、洛中狼藉事。連々被下院宣之間。且尋問子細。且爲相鎖之。千葉介常胤。下河邊庄司行平可上洛之

旨。被仰付訖。各申領狀之間。今日被召御前。有御餞別之儀。又賜御馬。承條々仰云々。御消息

云。(下略) C D E " 3・8・19 条

348、因幡前司廣元使者自京都參着。去十五日於六條若宮。始行放生會之處。見物雜人中鬪乱出來。有被疵

之者等云々。 A E " 3・8・25 条

349、可令遠江守義定修造稻荷社之由。爲權黃門經房。奉被仰下。所被募重任之功也。稻荷祇園兩社破壞

之間。皆付成功。可被終修治之功。 E " 3・8・26 条

350、下河邊庄司行平爲使節上洛。又重被申京都條々。(下略) C D E " 3・8・27条

351、閑院遷幸料樂屋幄覆并御誦經幄覆以下。十月中可染進仙洞之由。被仰美濃權守親能之許云々。 D E " 3・8・28条

352、千葉介常胤爲使節上洛。是洛中狼藉事。爲關東御家人等所爲歟之由。有疑貽之旨。風聞之間。爲令尋沙汰也。合御使行平先以進發訖。可同道之處。常胤違例之間。延而及今日云々。 B C D E " 3・8・30条

353、攝津國在聽以下并御室御領間事。被定其法。今日爲北條殿奉。可得其意之由。所被仰遣三條左衛門尉之許也。其狀云。(下略) D E " 3・9・13条

354、熊野別當法印湛增使者永禪。參着于關東。敍法印之後。未啓子細。恐思之由也。以此次。相副卷數。獻綾三十端。是太背御意云々。仰曰。於神社佛寺。寄進庄園事。皆所奉佛神也。全不宛別當神主等之恩顧。如然物者。施与件輩之條。中心之所志也。然者爲酬何事。還可及進物乎。更不可有領納之儀者。則被返下使者云々。 A D E " 3・9・20条

355、畠山二郎重忠爲囚人被召預千葉新介胤正。是依代官真正之奸曲。太神宮神人長家強訴申故也。代官所行不知子細之由。雖謝申之。可被收公所領四箇所云々。 A D E " 3・9・27条

356、法皇御灌頂御訪用途事。兼日雖被仰下。他事計會之間。于今無沙汰。於御入壇者。去八月廿二日令遂御訖。然而所調置之貢物不可默止所令運送京都給也。雜色六人相副之。解文書樣。(下略) A C D

" 3・10・1条

357、付下河邊庄司千葉介等上洛。々中群盜以下條々。令奏聞給事。悉有勅答。其狀。今日所到來于鎌倉也。又御熊野詣用途事被仰下。不日可令進御請文給之由云々。院宣云。(下略) A C D E

" 3・10・3条

358、法皇御年籠可有熊野山御參詣供米千石。輕物少々。可沙汰之由。所被仰也。仍有沙汰。國絹白布等被宛催御家人。八木千石可爲武藏上総兩國所課云々。 A D E

" 3・10・6条

359、右武衛飛脚參着。去月十九日齋宮群行也。而勢多橋破損之間。爲佐々木定綱奉行。以船奉渡湖海之處。延曆寺所司等相交雜人之中。依現狼藉。定綱郎從相答問。不圖起鬪乱及殺害。衆徒聞此事。忽以蜂起。擬及嗽訴。而國司雅長卿。并定綱等殊可加制止。就中於定綱事者。不被觸仰關東者。輒難決聖斷之由。雖被仰座主全玄僧正。衆徒等猶不靜謐云々。 A E

" 3・10・7条

360、下河邊庄司行平。千葉介常胤自京都歸參。於院宣等者。先々付雜色進上畢云々。爰兩人被召御前。上洛之間。京中靜謐之由及叡感。尤爲御眉目之趣。所被感仰也。而行平九月十一日入洛。即夜窺兼承及群盜衆會之所々。令郎從致夜行之處。於尊勝寺邊。行逢奇恠之者。人數八人。不殘兮擲取之。尋明所犯之間。不相待常胤。將又不相觸使廳。任北條殿之例。勿彼等首訖。常胤同十四日京着。各在洛。雖不歷幾日數。更不聞狼藉事。自然死爲。誠是依將運之所令然歟。次在京武士事。以御使雜色并兩人使。不廻日時悉召之。所來聚也。尋問訖。面々有陳申之旨。非死子細。其狀五十三通

進上之。其上无所犯實證。不能沙汰事也云々。就之。件陳狀等可付帥中納言歟之由。雖有其沙汰。關東武士所行とハ。全不風聞之由。被載院宣之間。加斟酌不備進之。令持參之由。行平等申之。此事其理可然。仍又有御感。被留營中云々。 A D E " 3・10・8条

361、南都衆徒狀并大般若經轉讀卷數等到來。抽祈請之由也。二品仰信給。仍被遣御報。其狀云。(下略) A D E " 3・10・9条

362、依太神宮神人等之訴訟。被召放畠山次郎重忠所領伊勢國沼田御厨。被宛行吉見次郎頼綱。仍於重忠者。雖召禁其身。申不知子細之由。頗有陳謝歟之間。厚免已畢。至當御厨者。賜他人之旨。被仰神宮之上。員部大領家綱所領資財等。任員數可沙汰付本主。雖向後。於彼邊。可停止武士狼藉之趣。令下知山城介久兼給云々。 A D E " 3・10・13条

363、閑院修造事。其功漸成。來月上旬可有遷幸之旨承之。定被仰御勸賞歟之由。廣元言上之間。勸賞事。及御沙汰者。早可辞之趣。仰盛時被遣御書於廣元之許也。其詞云。(下略) A D E " 3・10・25条

364、筑前國鞍手領。土佐國吾河郡。攝津國山田庄。尾張國日置領。被奉寄左女牛若宮。一事已上。可爲別當季嚴阿闍梨沙汰之由。被仰下云々。 D E " 3・10・26条

365、爲閑院遷幸樂屋二本幄覆幔并十八帖事。去八日染進仙洞之由。親能自京都所申送也。 A E " 3・10・28条

366、佐々木四郎左衛門尉高綱申云。東大寺棟木。去年雖被尋。終不得之。去九月之比。於周防國杣探之。其長

十三丈也。是偏依重源上人信心。緯成就之兆也云々。 A E " 3・11・10条

367、貢馬三疋進發。佐々木次郎經高爲御使。相具之上洛云々。四郎政義。千葉四郎胤通等騎之。(下略) C D E

" 3・11・11条

368、有但馬國住人山口太郎家任云者。弓馬達者勇敢士也。而屬木曾左馬頭。爲近仕隨一也。彼誅亡之後。在豫

州之家。豫州逐電之刻。同橫行所處之間。北條殿令生虜之。所被召進也。仍仕于兩人。由緒被尋問

之處。申云。家任譜代源氏御家人也。就中父家修者。仕六條廷尉禪室。輸忠。拜領數ヶ所。平家執天下

之時。悉以牢籠。左典厩入洛最初。壽永二年八月。適令安堵畢。爲酬其德。一旦雖列門下。於關東不

挿異心。又屬豫州之條。人之爲虛訴欺者。六條殿御下文于今令帶否。被尋仰之間。備進之。二品

洗兩手。令拜見之給。(中略)優此御下文。他事不及糺明沙汰。可安堵本職之旨。直被仰含云々。被

重曩時之趣。諸事如斯云々。 A D E " 3・11・25条

369、閑院修造勸賞事。可辞申之旨。兼以被仰遣廣元之許畢。廣元得其趣。遮依辞申。無其沙汰者。去十三日

以遷幸之次。相模武藏兩國可爲重任之由。被仰之許也。仍被下御感院宣。今夕到來。其詞僞。(下略)

A D E " 3・11・28条

370、被進飛脚於京都。行程被定七ケ日。是來十一日法皇熊野御參詣之間。依被進砂金也。其上。御分三ヶ國

之内武士等押領所々之由。被仰下畢。賜注文。可加下知之旨。令言上給云々。 C D E

" 3・12・2条

371、大夫尉公朝自_二京都_一參向。依_レ有_二自訴_一。令_二下向_一云々。可_レ令_二尋成敗_一給_上歟之旨。爲_二帥中納言奉_一。所_レ被_レ下_二五

日御教書_一也。亦今年所_レ進貢馬頗異樣。後年殊可_レ有_二勤厚_一歟。次貢金有_二未進_一。路次不通之間者別事也。當時
凌遲尤御不審之由。被_レ載_レ之云々。 A E

372、所々地頭等所領已下事。自_二京都_一。或屬_二強緣_一。或獻_二消息_一。愁申人々多之。仍有_二其御沙汰_一。而廷尉公朝自_二
去年冬_一在_二鎌倉_一。近日可_レ歸洛之間。得_二其意_一爲_レ令_レ披_レ露彼訴條々。載_二篇目於一紙_一。可_レ与_二公朝_一之由
云々。彼公朝下向之次。消息等所_レ有_二其沙汰_一也。御事書云。(下略) A D E

373、法務大僧正公顯書狀參着。去月十一日補_二五ヶ寺_一法勝。最勝。成勝。延勝。圓勝。別當職_一畢。朝恩之至自愛云々。是年來被_レ仰_二付御祈

禱事_一。每度施_二驗德_一。去文治元年。依_二御堂供養導師_一參向時。付_二憂喜_一可_レ通_レ信之由。有_二御約諾_一云々。仍被_レ告
申_一之云々。 A D E

374、右武衛被_レ申云。与州事。爲_レ被_レ仰_二奧州泰衡_一。被_レ遣_二勅使官史生國光院廳官景弘等_一。來三月可_レ下向_一云々。 A
E

375、東大寺重源上人書狀到着。當寺修造事。不_レ恃_二諸檀那合力_一者曾難_レ成。尤所_レ仰_二御奉加也_一。早可_レ令_レ勸_二進諸
國_一給_上。衆庶縱雖_レ無_二結緣志_一。定奉_レ和_二順御權威重_一歟。且此事奏聞先畢者。此事未_レ被_レ仰_下。所_レ詮於_二東國
分者_一。仰_二地頭等_一。可_レ令_レ致_二沙汰_一之由被_レ仰_遣。 A D E

376、諸國可_レ奉_二造立四天王像_一之由。被_レ宣_下。東國分事。今日被_レ施行。大夫屬入道奉_二行之_一。 D E

" 4・3・26条

377、下向奥州之官史生國光。院廳官景弘等。去月廿二日出京。是仰泰衡可擲進豫州之由也。彼兩人帶宣旨并

應御下文等。今日已參着鎌倉。宿次雜事等。有官宛文。仍守其旨。無懈緩之儀。可致沙汰之由。被

仰重成。重忠。重長等云々。宣旨狀等。二品内々覽之。(下略) A D E " 4.4.9条

378、院宣等到來。或自是被申。勅答。或始被仰下條々事也。院宣云。(下略) A E " 4.4.12条

379、西冠。親能飛脚自京都參着。去十三日六條殿燒亡云々。寶藏并御倉雖遁災。於長講堂者災。本尊奉取出之

云々。 A E " 4.4.20条

380、鎌田新藤次爲使者上洛。六條殿火事。殊驚申給之故也。被進御書上。得意可然之樣可被伺奏之由。被

遣御文於右武衛云々。 C D E " 4.4.21条

381、遠景已下御使等。渡貴賀井嶋。遂合戰。彼所已歸降之由。所言上也。而宇都宮所衆信房殊施勲功云々。爰

信房近江國領所者。去比被付非違別當家領訖。就此大功。可返給歟之由言上。(中略)仍彼是有沙汰。大

理者依爲寵臣。不限件庄。可止地頭之旨。被下繪旨之間。關東爭被泥申哉。執行眼代事者。可

被加判。但雖再三訴申之。於關東國。不可成自由勘發之由。被仰云々。 D E " 4.5.17条

382、八田右衛門尉知家郎從庄司太郎。被遣大内夜行番之處。懈緩之由。依令風聞。早可召進其身於使廳之

趣。今日被仰遣定綱。此上可造鎌倉中道路之旨。被仰知家云々。 B D E " 4.5.20条

383、所々地頭沙汰之間事。注條々。令付帥中納言經房。給之處。御返報今日到着。於勅答之趣者。爲讓子

細。所副獻權右中弁定長朝臣奉書也。(中略)播磨國景時知行所々事(中略)大内守護事(下略) A D E

384、六條殿作事。可抽營作功之由。二品依令申給。造營事愁思食立之處。如此令申之條。殊悅思食。件御所被立者。如本長講堂可作也。有其沙汰哉。件御堂傍褻御所可有沙汰歟。只可令相計候由。去廿日御教書經房卿奉。所到來也。 A D E " 4・6・4条

385、常陸房昌明者。近年自京都所參也。元住延曆寺武勇得其名也。就中誅前備前守行家以降。人憚之云々。而強田邊有領所。不慮得替之間。企愁訴欲上洛。便宜事可加扶持之旨。可給御書於在京御家人中之由望申。仍昌明在京之間。如旅糧所望事。隨所望可給之旨。被申右武衛。能保。其御書下賜昌明。々々潜披之。乍曠持參申云。此御書愁以申出畢。案此旨趣。以恩如罰。何非耻辱哉。全非旅糧等望。依訴申上洛之間。只爲用意也。有勇敢譽之由。於被載之條者。所仰也者。干時御入興。則令俊兼書改之給。雖爲僧勇士也。在京之程。可被召具宿直之候。右兵衛督殿云々。此事已後。昌明殊快然云々。 A C D E " 4・6・17条

386、六條殿御作事。二品御知行國役者。爲親能奉行。以大工國時。欲被造進。(下略) D E " 4・7・11条

387、右武衛飛脚參着。去年夏之比。御家人藤原宗長与石清水神人等鬪諍。神人聊依被疵。去十一日所被下院宣也。此事度々雖被仰。無左右召進之條。傍輩所思。似無其恃。仍猶豫之處。事已及重事。何樣可進退哉云々。則被副進院宣。(下略) A D E " 4・7・17条

進退哉云々。則被副進院宣。(下略) A D E " 4・7・17条

388、台嶺惡僧等同意豫州事。前民部少輔基成并泰衡隱容同人於奧州事。御沙汰頗遲怠。急速可令申達給之由。被仰右武衛云々。 D E " 4・8・9条

389、右兵衛督熊保。消息到來。路邊群盜蜂起事。至疑貽分者。相觸所々畢。就中。叡山飯室谷竹林房住侶來光房永實同宿号千光房七郎僧招卒惡徒浪人等。令夜討已下惡行之由。普風聞之間。經奏聞畢。仍仰法印圓良。被召之處。去四日召進彼僧之由。所捧請文也云々。 A E " 4・8・17条

390、諸國可禁斷殺生之由。宣旨狀到着。是依二品令申請給也。其狀云。(下略) A D E " 4・8・30条

391、尊南坊僧都定任自熊野參向。是年來給置御本尊。大將。王像。并御願書。御祈禱積薰修也。二品偏令特二世悉

地給。而城四郎長茂者。爲平家一族。背關東之間。爲囚人所被預置干景時也。是又以定任爲師檀。仍以參上之次。有免許。可被召加御家人之由。頻執申之間。二品被仰可召仕之由。今日定任參

御所。被召入簾中。談世上雜事給。御家人等着座侍。二行。以東爲上。南一座重忠。北一座景時也。爰長茂參入。諸

人付目。長七尺男也。着白水干烏帽子。融二行着座中。參進着橫敷。宛簾中於後。自其內。二品御一覽。不被仰是非。定任見此躰頗赭面。景時對長茂云。彼所者二品御座間也云々。長茂稱不存知。起

座即退出。其後定任不及執申云々。(下略) A D E " 4・9・14条

392、叡岳惡僧中。有俊章者。年來与豫州。成斷金契約。仍今度牢籠之間。數日令隱容之。又至赴奧州之時者。相率伴黨等送長途。歸洛之後。企謀反之由。有其聞。仍內々窺彼左右。可召進其身之旨。被

仰_レ在京御家人等_一云々。 B D E

" 4・10・17条

393、可_レ追_二討豫州_一之由。宣旨狀案文到着。於_二正文者_一。官吏生可_レ持_二向奥州_一云々。(下略)

A E

" 4・10・25条

394、去十八日六條殿上棟云々。關東分所課勤仕之輩者。事終者則可_二下向_一。仍兼日可_レ申_二置其由於奉行職事_一之旨。今日被_レ仰_二遣親能許_一云々。 D E

" 4・10・26条

395、式部大夫親能飛脚自_二京都_一參着。去月廿五日於_二東大寺墾内_一。寺僧与_二武家使_一鬪乱。相互傷死被_レ疵者數十人

也。今日廿九日。在京士率欲_レ令_レ發_二向南都_一之處。爲_二朝大事_一。可_レ加_二禁制_一之旨。被_レ仰_二右武衛并親能_一之

間。暫留之。則應_レ仰。留_二武士發向_一畢之由。所_レ申_二上帥殿_一也云々。是依_レ殺_二害高太入道_一事_上。可_二尋沙汰_一之

由。二品下知給之間。親能遣_二使者於南都_一。欲_レ尋之處。不相_レ待其成敗。忽此狼藉出來云々。 A D E

" 4・12・6条

396、豫州追討事。被_レ下_二宣旨_一之上。相_二副院廳御下文_一。官吏生守康帶_レ之。赴_二奥州_一今日參着。召_レ入于八田右衛

門尉宅。賜_レ食祿。亦彼御下文被_レ披_レ之。其詞云。(下略) A D E

" 4・12・11条

397、因幡前司廣元使者自_二京都_一到來。申云。今日三日。熊野參詣所_二進發_一也。而其精進中。蒙_二御感仰_一者。閑院并六

條殿修造已下。於_レ事勤_レ節。殊神妙云々。凡歡喜之淚難_レ抑。此仰。偏陰德之所_レ致歟云々。(下略) A D E

" 4・12・12条

398、所_レ同_二意豫州_一之山門惡僧俊章事。爲_レ被_二糺断_一之。早可_二召進_一之旨。被_レ仰_二遣衆徒之中_一。彼御書善信書_レ之。其

詞云。(下略) D E

" 4 · 12 · 16 条

399、式部大夫親能男一法師冠者能直。任左近將監之由。參賀營中。是無双寵仁也。依御内舉。去十月十四日雖

拜任。此間病痾相侵。住相模國大友鄉。今日始出仕云々。則召御前。 D E " 4 · 12 · 17 条

400、二品令參走湯山給。南山住侶等騰次事。今度治定之云々。 D E " 4 · 12 · 18 条

401、權右中弁親經奉書。并帥中納言之書狀等參着。是造太神宮役夫工米事。關東御分國々所濟。早可被致沙汰之

由也。但其内勅免所處相交云々。 A E " 4 · 12 · 24 条

402、親能申送云。六條殿造營之間。所課屋々事。致丁寧勤之由。殊所蒙御感之仰也。爲公私眉目歟之旨。二

品太令喜悅給云々。 A D E " 4 · 12 · 30 条

403、及晚。右武衛使者小舍人。号荒四郎。到着。所被送進去五日敍位除書也。二品令敍正二位給云々。 A E " 5 · 1 · 13 条

404、右武衛使者參着。与源豫州之族。猶有所存歟之由。内々依被申之也。亦大内修造事。已及御沙汰。以治

承注文。可被下關東之由。有其聞云々。 A E " 5 · 2 · 12 条

405、被發御使雜色時澤於京師。伊豫守逐電之後。御沙汰次第。頗以寬宥之間。人猶可事凶惡。尤可及急速之御沙

汰之趣。被申之云々。(下略) C D E " 5 · 2 · 22 条

406、大内殿舍門廻廊築垣等。破壞之間。可被修造之由。去月十七日院宣。今日到來。是帥中納言所勞之間。于

今及遲引云々。 A E " 5 · 3 · 11 条

407、快晴。鶴岡八幡宮之傍。此間被_レ建_二塔婆_一。今日上_二九輪_一。二品監臨給。(中略)還御之後。被_レ整_二去十一日_一院宣

御請文_一云々。(下略) D E

" 5・3・13条

408、亥剋。右武衛使者參着。被_レ獻_二消息_一。去十三日狀去九日。奥州基成朝臣并泰衡等請文到來。可_レ尋_二進義顯_一之由載

之。而法皇此間爲_二御佛事_一御坐天王寺。去月廿二日御幸件請文備_二叡覽_一之後。早可_レ召進_二之由_一。重可_レ被_レ仰_二之旨_一。自

彼寺態以被_レ申_二殿下_一。又同十二日。前刑部卿賴經卿可_レ被_レ配_二流伊豆國_一之由宣下。子息宗長同前。此外事

等。條々皆可_レ有_二勅裁_一之。帥中納言定具被_レ申_二之歟者_一。彼卿奉書云。(下略) A E " 5・3・20条

409、成勝寺執行法橋昌寬爲_二使節_一上洛。被_レ獻_二御消息_一於帥中納言。是泰衡自由請文。聊非_二御許容之限_一。速可_レ被_レ

下_二追討_一宣旨之由。依_二重被_レ申也_一。又以此次。鶴岡塔供養願文。可_レ調給_二之旨_一。内々所望給。同導師。可_レ

然之僧一人。可_レ令_二計申請_一給_上者。 C D E " 5・3・22条

410、梶原平三景時之在京郎從。爲_二飛脚_一到着。持_二參帥中納言_一經房去八日消息。其趣。賴經卿父子。朝方卿父子事。任

令_二申請_一給_上之旨。被_レ沙汰切_二畢_一。且彼政綱通_二義顯_一之狀。早可_レ進覽。次山上兵具事。可_レ禁制_二之旨_一。被_レ仰_二

座主_一事又訖。奥州事。被_レ仰_二合攝政以下諸卿_一。追可有_二勅答_一之旨。蒙_二院宣_一者。又昌寬注申云。去月十

九日。按察大納言并侍從朝經籠居。同十三日。彼父子及左衛門尉政綱等被_レ解_二却見任_一云々。 A D E " 5・4・19条

411、奥州追討事。法皇雖_レ御坐天王寺。爲_二藏人大輔定經奉行_一。去九日。於_二禁裏_一有_二其沙汰_一。仍帥中納言得_二

其仰詞。所_レ被_レ書_二下御教書_一也。(下略) E " 5・4・22条

412、右武衛使者參着。被_レ申條々。去月廿日大内修造事始也。藤中納言兼光。右少弁棟範。大夫史廣房等奉_レ行之。御

管領八ヶ國。可_レ令_レ宛_レ其役給_レ敷。雖_レ爲_レ官符未到以前。先内々可_レ觸申_レ之由。蒙_レ院宣者。亦院御廐

司事。被_レ仰付_レ候也。而此職。元者按察大納言奉行也。彼亞相依御鬱陶。被_レ改_レ官職之處。能保以_レ御緣者。不

伺_レ御意。無_レ左右申_レ領狀之條。達_レ御聽之時。成_レ所望_レ敷之由。定可_レ被_レ貽_レ御疑心。仍辭申_レ訖者。 A

D E

" 5・④・1条

413、被_レ獻_レ武衛御返事。造内裏事。早可_レ致_レ沙汰。御廐司事。勅定之上。非_レ可_レ令_レ辭申_レ給_レ。美津御牧者。如_レ承

及者。爲_レ御廐管領地_レ敷。爲_レ後代。今度尤可_レ令_レ申付_レ給_レ哉云々。仍彼使者歸洛云々。 D E

" 5 ④・4条

414、泰衡容_レ隱義顯_レ事。公家爭可有_レ宥御沙汰_レ哉。任_レ先々申請之旨。早被_レ下_レ追討_レ宣旨者。塔供養之後。可_レ令

遂_レ宿意_レ之由。重被_レ遣_レ御書於帥中納言云々。 D E

" 5 ④・21条

415、可_レ召_レ返伊豆國流人前律師忠快_レ之由。宣_レ下狀到着。去月十五日源中納言。通親。左大弁宰相。親宗。少納言重繼

朝臣。右少弁定經等參陣。奉行職事宮内大輔資實云々。同時被_レ召返_レ流人。(中略)前中將時實朝臣。但不_レ及_レ城外云々。(中略)藤

原資定淡路國(下略) A E

" 5・5・17条

416、帥中納言經房。使者到着。所_レ被_レ進_レ塔供養願文一通也。草新藤中納言兼光。清書堀河大納言忠親云々。又錦被物一

重。綾被物二重被_レ進_レ之云々。 A E

" 5・5・29条

417、中納言法橋觀性。自_レ京都參着。是天台座主僧正全玄代官。爲_レ鶴岡塔供養導師也。左衛門尉高綱相具之參向。兼

日。以八田右衛門尉宅。被點置彼旅館之間。令招入其所給。先以三浦平六爲御使。被遣金光索餅等云々。 A D E " 5・6・3条

418、佐々木左衛門尉參入。則召北面廣庇。有御對面。東大寺佛殿柱已下材木。周防國杣出。殊致精誠之由。所聞

食及也。汝匪竭軍忠。已赴善因。尤神妙之旨被仰。高綱申云。重源上人頻被相催。仍去月十八日。御柱十五本沙汰付河尻訖。此外十五本。早可出杣之由。示付代官云々。 A D E " 5・6・4条

419、早旦。公朝參申云。爲御塔供養。自院被進御馬以下之間。相具參云々。被仰可給置之由。公朝白襖平礼帶劔。

參御所。御馬。葦毛。白鞍。付金師子丸打物泥障。白伏輪也。御廐舍人武廉着赤色上下。引立南門。駿河守廣綱請取之。(中略)女房三品局進

物扇二十本。納銀筒。公朝取之。授新田藏人義兼。里見冠者義成等。(中略)其後公朝撤劔。參于寢殿南面。二品

有御對面云々。 A D E " 5・6・6条

420、入夜。所被進京都之飛脚歸參。帥中納言返報到來。義顯誅討事。殊悅聞食之由。院仰所候也。兼又彼

滅亡之間。國中定令靜謐。於今者可素弓箭之由。内々可申之旨。其沙汰候云々。 A E " 5・6・8条

421、及晚。右武衛消息到來。奥州追討事。御沙汰之趣。内々被申之。其趣。連々被經沙汰。此事。關東鬱陶雖

難默止。義顯已被誅訖。今年造太神宮上棟。大佛寺造營。彼是計會。追討之儀。可有猶豫者。其旨已欲

被獻殿下御教書云々。又御廐司事。就被免仰。申領狀訖云々。 A D E " 5・6・24条

422、前大藏卿泰經朝臣者。依与義經朝臣。二品鬱申給之間。所被罪科也。而義經已敗北之上者。可被免除

歟之由。内々被_レ仰_二帥中納言。都督以_二其御教書。被_レ送_二獻之。今日到來云々。(下略) A D E

" 5・7・9条

423、大神宮領伊勢國沼田御厨士民等捧_二訴狀。去比參着。當所。元畠山次郎重忠充賜之處。依_二員辨大領家綱之訴狀

。被_レ收_二公之。賜_二吉見次郎賴綱。而賴綱亦巧_二不義。追_二捕民戶。點_二定財寶云々。仍今日有_二沙汰。爲

平民部羨盛時奉行。早可_レ令_二停止彼非據之由。可_二下知之旨。被_レ仰_二遣山城介久兼。爲_レ抽_二征伐御祈禱。以

及_二急速裁許云々。 A D E " 5・7・10条

424、被_レ進_二飛脚於京都。御消息云。可_レ追_二討奥州泰衡之由。言上先訖。定被_レ成_二下。宣旨候歟之由。存案之間。催

集軍士。已送_二數日候畢。亦。宣旨者。被_レ下_二官使候者。可_二遲留候。仰_二左兵衛督。以_二彼飛脚可_レ

給者。 C D E " 5・7・12条

425、右武衛使者後藤兵衛尉基清。并先日自_レ是上洛飛脚等參着。基清申云。泰衡追討。宣旨事。攝政公卿已下。被_レ經

度々沙汰_二訖。而義顯出來。此上猶及_二追討儀者。可_レ爲_二天下大事。今年許可_レ有_二猶豫歟之由。去七日被_レ下

宣旨也。早可_レ達_二子細之由。帥中納言相觸之。可_レ爲_二何樣哉云々。令_レ聞_二此事給。殊有_二御鬱憤。軍士多以

豫參之間。已有_二若干費。何期_二後年哉。於_レ今者。必定可_レ令_二發向給之由。被_レ仰云々。 A C D E

" 5・7・16条

426、右武衛飛脚。并先日自_二奥州所_レ被_レ進之御使等參着。被_レ下_二御感院宣之上。降人事。勸賞事。被_レ下_二仰詞記

也。二品太抔悅給云々。(中略)依_二御鬱陶。蒙_二勅勘輩。於_レ今者。有_二宥御沙汰。所謂八月一日。前大藏卿泰經

朝臣。前木工頭範季朝臣。可出仕之旨被仰。九月一日。前大納言朝方。聽本座。出雲守朝經被聽院內昇殿云々。 A D E " 5・11・3条

427、自京都被仰下之趣。為被申御返事。殊有其沙汰。 D E " 5・11・5条

428、武衛飛脚歸洛。被付遣帥中納言御報。勸賞事所被辞申也。御家人中。有勲功之輩。追可被注申之趣。被載之云々。 D E " 5・11・6条

429、因幡前司廣元為御使可上洛云々。是日來有其沙汰。今日已治定云々。征奥州之後。可令所務給條々被

申之。勸賞事。固被辞申。亦御家人勲功事可注申有功輩之由。有院宣。可被行賞故歟。辞申之上者。不及子細。但勇士者。臨戰場以施武威為先途。以此次。其名達上聽之條。可為其身眉目之間。雖可注姓名。且乍辞申賞。令注進之者。緯与意似相違。且如注進折紙。若被繼加記錄等者。永留代々。及後見之時。被漏名字輩之子孫。不願先祖無軍忠。定貽恨歟。旁無所據之由。謁帥卿并右武衛之時。内々可申出之旨。被仰因州云々。 C D E " 5・11・7条

430、因幡前司廣元為使節上洛。諸人莫不餞送。龍蹄百餘疋云々。二品賜鞍馬十疋。於京都為令送人々也云々。又被奉綿千兩於仙洞。是駿河國富士郡濟物也。 C D E " 5・11・8条

431、於伊豆相摸兩國者。永代早可知行之由。被仰下之間。二品已被申領狀訖。又可上洛之由。同所被仰也。被申御返事云々。討平奥州畢。於今者。罷入見參之外。無今生余執。臨明年可參洛者。 C

D E " 5・12・25条

- 432、奥州降人等被配流事。今日十八日所被宣下也。職事藏人大輔家實。上卿別當。隆房。弁權右中弁棟範朝臣云々。自是所被進之飛脚。去十七日辰剋入洛。帥中納言即依被奏聞。翌日及此御沙汰。於兩國事者。明春可有沙汰之由云々。 C D E " 5・12・26条
- 433、九郎藤次爲飛脚上洛。是鷲羽一櫃所被進仙洞也。去年可被進之處。自奥州遲到云々。 C D E " 6・1・3条
- 434、貢馬二十疋被進京都。解文等可付申右兵衛督能保之由云々。 C D E " 6・2・2条
- 435、來十月依可有御上洛。隨兵以下事。被觸諸國御家人等云々。 C D E " 6・2・4条
- 436、大内修理事。花構已成。是偏貞節之所致也。丁寧之勤。殊感思食早。可被仰勸賞。且有所望事者。可申上之由。有院宣。其狀昨日到來之間。被申御請文云々。(下略) A D E " 6・2・11条
- 437、造伊勢太神宮役夫工米事。諸國地頭等有未濟之旨。去年十二月。帥中納言奉書到着之間。日者被經沙汰。今日被奉御請文云々。盛時染筆云々。(下略) A D E " 6・2・22条
- 438、右兵衛督能保書狀到來。所被付廣元之使者也。被執進院宣定長奉。并權中納言經房狀等云々。其詞曰。(下略) A E " 6・3・14条
- 439、因幡前司廣元自京都參着。去年冬爲御使所上洛也。二品令申給條々。悉以有勅答。具言上其趣云々。亦付彼便宜。前大僧正公顯獻消息。去三日補天台座主訖。智證門人絕而無此例。仍山徒殊雖鬱申之。勅命有限。請取宣命。同六日上辭狀云々。此僧正者二品御歸依僧也。八十一老後。有此慶賀云々。 A

C D E

" 6・3・20条

440、造太神宮役夫工米地頭未濟事。頻有職事奉書。神宮使又參訴之間。可致不日沙汰之旨。下知給。於有子細

所々者。今日令注進京都給。因州并盛時俊兼等奉行之。其狀云。(下略) A D E " 6・4・19条

441、佐々木左衛門尉定綱飛脚參着。申云。去十三日亥刻。右武衛室依難產卒給云々。二位家殊歎息給。今年四十六

云々。 A D E " 6・4・20条

442、大和前司重弘爲御使上洛。是被訪申一條殿室家卒去事之故也。 C D E " 6・4・22条

443、去十一日有改元。改文治六年爲建久元年云々。 E 建久1・4・25条

444、右武衛室家四十九日。可被修御佛事之由。被仰遣佐々木左衛門尉定綱。導師請僧布施事。募近江國田上

報恩寺等乃貢。可致其沙汰之由云々。 D E " 1・5・10条

445、六條院修理并庄々年貢事。被下院宣。今日到來。其狀云。(下略) A E " 1・5・13条

446、大和前司重弘自京都歸參。態及專使。爲悲歎之中喜悅之由。右武衛殊被申御返報。重弘申云。去月十

三日。後室家爲存命落筋給。雖有產。遂以早世。翌日奉葬仁和寺邊。彼日賀茂祭也云々。 A D E

447、仙洞女房三位局來月於台嶺。可修佛事由。依令聞及給。被遣砂金帖絹等云々。 B D E " 1・5・19条

448、御隨身左府生秦兼平去比進使者。是八條院領紀伊國三上庄者。兼平譜第相傳地也。而自關東所被定補之

" 1・5・23条

地頭豐嶋權守有經。於事對捍。抑留乃貢。早可蒙恩裁之由訴申。仍任先例可沙汰濟物之旨。給御下文之間。彼使者今日歸洛云々。 A D E " 1・5・29条

449、定綱申送云。今日五月卅日奉爲一條殿。御佛事遂行訖。御導師寺僧都御房。公胤。御願文章右中弁殿。親經。大宮大

納言殿。實宗。右宰相中將殿。實教。新宰相中將殿。公時。爲聽聞有光臨之由云々。 A E " 1・6・10条

450、女房三位局消息定綱執進。參着。去十一日。於日吉社壇。以澄憲法印爲導師。供養五部大乘經。偏以御助

成果宿願云々。 A D E " 1・6・22条

451、法橋昌寬爲使節上洛。是來十月可有御上洛之間。於六波羅。當時可被新造御亭。仍爲奉行也

云々。 C D E " 1・7・12条

452、京都宿所地事。度々雖令申給。其所未治定之上。今年依可有御上洛。殊被馳申之。於作事奉行人

者。如材木爲用意。兼以上洛地事者。重被立飛脚。行程可爲五ケ日云々。御書云。(下略) C D E

" 1・7・27条

453、河內國內庄々地頭等押領事。并糟屋藤太有季致狼藉事。可被尋成敗之由。被下院宣之間。被獻御請文

之上。所被問子細於彼地頭也。(下略) A D E " 1・8・3条

454、京御地事。家實朝臣奉書到來。右大弁宰相所被執進也。(下略) A E " 1・8・9条

455、院廳官康貞。内々依有宿意歟。訴申民部卿經房。右大弁宰相定長。等事於二品也。戶部者希有讒臣也。諸人爲

彼可損亡。右大弁者又同意大藏卿泰經朝臣之凶臣也。參河守範賴執申之。二品更不承引給。兩人共有

良臣聞之上。關東事連々傳奏之間。未知其不可。努々此事不可及口外之由。令諾參州給云々。 A

D E

" 1・8・28条

456、板垣三郎兼信。高田四郎重家等。去七月雖被下配流官符。預送使不送之。于今在京之由風聞之間。内々

可被執申殿下之旨。被仰遣右武衛云々 B D E

" 1・9・13条

457、來月依可有御上洛。御出立間事等被經沙汰。今年諸國旱水共相侵。民戸皆無安。仍可下令延引給歟之

由。聊雖有御猶豫。兼日已被申仙洞訖。於今者不可及御逗留云々。御路次間事。諸事被定奉行

人。行政善信盛時康清等沙汰之云々。 C D E

" 1・9・15条

458、去月廿七日院宣到來。民部卿經房。所被執進也。條々内。兼信所領遠江國雙侶庄事。應御旨。今日被獻

御請文云々。是依光範朝臣所望。可被去進地頭職之由。所被仰下也。自余兩條者。先日自是被言上

爲勅答云々。院宣云。(下略) A D E " 1・9・17条

459、東大寺作事繩新苧。可宛催諸國御家人之由。被下院宣之間。二品悉以施行給畢。 D E " 1・9・20条

459、次御上洛事内々雖思企。諸國洪水折節可爲事煩歟之由。被示遣民部卿經房。許之間。依被奏聞。

有右大弁宰相奉書。戸部被執進之。今日所到來也。(下略) A D " 1・9・20条

459、京都御地事。故池大納言舊跡治定云々。被始作事之由。昌寬申之云々。 A E " 1・9・20条

460、御上洛之間。被定御留守兵士。被宛御家人等近々所領云々。伊豆國寺宮庄北條殿以下廿餘ヶ所也。行政奉行之

。又因幡前司者先上洛云々。御入洛以前於京都有可致沙汰事等之故也云々。 C D E

461、於駿河國蒲原驛。院宣到來。是近江國田根庄者。按察大納言朝房。領所也。依二品御齎陶。日者籠居之間。地頭佐々木左衛門尉定綱忽緒領家所務云々。彼卿復本之後就申子細。可令尋成敗給上之趣也。則以其趣

被仰含定綱訖云々。 A D E " 1. 10. 9条

462、於岡部宿。進院宣請文給。按察大納言使此程奉扈從。賜御請文。進以歸洛云々(下略) D E

" 1. 10. 12条

463、於近江國柏原。被召取前兵衛尉忠康。則以雜色被觸申其由於民部卿經房之許云々。 D E

" 1. 11. 2条

464、二品御入洛可爲今明之由。達叡聞之間。以度々追討賞。可有拜官之恩。然者可爲何官哉之由。有

勅問云々。今日。基清。朝光等爲御使先入洛。 D E " 1. 11. 4条

465、着御野路宿。前右馬助朝房自當國之三上社。献碗飯酒肴等。不令領納之給云々。 D E " 1. 11. 5条

466、甚雨。凌雨雖可有御入洛。依道虛并御衰日延引。令逗留野路宿給。今日。騎馬勇士在門前無礼也。可

令下馬之由。景時加下知之處。答申未習其礼旨。仍可召進其身之由。被仰義盛。々々窺出于門

外。件男已退去之程也。義盛挾引目追射之。則落馬。于時義盛郎從等擲取之。問子細之處。大舍人允藤

原泰賴也。承鎌倉殿御上洛事。爲御迎參向。且爲愁申伯耆國長田庄得替事也。全不知御旅館之由陳謝

之。非指雜念。早相宥可被召具之由云々。 D E " 1. 11. 6条

467、雨降。午一剋屬晴。其後風烈。二品御入洛。法皇密々以御車御覽。見物車輾轂立河原。申剋先陣入花

洛。三條末西行。河原南行。令到六波羅給。其行列（中略）秉燭之程。令着六波羅新御亭故池大納言賴盛卿舊跡。此間被建之。給。下

總守邦業。（中略）小山七郎朝光等。豫候此所云々。 D E " 1. 11. 7条

468、早旦。伊賀前司仲教參六波羅。所持參御直衣也。是日來整置云々。給御馬云々。左武衛能保。參給。御參內以

下事御談合云々。明日可有御院參之由。被觸遣民部卿經房。云々。又其間可警固辻々之旨。被仰下佐々木

左衛門尉定綱。注申辻々。義盛。景時取目錄。觸仰御家人等云々。 D E " 1. 11. 8条

469、天霽。二品令參院內給。御家人等警固辻々云々。今日付民部卿經房。可聽直衣之由奏之給。即勅許。藏

人左京權大夫光綱奉之。民部卿布衣平礼爲申次。豫被候御所。申剋。自六波羅御出。先御參仙洞

。六條殿。不（中略）於六條殿。昇中門廊。候公卿座端給。戶部兼候奧座。即被奏之。 以子息權弁定經朝臣傳奏。法皇着御淨衣。出

御常御所。南面廣廂緣敷疊。依戶部引導。參其座給。勅語移尅。及理世御沙汰歟。他人不候此

座。臨昏黑御退出。爰暫可有御禮候。有可被仰事之旨。戶部示申。然而稱後日可參之由。御退出

訖。戶部奏此旨處。可任大納言之由。可仰遣。定令謙退歟。不可待請文。今夜可被行除書

之旨。有勅定。又勅授事。同可被宣下云々。次御參內。閑院。自弓場殿方。候鬼間邊給。頭中宮亮

宗賴朝臣奏事由。主上御引直衣出御晝御座攝政殿候御座北給。依召御參簀子敷圓座。小時入御。次於鬼間。殿下

御對面。子一尅令歸六波羅給。次戶部被下院宣云（下略）。 D E " 1. 11. 9条

470、晴。新大納言家御參六條若宮并石清水宮等。（中略）先六條若宮。次參石清水給。於八幡宮。神馬一疋。銀鈿

一腰被_レ奉_レ之。馬場御所雖_レ儲_二御馱餉_一。依_レ無_レ便。入_二御于任覺房_一。今夜御逗留。御_二通_一夜寶前_一也。 D

E

" 1. 11. 11条

471、入_レ夜。自_二石清水_一。令_レ還_二六波羅_一給_{云々}。 D E

" 1. 11. 12条

472、晴。新大納言家御別進。以_二伊賀前司仲教_一。被_レ付_二御解文_一入函。被_レ封_レ之。於_二戶部_一。戶部又付_二左大丞_一定長。被_二奏覽_一
云々。(下略) D E

" 1. 11. 13条

云々。(下略) D E

" 1. 11. 13条

473、霽。大納言家御所進御馬。被_レ分_二進諸社_一云々。 D E

" 1. 11. 15条

474、雨下。大納言家送_二遣辛櫃_一二合時鶴。於_二御所女房三位局_一。被_レ納_二桑絲二百疋_一。紺絹百疋_{云々}。大和前司重弘爲_二御

使_{云々}。 D E

" 1. 11. 16条

475、亞相御_二參清水寺_一。御車也。供奉人被_レ用_二八幡詣人數_一。但隨兵之中。小山七郎朝光。和田太郎義盛二人相_二列于

御車前_{云々}。於_二彼寺_一。令_下衆僧_中讀_中誦法華經_上。施物多々_{云々}。 D E

" 1. 11. 18条

476、雨下。臨_レ夕休止。未尅。大納言家直衣。御_二參_一仙洞。左武衛能保。被_二參會_一。法皇御對面。及_二數尅_一云々。 D

E

" 1. 11. 19条

477、雪飛。大納言家可_レ被_レ任_二大將_一之由。院宣_{經房奉}。到來。而御請文之趣。不慮之外雖_レ任_二大納言_一。願_二涯分之

處。重又被_レ任_二大將_一。不_レ及_レ申_二左右_一云々。就_レ之。以_二經房卿_一。被_レ申_二合殿下_一。但無_二左右可_レ被_レ任_二付_一之由思

食_{云々}。殿下覽_二彼御請文_一。不_レ可有_二異儀_一之由被_レ申_{云々}。 D E

" 1. 11. 22条

478、小雪。大納言家御_二參_一仙洞。終日令_レ候_二御前給_一。又長絹百疋。綿千兩。紺絹卅端。被_レ進_二內臺盤所_一云々。 D

479、霽。入夜雨降。右兼相兼雅公。被上右大將辭狀。今夜。亞相可被任右大將事。被下院宣。經房奉。御請

" 1. 11. 23 条

文趣。辞退之志者多之。所望之儀者無之。何樣可令奏哉云々。入夜被行除目。藏人右少弁家實宣下。右近

衛大將源賴朝 上卿別當。通親卿。執筆右宰相中將。公時卿。幕下之外無任人云々。 D E " 1. 11. 24 条

480、晴。右大將家番長以下。自院被定仰之。右府生秦兼平可為番長。幡磨貞弘可為一座云々。亦拜賀間。御所

為先。今日被仰下。右府承勅被計申云々。 E " 1. 11. 26 条

481、依可有_二大將御拜賀_一。隨兵等事。今日有_二其定_一。(下略) D E " 1. 11. 28 条

482、入夜。右大將家御院參。布衣侍十二人在御共。各狩衣下着腹卷云々。(下略) D E " 1. 11. 29 条

483、雨下。日中天霽。右大將家毛車并廂車。御裝束。束帶直衣。鈿緒。隨身舍人以下裝束。皆悉自院被調下。檢非違使

則清為_二勅使_一。舍人居飼裝束等。右府御沙汰云々。 E " 1. 11. 30 条

484、晴。右大將家御拜賀也。主稅頭在宣朝臣獻日時勘文。是依院宣也。申一尅御參仙洞。六條北。西(中略)於中門洞院西。

令_レ奏慶給。內藏頭定輔朝臣為_二申次_一。歸出。仰聞食由。舞踏畢之後。有御前召。被_レ參進透渡殿

藏人兼敷圓座。即御退出。可_レ令賜_二御馬給_一之處。內々被_レ申子細之間。被_レ畧此儀云々。秉燭以前。六條東行。東

洞院北行。御_レ參內裏。閑院。於_二弓場殿_一令_レ奏慶給。右中將伊輔朝臣申_二次_一之。舞踏畢。頭中將實明朝臣召

之。參_二進晝御座前_一給。主上出御。中宮御方雖有御用意不_レ參給。又攝政殿同被_レ畧之云々。 D E " 1. 12. 1 条

485、晴。右大將家御直衣始也。藤丸薄色。堅文織物。奴袴出薄色紅梅掛。厚。野劔。紫革裝束。持笏給。檳榔毛車。(中略)

無扈從之人。先御參仙洞。入東門。候西作合廊給。則依召。右中弁棟範朝臣召之。參進御前。移尅御退出。抑

昨日拜賀。直垂者持太刀。有御尋。被奏姓名之處。無官不可然。早可被授兵衛尉之由。有勅

定云々。次御參內。今日上下裝束。皆以自院被調下之。 D E " 1・12・2条

486、右大將家令上兩職辭狀。納筥不裹之。給。右少將保家爲使。頭中將請取之。奏院。被留申云々。今日賜隨身還

祿。番長兼平馬三疋。色々布百段。近衛五人各馬一疋。色々布卅段云々。親能奉行之。 D E " 1・12・3条

487、前右大將家以絹布等。令施入京中可然神社佛寺給云々。親能。行政。昌寬等奉行之。 D E " 1・12・4条

488、前右大將家令詣八幡給。供奉人如前。今日被獻龍蹄於戶部。經房。又前駟之人々。皆被引馬。知家。胤

信等爲御使。 D E " 1・12・5条

489、前右大將家關東下向近々之間。御所女局三位局被送餞物等。扇百本在其中。是依内々御氣色。及此儀

云々。 D E " 1・12・7条

490、前右大將家。御劔一腰。砂金十兩。被施三井寺青龍院修理新。此靈場者。八幡殿殊御歸敬。被埋御髮

云々。 D E " 1・12・8条

491、前右大將家駕半部車。令參院給。件車自院所被調下也。 D E " 1・12・9条

- 492、六波羅御留守事。今日被_レ定_レ之。左武衛賢息幕下甥。可_レ被_レ坐_レ彼御亭云々。 D E " 1・12・10条
- 493、前右大將家令參_レ院內給。數尅御禮候。御家人十人募_レ成功。被_レ舉_レ任左右兵衛尉左右衛門尉等。是依_レ度々勲功之勞。可_レ舉_レ申_レ廿人之旨。所_レ被_レ仰下也。幕下頗雖_レ被_レ辭_レ申之。勅命再往之間。畧而被_レ申_レ任十人云々。(下略) D E " 1・12・11条
- 494、當時御車有三兩_一毛車。被_レ立_レ置于六波羅御亭。二兩者。今日爲_レ行政奉行。被_レ下_レ關東。佐々木左衛門尉定綱請_レ取之。以_レ近江國足夫送_レ之云々。 D E " 1・12・13条
- 495、天霽。前右大將家令下_レ向關東給。前後隨兵以下供奉人如_レ御入洛之時。但駿河守廣綱今曉忽逐電。家人等皆不知_レ之。仰天云々。是故伊豆守仲綱男也。年來奉_レ相_レ從右大將軍候_レ關東。仍去元曆元年六月五日。被_レ申_レ任當國守。今度伴令_レ上洛給之處如此。不知_レ其意云々。入夜風尤烈。令_レ着小脇宿給。 C D E " 1・12・14条
- 496、箕浦宿。 E " 1・12・15条
- 497、民部兼盛時。武藤二郎資賴等。奉_レ仰遣_レ使者於伊勢志摩兩國。又出納和泉掾國守相_レ副之云々は平家沒官地。未_レ被_レ補_レ地頭所々相交之由。依_レ聞食及。爲_レ巡檢之也云々。 B C D E " 2・1・17条
- 498、女房大進局浴_レ恩澤。是伊達常陸入道念西息女。幕下御寵也。奉_レ生_レ若公之後。絳露顯。御臺所殊怨思給之間。可_レ令_レ在京之由。内々被_レ仰含。仍就_レ近國便宜。被_レ宛_レ伊勢國_一敷云々。 D E " 2・1・23条
- 499、左武衛消息參着。當時洛中無_レ殊事云々。右馬允小野家長去年十二月卅日被_レ解官者。是成尋法橋子息也。不_レ蒙

御吹擧。自由任官之間。父子共御氣色不快。仍可被停召名之由。被申請之故也。 A D E

2・1・24条

500、畫像阿弥陀三尊一鋪被安置御持佛堂。是爲文學聖人沙汰。於京都日來所被奉圖繪也。今日有供養儀

。導師安樂房重慶。請僧三口。御布施導師被物三重。野劔一柄。請僧口別褻物二。時家朝臣并源高重等取之。 D

E

2・2・21条

500、又法住寺殿造營所課事被仰所々。 D E

2・2・21条

501、大理能保使者參着。是依被申炎上事也。 A E

2・3・20条

502、大理能保并廣元朝臣等飛脚參着。各被献書狀。去月比。佐々木小太郎兵衛尉定重。於近江國彼庄。刃傷日吉

社宮仕法師等。仍山徒蜂起。所司捧奏狀參洛。可賜定重身之由申之。又可差進延曆寺所司等於關東之

由風聞。朝家大事。忽然出來之。其濫觴。近江國佐々木庄者。延曆寺千僧供領也。去年有水損之愁。乃貢太闕

乏間。云定綱。定重云土民。無所于欲沙汰送之。仍衆徒等去月下旬。差遣日吉社宮仕等。奉日吉

神鏡。乱入定綱之宅。听門戶。破城壁。譴責家中男女。頗及耻辱。于時定重不堪一旦忿怒。令

郎從等刃傷宮仕二人。此間誤破損神鏡云々。 A E

2・4・5条

503、佐々木三郎。同五郎等赴近江國。是爲訪定綱也。 E

2・4・6条

504、佐竹別當自常陸國參上。今日於營中献盃酒。幕下雖有御入興之氣。山門騷動事。依思食惱。不及數

献之儀云々。 D E

2・4・9条

505、定綱逐電佐々木庄之由有其聞。就之有被凝群議事云々。定參向關東由。幕下被仰云々。 B D E

506、梶原平三景時爲使節上洛。是延曆寺衆徒可申請定重黨類之由。及強訴之間。罪科無所遁者。早可被行其科之旨。依被奏聞也。又所司可參向之由風聞之間。遮而如此云々。 B C D E

507、今日。後藤兵衛尉基清爲使節上洛。依定綱定重事。山門之訴更難休。殆申可被行定重於斬罪之由云々。飛脚連々到來之間。重及此儀。先度於言上給之趣者。已達叡聞。就之內々雖被宥仰。衆徒更不云々。靜謐云々。然者。若無左右及臬罪者。景時私令懇望于衆徒。佐々木庄已下定綱知行所半分。限未來際。可奉附山門之趣。可問答之由。被仰遣云々。 A C D E

508、雨降。延曆寺所司弁勝。義範等參着。先徘徊橫大路。營南門前申事由。仍點基清之家。被召入彼二人。先賜酒肴。次遣俊兼。盛時等。令問答給。献上衆徒狀。可給定綱父子身之由所載之也。亦彼父子之外。稱下手人。注進交名。是去三月於佐々木庄。凌轢山門使。其張本之所謂。堀池八郎實員法師。井伊六郎直綱。岸本十郎遠綱。源七眞延。源太三郎遠定等也。而無召渡其身於敵讎例之由。仰及再三云々。 A

D E

509、延曆寺所司等歸洛。賜馬二疋。色々染絹三十段。又被遣御返報云々。 D E

510、大夫尉廣元飛脚自京都參着。大理被獻書狀。去月廿六日。山門衆徒爲訴申左衛門尉定綱。頂戴八王

子。客人。十禪師。祇園。北野等神輿。參閑院皇居之間。則有群議罪名。減死罪一等。可被處遠流云々。其趣定被宣下歟之。又遠江守義定朝臣飛脚參申云。當時禁裏守護番也。去月廿六日神輿入洛之時。家人等及相禦。不可發鬪戰之由。頗有別當宣之間。謹慎處。家人四人。同所從三人忽爲山徒被刃傷。依仰朝威。怖神鑒。已如忘勇士之道。可殆招人之嘲歟云々。此事有其沙汰。善信。行政。俊兼。盛時等依召參上之。 A D E

511、被付。奏書於高二位。奉經卿善信草之。俊兼清書也。申刻。雜色成重帶之上洛。其狀云。(下略) C D E

512、佐々木左衛門尉定綱等事。依山門訴。所被下之去月廿六日口宣。同廿八日院宣案文等到着。又同廿九日。被

定定綱等罪名訖。去一日。神輿御歸坐云々。(下略) A E

513、大夫尉廣元去月廿日賀茂祭供奉。賜院御廐御馬。則具御廐舍人。金武。凡施眉目云々。其間記錄進之。又

申云。爲上皇御願。近江國高嶋郡被安五丈毘沙門天像。近日可有供養之儀云々。善信聞此事。申云。彼像者。去養和之比。於仙洞仰佛師院尊法印被作始之。幕下仰曰。此事度々所有風聞也。自平相國在世之時奉造立。推量之所及。爲源氏調伏歟。頗不甘心云々。仍其趣。内々被仰遣廷尉許云々。(下略) A

B D E " 2・5・12条

514、於近江國辛崎邊。佐々木小二郎兵衛尉定重止流刑被梟首。此事。日來可遁此難之樣。幕下雖被廻賢慮。山徒鬱陶。遂以無所被宥仰云々。此事爲景時之奉云々。(下略) D E " 2・5・20条

515、大理姫君可嫁左大將良經給。其儀已在近々云々。仍姫君御裝束。御臺所女房五人。侍五人。裝束。并長絹百

疋。幕下可被沙汰送之由。兼日有其定。被宛御家人等。女房裝束者。親能。廣元等於京都可調進

之由。申領狀了。(下略) D E " 2・6・9条

516、神護寺文學上人申送云。駿河守廣綱遁世之後。于今在上醍醐之由。悞聞其告云々。 A E " 2・6・24条

517、安達新三郎自京都參着。大理御吉事。去月廿五日也。左幕下渡御彼一條室町御亭云々。 A E " 2・7・11条

518、或僧其名。此間參籠鶴岡。今日付別當法眼。奉佛舍利三粒於幕下。而仰云。佛舍利歸依太雖惟深。去比東

大寺上人重源弟子空鉢。宋人於室生堀出數十粒佛舍利盜取。仍興福寺鬱陶。虜空鉢畢。別當覺憲僧正

申子細云々。今若彼類歟之由。非無疑心。忽然相傳。爭不憚後聞乎。然者不能納受云々。生一持歸之

云々。若宮別當殊被感申云々。 A D E " 2・7・23条

519、北條殿室家上洛。是爲奉幣氏神云々。幕下被遣種々餞物。又諸人同致丁寧沙汰云々。 C D E " 2・9・29条

520、爲佐々木三郎盛綱。宮六僚仗國平等沙汰。自奥州并越後國。召進駿牛十五頭。今日有御覽。是法住寺

殿。義仲叛逆之時惡徒乱入。又文治元年地震悉頽傾之間。爲關東御沙汰。被加修理。爲被立其牛屋

也。而此牛不可然之由。前少將時家。大夫屬入道善信等申之。仍於京都奔波。還似無。所詮以御馬可

爲「牛替」之由。有「御沙汰」云々。 D E

" 2・10・1 条

521、御隨身左府生兼峯去比進「使者」。可「被」停「止」所領紀伊國三上庄地頭「之由」所「訴申」也。是任大將御拜賀之時供奉以降有「功者」也。仍任「申請」之旨。無「左右」可「停」止地頭職「之旨」被「仰下」。地頭者豐鳴權守有經也。可「賜」替之趣。又被「仰」有經云々。 A D E " 2・10・2 条

522、成勝寺執行昌寬法橋爲「使節」上洛。是法住寺殿修造之間。差「置」前掃部頭親能。大夫判官廣元。昌寬三人行事也。而昌寬去比依「召雖」歸參。爲「終」其功。重「上洛」云々。 C D E " 2・10・10 条

523、廣元朝臣可「辭」明法博士「之由」申送之。祇「候」關東之輩。以「顯要」之官職。恣兼帶不可「然」。可「令」辭之旨被「仰下」云々。 A D E " 2・10・20 条

524、御馬三疋。共鶴毛日來被「預」置三浦介。今日被「遣」京都「勞飼」之。仙洞御移徙後朝可「進上」之由。被「仰」廣元朝臣之許云々。 C D E " 2・11・3 条

525、及「晚」。幕下令「立」北面簀子「給」之處。法師一人跪「庭上」。聊有「御用心」。以「三浦太郎景連」。被「尋」仰子細。法師曰。吾駿河守童加世丸也。守自怨恨。令「發心」逐電。當時爲「求法」。住「上醍醐」。而頻蒙「慇懃」御扶持「之條難」忘。挿「叛逆」逐電歟之由。定有「疑貽」哉。早申「披事由」。可「歸來」之旨。示付之故所「參也者」。仰曰。恨「何事」乎。申云。大將御拜賀之時。撰「馴」京都「輩」。被「定」供奉人「之處」。廣綱自「幼稚」住「洛陽」之上。謂「官位」者。又就「最初」御吹舉「任之間」。於「一族」爲「上臈」。然而漏「其列」訖。次駿河國々務事。雖「成」望不「達」之。兩條依「失」眉目「遁世」。於「今者」。彼已爲「出離」知識。凡於「浮生榮花」者。所「不」庶幾也。御沒後如「奉」訪「菩提」可「酬」恩

德。有前後相違者。可爲善處引導云々。仰云。此事兩條共。更難稱恨事歟。前駟者自院被定之外。參州者爲兄弟之間。難准自餘之條。相模守已下令存知之。敢不貽所存。廣綱獨何可有憤念哉。次國務事者。不伺叡慮者。非私計畧之處。不相待左右逐電。不知行方之間。力不及次第也。須相副御使於汝。遣陳謝狀云々。仍暫可令候。點旅宿。可招引之由。景連示之。白地出訖。立歸相尋之處。彼法師不知行方云々。事之躰奇恠之由云々。 A D E " 2・11・27条

526、親能。廣元等使者自京都參着。去十七日。法住寺殿有御移徙之儀。每事無爲云々。大理所被獻其記也。其

日出仕之人々。攝政殿。右大將。賴實。新大納言。忠良。左大將。良經。(中略)頭中將。實明朝臣。頭大藏卿宗賴朝臣已下

也。自六條殿出幸。掃部頭安倍季弘朝臣候反閑。(中略)又女房二位局具前駟四人。衛府四人。參上。入御之後供五菓。右大

將被進之。(中略)翌朝。前掃部頭親能。薄青織襖狩衣。大夫判官廣元。白襖一斤染衣。平禮。不帶劔。依召參御所堂上。親能以左中將

親能朝臣賜御劔。入錦袋。廣元同給之。左少將忠行傳之云々。廣元載狀申云。鶴毛御馬三疋。御移徙後朝引進

之云々。今夜被置御所物。鈍色裝束。表代。(中略)御廐御馬二十疋。此外被獻女房二品局物。白綾百疋。(中略)

紺絹百疋也。 A D E " 2・12・24条

527、戶部經房卿。并女房二品局等狀到着。法住寺殿修理被盡美事。所被賀申也。凡今年。於京都件造營。於關

東又鶴岡遷宮。幕府新造。云是云彼。不費民戶而令成大功等給之條。人莫不感申矣。 A D E " 2・12・29条

高三位書狀參着。所送進院廳御下文也。是相催地頭之輩。可令引東大寺柱之由也。 A E " 2・12・29条

528、

- 529、東大寺柱四十八本。明年中可_レ引進_一之由。被_レ仰_二畿内_一西海地頭等。佐々木四郎左衛門尉高綱可_レ爲_二奉行_一云々。 D
E " 2・⑫・5条
- 530、梶原刑部兼朝景申之。去十六日夜。左府禪閣_{實定公}薨給。年五十三云々。幕下殊歎息給。關東有_二由緒_一。日來所_レ被_レ重之也。梶原者。又朝景々時共以浴_二彼恩澤_一云々。(下略) A D E " 2・⑫・25条
- 531、自_二今月中旬之比_一。法皇御不豫。御痢病与_二御不食_一計會之由。依_レ有_二其聞_一。幕下自_二今日_一御潔齋。爲_二彼御祈請_一。讀_二誦法華經_一給云々。 B D E " 2・⑫・27条
- 532、大夫尉廣元爲_二使節_一上洛。是自_二去年窮冬之比_一。太上法皇漸御不豫。玉躰令_レ腫御云々。依_二此御事_一也。幕下頻御祈禱。今度則付_二廷尉_一。被_レ奉_二秘藏御劍_{鳩作}。於石清水宮。又有_二神馬_一。此廷尉去々年上洛。去年又爲_二法住寺殿修理行事_一在京。爲_二當職_一賀茂祭供奉。重事連綿。適去多月迫歸參。重上洛雖_レ爲_二不便事_一。依_レ爲_二天下大事_一差進之旨。直被_レ仰_之云々。 C D E " 3・2・4条
- 533、去月三日彌勒寺金堂燒亡。本尊藥師像并日光菩薩。毗沙門天等爲_二灰燼_一云々。 E " 3・2・6条
- 534、鶴岡別當法眼_{圓曉号}宮法眼。被_二上洛_一。爲_二園城寺三院入堂_一云々。幕下被_レ遣_二丁寧餞物_一。剩爲_二長途兵士_一。被_レ相_二副雜色_一八人_{云々}。 C D E " 3・2・13条
- 535、法印權大僧都成清書狀參着。今月二日補_二石清水檢校_一云々。法眼道清補_二同權別當_一之由申_レ之。 A E " 3・2・14条

536、廣元朝臣使者自京都參着。去十三日入夜入洛云々。法皇御惱殆危急。仍御劔則奉送石清水之由申之。

A D E

" 3・2・22条

537、於武藏國六連海邊。囚人上總五郎兵衛尉忠光梟首。義盛奉之。日來斷漿水云々。推問之間。申云。更無同類。

。但越中次郎兵衛尉盛繼。去年之比隱居丹波國。彼同存會稽之志歟。於當時者難知在所。曾不定。

一所云々。 A D E

" 3・2・24条

538、廷尉廣元書狀自京都參着。當職事既上辭狀。訖。其案文謹献上云々。此事太相叶御意云々。彼狀云。(下略)

A D E

" 3・3・2条

539、江次久家爲相傳神樂秘曲等上洛。仍被遣奉書於左近將監好節之許。平民部兼盛時奉行之。(下略) C D

E

" 3・3・4条

540、未剋。京都飛脚參着。去十三日寅剋。太上法皇於六條殿崩御。々々不豫大腹水云々。召大原本成房上人。爲

御善知識。高聲御念佛七十反。御手結印契。臨終正念。乍居如睡。遷化云々。計寶算六十七。已過半

百。謂御治世四十年。殆超上古。白河法皇之外。如此君不御坐矣。幕下御悲歎之至。丹府碎肝膽。是

則忝合體之儀。依被重君臣之礼也。云々。 A D E

541、迎法皇初七日御忌景。於幕府被修御佛事。義慶房阿闍梨爲御導師。請僧七口也。幕下每七七日御

潔齋。有御念誦等云々。 D E

542、於山內有百ヶ日温室。往反諸人并土民等可浴之由。被立札於路頭。是又爲法皇御追福也。俊兼奉行

之。今日御分也云々。平民部羨。堀藤次等沙汰之。以百人被結番。雜色十人在此内云々。 D E

” 3・3・20条

543、第二七日御佛事被修之。導師安樂房。彼崩御事。今日具披露于關東云々。遷化之刻。女房二位局落飭。戒師本

成房也。若狹守範綱。主稅頭光遠。御閉眼之後出家。御後事。民部卿經房。右中弁棟範朝臣。別當。右少弁資實判官

代。奉行之。崩御當日時刻御入棺。澄憲僧正。靜賢法印爲役人。中將基範。成範 卿男。中將親能。少將教成。二品 局息

少將忠行。右馬頭資時入道。故資賢大 納言子。大膳大夫業忠。範綱入道。若州 周防 守。等。又從此役。同十五日。奉

葬法住寺法華堂。難爲重日。依遺令也。凡如此諸事。御存日被定置云々。 A D E

” 3・3・26条

544、三七日御佛事也。導師惠眼房阿闍梨。自今日。幕下可令讀誦每日一卷法花經給云々。是日來御日所作外也

云々。 D E ” 3・4・4条

545、若公七歲 御母常 陸入道姉。乳母事。今日。被仰野三刑部羨成綱。法橋昌寬。大和守重弘等。而面々固辭之間。被仰長門江

太景國畢。仍來月潛奉相具。可上洛之由。被定云々。(下略) C D E ” 3・4・11条

546、法皇三十五日御佛事也。惠眼房阿闍梨爲御導師。布施。綾被物二重。御馬一疋置鞍云々。亦來四十九日御佛

事。可爲百僧供。仍鎌倉中并武藏相模伊豆爲宗之寺社供僧等。可從其請之由。被下御書。行政。仲業

等奉行之。又於京都可被修御追善之旨。兼日有御沙汰云々。 D E ” 3・4・28条

547、法皇四十九日御佛事。於南御堂被修之。有百僧供。早旦各群集。布施。口別白布三段。袋米一也。主計允行

政。前右京進仲業奉行之云々。(下略) D E " 3・5・8条

548、若公令上洛給。是爲仁和寺隆曉法眼弟子爲入室也。長門江太景國。并江内能範。土屋弥三郎。大野藤八。由

井七郎等扈從。雜色國守。御廐舍人宗重等被差進之。自常陸平四郎由井宅進發給。去夜幕下潛渡御于

其所。奉御劔給云々。 C D E " 3・5・19条

549、次若公幼稚之意端挿仁惠。優美之由有御感。被獻御劔於金剛公。是年來御所持物云々。彼御劔者。承久兵

乱之時。宇治合戰帶之給云々 D E " 3・5・26条

550、鶴岡別當法眼自京都被下着。直參幕下被謁申。法皇崩御之後事粗語申。去四月二日。主上還御本殿

。三月十五日御倚廬。被行解陣開關事。廿日加茂祭。依諒闇停止之云々。 A E " 3・6・18条

551、由井七郎自京都參着。去十六日。若公渡御于旃勒寺法印隆曉仁和寺坊。一條殿卿_{能保}被奉具之。於彼坊有

御贈物。參河律師隆遍取之。 A E " 3・6・28条

552、大理飛脚參着。去十二日。任征夷大將軍給。其餘書。差勅使欲被進之由。被申送云々。 A E " 3・7・20条

553、勅使廳官肥後介中原景良。同康定等參着。所持參征夷大將軍除書也。兩人_{各着衣冠}。任例列立于鶴岳廟庭。以

使者可進除書之由申之。被遣三浦義澄。々々相具比企右衛門尉能員。和田三郎宗實。并郎從十人。_{各甲冑}

詣宮寺。請取彼狀。景良等問名字之處。介除書未到之間。三浦次郎之由名謁畢。幕下_{御束帶}。豫出

御西廊。義澄捧持除書。膝行而進之。千万人中。義澄應此役。面目絕妙也。亡父義明獻命於將軍訖。其

勲功雖剪鬚。難酬于没後。仍被抽賞子葉云々。除書云。(中略)將軍事。本自雖被懸御意。于今不令達之給。而法皇崩御之後。朝政初度。殊有沙汰被任之間。故以及勅使云々。又爲知家沙汰。點武藏守亭。招勅使。經營云々。 A D E " 3・7・26条

554、景良。康定歸洛。先是從將軍家。馬十三疋。桑絲百十疋。越布千端。紺藍摺布百端。令餞送之給云々。朝光爲使節。 C D E " 3・7・29条

555、右馬權頭公佐朝臣獻書狀。去月廿日。依人之讒口被除籍。於身無其科。賜一行欲愁申云々。仰云。雖讒者。以一向虛言。不可達天聽。内々有懈緩事之條。無異儀歟。以親昵輒不能執申之由云々。 A D E " 3・9・5条

556、來月一條黃門依可被參熊野山。白布五十端可調獻之由。被仰遣佐々木中務兼經高。此上被送襲蹄二疋。今曉。雜色鶴次郎。御廐舍人仲太相具之上洛云々。 C D E " 3・9・17条

557、女房大進局。先日拜領伊勢國三ヶ山事。依被申子細。重被遣政所御下文。民部兼行政奉行之云々。 A D E " 3・12・10条

558、一條前黃門書狀參着。以亡室遺跡廿ヶ所。讓補男女子息。爲塞將來之乖違。去月廿八日。申下宣旨。訖。右中弁棟範朝臣傳宣。權中納言兼光卿。宣奉勅云々。是平家没官領内。攝津國福原庄。武庫御厨。小松庄。(中略)備後國信敷庄。吉備津宮。淡路國志筑庄。已上廿ヶ所。先日被奉讓黃門室家將軍家御妹也也云々。 A E " 3・12・14条

559、高雄文學上人傳申云。東大寺造營。頗難終功之由。舜乘房愁訴申之。舊院御時。雖被寄料米二万石。國司

只貧利潤。敢不致沙汰。於今者。關東不令執申給上者。難成歟云々。仍被預舊院御分國內備前國於文

學房。以其所濟。可給彼寺之營作之由。可早被申京都。亦保元以後顛倒新庄建立畢。於土御門殿

可被奏達之趣。有沙汰云々。 A E " 4・1・14条

560、去年十二月卅日。停止錢貨之由。有其沙汰之旨。一條殿被申送云々。 A E " 4・1・26条

561、奉為舊院周闋御佛事。所被召聚之長絹五百疋。被進京都。佐々木四郎左衛門尉高綱可執進之由被

仰遣。為因幡前司沙汰。今日進發云々。 C D E " 4・2・3条

562、平六左衛門尉於京都卒。北條殿腹心也。且為彼眼代。且為御使在京。多施勲功訖。人々所惜也。

前左衛門尉平朝臣 年四十九

北條介時兼男

文治二年七月十八日 任左兵衛尉

同五年四月十日 任左衛門尉 賀茂臨時祭并御祈功

建久元年七月十八日 辭退 E " 4・2・25条

563、京都警衛勤厚御家人等者。其賞可超過關東近士之趣。被仰下云々。 D E " 4・2・28条

564、迎舊院御一廻忌辰。被修御佛事。千僧供養也。御布施。口別白布二端。藍摺一端。麿牙一袋也。武藏守義

信為行事。其儀。被定宿老僧十人。所為頭也。仍各相具百僧。點便宜道場。為沙汰饗祿等。每

百口被相副二人奉行云々。(下略) D E " 4・3・13条

565、東大寺修造事。文學上人知行幡磨國。可令奉行_{之由}。將軍家計申給云々。是則其功未訖之故也。 D E

" 4・3・14条

566、平家与黨越中二郎兵衛尉盛繼已下隱居近國之由有風聞。早可追討_{之由}。被仰兵衛尉基清云々。 B D

E " 4・3・16条

567、舊院御一廻之程者。諸國被禁狩獵。日數已馳過訖。仍將軍家爲覽下野國那須野。信濃國三原等狩倉。今

日進發給。(下略) D E " 4・3・21条

568、住吉神主昌助參鎌倉御留守。以女房申云。去月依舊院御周闋。可被召返_{之由}。被下官符云々。是去治

承三年五月三日。所被配流伊豆國也。日來雖未爲赦身。潜仕將軍家云々。 A E " 4・4・11条

569、去月十二日被召返流人等。佐々木左衛門尉定綱在_{其中}之由。一條前黃門被申送_之。又彼弟經高。盛綱等

同言_{上其旨}。將軍家太歡喜給。治承四年以來。專顯勲功之間。爲殊寵愛之處。依山門訴訟。去々年所被

配流薩摩國也。 A D E " 4・4・29条

570、文學上人以東大寺造營料國領。或稱弟子。或号檀那。分与俗人之由。依有_{其間}。事實者已非興隆佛

法之志。定招貪婪人用_之訛欺。且上人預將軍家御吹舉。令知行彼在所之處。及此義者。世上之

嘲。關東可歸哉。殊被痛思食_{之旨}。爲加諫諍。今日被遣梶原刑部兼朝景。并安達新三郎清恒於京都

云々。 B C D E " 4・6・25条

571、鶴岳若宮陪從江右近將監久家。屬右近將監好方。爲傳神樂秘曲。忽企客路遠行。去比上洛。豫申入子細

畢。而今日被遣御消息於好方。宮人曲申秘藏之條。雖可謂勿論。令傳久家者。奉授將軍之由。可

思食准也云々。 C D E " 4・7・18条

572、横山權守時廣引一疋異馬參營中。將軍覽之。有其足九。前足五後足四是出來于所領淡路國々分寺邊之由。去五

月之比依有告。乍恠召寄之旨言上。仰左近將監家景。可被放遣陸奧國外濱云々。周室三十二蹄者。八疋

之所合也。本朝一疋之九足。誠可稱珍歟。然而房星之精不足愛之。今被却之於千里瀧挑。尤可爲榮者

哉。 A D E " 4・7・24条

573、梶原刑部兼朝景自京都歸參。文學上人狀到着。以東大寺料所分与俗人由事。殊陳申云。當時再興事。其志

太甚深。而國民近日巧奸濫之間。依不拘惜於小僧成敗。以有親族寄之輩爲兵士。入部國領等。若此

事爲讒訴之基歟。猶入此讒之族者。永断今生願望。後世墮無間地獄。無浮期之趣載之。凡以惡口爲

事。頗不叶將軍御意云々。 A D E " 4・7・28条

574、故法皇御舊跡宣陽門院當時無人也。群盜已下狼藉。尤可有怖畏之由。前黃門内々依被歎申。日來有其沙汰

。相催畿内近國御家人等。可差進宿直之旨。被仰含經高。盛綱。基清等云々。 A D E " 4・9・7条

575、御堂供養導師下向之間。海道驛家雜事送夫等事。被支配御家人等。今日付雜色等所被遣也。來廿日比可

令出京云々。仲業。行政。賴平等奉行之云々。 D E " 4・10・3条

576、多好節依_レ召自_二京都_一參着。來月於_二鶴岡_一依_レ可有_二御神樂_一也。又右近將監久家同歸參。是爲_レ令_二相傳秘曲_一。先

日所_二上洛_一也。宮人曲。不_レ殘_二一事_一。傳受之由申_レ之。加之好方載_レ狀。言_二上其旨_一。非_二譜第之輩_一。雖不_レ傳_二此曲_一。隨_二嚴命_一。悉以令_レ授之由云々。 A C D E " 4・10・7条

577、佐々木左衛門尉定綱參着。此程薩摩國流人也。去三月十二日。依_二舊院御一廻御佛事_一。被_レ免_二勅勘_一云々。將軍家日來殊歎息給之處。適逢_レ赦參上之間。甚歡喜給。則召_二御前_一云々。近江國守護職事。如_レ元可_レ令_二執行之由云々_一。 A

D E " 4・10・28条

578、前權僧正眞圓_{号亮}。自_二京都_一參着。是永福寺傍建_二梵宇_一。被_レ安_二置藥師如來像_一之間。爲_二供養導師_一依_レ被_二招請_一也。(中略)又願文到着。草式部大輔光範卿。清書按察使朝方卿云々。 A D E " 4・11・8条

579、永福寺藥師堂供養也。將軍家渡_二御寺內_一。於_二南門外_一整_二行列_一。(中略)還御之後。卷絹百。染絹百。宿衣一領。八木百石。送文_{於近江國可致沙汰云々}。等被_レ遣_二僧正旅館_一。比企藤内朝宗爲_二御使_一云々。 D E " 4・11・27条

580、被_レ奉_二砂金於京都_一。是東大寺大佛御光新也。被_レ下_二佛師院尊_一支度。可_レ被_レ進_二二百兩旨_一。有_二御教書_一云々。 D E " 5・3・22条

581、源藏人大夫賴兼使者自_二京都_一參着。獻_二書狀_一。大內守護之間。去月廿八日。於_二仁壽殿前_一。擲_二獲犯人_一。推問之處。欲_レ燒_二大內_一云々。此上不_レ及_二子細_一。則梟首之由載_レ之云々。度々顯_二勲功_一。於_二武勇_一頗不_レ耻_二父祖之旨_一。將軍家殊感給云々。 A D E " 5・4・7条

582、故小松内府孫子_{維盛卿男}。六代禪師自_二京都_一參向。所_レ帶_二高雄上人文學書狀_一也。偏依_二恩化_一。繼_レ命之間。於_二關東

- 更不存巨惡。矧亦於下遂出家遁世哉之由。屬因幡前司廣元申之云々。 A E " 5・4・21条
- 583、被進砂金百三十兩於京都。且可傳獻由。被仰遣一條前中納言能保卿。之許云々。是東大寺大佛御光祈。去春之比被進之殘也。二百兩可入之由云々。 D E " 5・5・10条
- 584、六代禪師事有其沙汰。暫可令止住關東之由云々。是平治逆亂之時。故小松内府爲源家被施芳言訖。依不思食忘如此云々。 D E " 5・5・14条
- 585、東大寺供養之間雜事總目錄。爲民部卿經房奉。被送進之。御布施并僧供新米等事。且勸進家人等。可令沙汰進給之由。所被仰下也。最初建立以來。以奉加大功訖。今尤可奉助成之由云々。依之爲因幡前司廣元。大夫屬入道善信于奉行。被下御書於諸國守護人。可致勸進國中由云々。 A D E " 5・5・29条
- 586、將軍家招六代禪師。對面給。無異心者。可補一寺別當職之由被仰云々。 D E " 5・6・15条
- 587、造東大寺間事。將軍家旁令助成給。材木事。仰左衛門尉高綱。於周防國。殊有採用。又二菩薩四天王像等。宛御家人。可致造立云々。所謂觀音。宇都宮左衛門尉朝綱法師。虛空藏。穀倉院別當親能。增長。畠山次郎重忠。持國。武田太郎信義。多聞。小笠原次郎長清。廣目。梶原平三景時。又戒壇院營作。同被仰付小山左衛門尉朝政。千葉介常胤以下訖。而其功頗遲引之間。今日所被催促也。但各偏存結緣之儀。可成功之由。御下知先訖。只以下隨公事之思。緯若及懈緩者。可辭申之旨。嚴密被觸仰云々。 D E " 5・6・28条
- 588、民部卿經房卿有被申之旨。東大寺供養日事。可爲明春正月之由。已雖有其定。遠國之輩。爲結緣令

上洛者。時節若可有煩歟者。依此事。將軍家可有御上洛。供奉人尤可歎申之比也。然者聊被延引之條。可叶結緣民庶望歟之旨。可被申之由云々。 A C D E " 5・7・3条

589、於左女牛宮寺。別可抽御祈禱之由。被仰遣季嚴阿闍梨云々。 D E " 5・8・12条

590、右兵衛督高能朝臣自京都下着。是將軍家御外甥也。則被參幕府有御對面云々。旅館不及他所。坐小御所云々。 A D E " 5・8・14条

591、一條前黃門使者自京都參着。去一日依病遂素懷之由申之云々。今年四十八云々。侍中三兵衛尉兼經。小舍人荒四郎等令出家云々。 A E " 5・⑧・16条

592、平六左衛門尉時定遺跡事。可令子孫領掌者。尙本所領少々有知行事。於其地者。早可返付之由云々。 D E " 5・⑧・28条

593、東大寺供養御布施用途。被進京都。仲業。行政等爲奉行。下送文於御使雜色時澤清常云々。 D E " 5・9・2条

594、岡冠者頼基大和國所領不可有相違之間。重被仰下云々。 D E " 5・9・25条

595、太神宮并熱田社。神馬御劔等被奉獻之。爲廣元朝臣奉行。各立使者云々。 C D E " 5・9・28条

596、永福寺内新造堂事。今年中依可被遂供養。爲導師可被請申東大寺別當僧正之由云々。仍右京進季時爲其使節上洛云々。 C D E " 5・10・13条

597、於勝長壽院。有如法經十種供養。是故鎌田兵衛尉正清息女所修也。(中略)彼女性父左兵衛尉正清者。故大僕

- 卿功士也。遂於一所終其身。仍今將軍家殊令憐愍給之間。雖被尋遺孤無男子。適此女子參上。以尾張國志濃幾。丹波國田名部兩庄地頭職令恩補給訖云々。 D E
- 598、貢馬八疋。并砂金紫絹染絹綿等。御使雜色相具之令上洛。昨夕門出云々。 C D E
- 599、東六郎大夫胤賴子息等令祇候本所瀧口事。向後雖不申子細。進退可任意之旨。被仰下云々。 D E
- 600、御堂供養間導師以下施物等。自京都到着。前掃部頭親能爲奉行所調進也。 A D E
- 601、右京小進季時自京都下着。御堂供養導師已可有下向之由云々。 A E
- 602、御堂供養導師近日可令下着之由。先使到來之間。爲其迎可被遣御家人等。又所被宛催傳馬以下也。(下略) A C D E
- 603、明春依可有御上洛。爲供奉被催東國御家人等。親能惣奉行。行政書下之。其狀書樣。(下略) C D E
- 604、法橋昌寬爲使節上洛。是將軍家爲南都東大寺供養御結緣。依可有御京上。六波羅御亭可加修理之故也。 C D E
- 605、眞如院僧正眞圓被歸洛。宿次傳馬送夫等事。爲三浦介義澄。民部兼盛時等奉行。支配云々。 D E
- " 6・1・16条
- " 5・10・25条
- " 5・10・26条
- " 5・10・29条
- " 5・11・20条
- " 5・12・13条
- " 5・12・15条
- " 5・12・17条
- " 6・1・15条

606、依可有御上洛。供奉人以下路次條々。及御沙汰云々。 C D E " 6・2・2条

607、去年爲御使所令上洛之雜色鶴二郎。吉野三郎歸參。相模武藏兩國乃貢物等。去月十二日進上。帶彼返抄參上云々。 A C D E " 6・2・4条

608、雜色足立新三郎清經爲御使上洛。是近日依可有御上洛。海道驛家等雜事。渡船橋用意等。先爲令相觸之也。 C D E " 6・2・8条

609、今曉比企藤四郎右衛門尉能員。千葉平次兵衛尉常秀爲使節。俄以上洛。是前備前守行家。大夫判官義顯殘黨等于今在存於海道邊。伺今度御上洛之次。欲遂會稽本意之由。巷說出來之間。依可爲路次障導。先於驛々尋聞子細。事若實者。廻秘計可擲取之旨。含將命云々。兩人共雖可爲供奉人數。守勇敢忽及此儀云々。 B C D E " 6・2・12条

610、已尅。將軍家自鎌倉御上洛。御臺所并男女御息等同以進發給。是南都東大寺供養之間。依可有御結緣也。畠山二郎重忠候前陣云々。 C D E " 6・2・14条

611、天晴。將軍家出江州鏡驛。前羈路鞍馬給。爰台嶺衆徒等降于勢多橋邊奉見之。頗可謂橋前途歟。將軍家安御駕橋東。可有礼否思食煩。頃之。召小鹿嶋橋次公業。遣衆徒中。被仰子細矣。公業跪衆徒前。申云。鎌倉將軍爲東大寺供養結緣上洛之處。各群集依何事哉。尤恐思給侍。但武將之法。於如此所。無下馬之礼。仍乍乘可罷通。敢莫被咎之者。不聞食返答之以前。令打過給。至衆徒前。取直弓聊氣色。于時各平伏云々。公業自幼少經廻京洛。於事依存故實。今應此使節之處。誠言語巧而鸚鵡之

驚_レ耳。進退正而龍虎之勢遮_レ眼。衆徒感嘆。万人稱美云々。秉燭之程。入_二御六波羅御亭_一。見物車殆不_レ得_レ旋云々。 D E " 6・3・4条

612、相摸守惟義爲_二將軍家奉幣御使_一。參_二六條若宮_一。被_レ奉_二神馬黒_一。一疋云々。 D E " 6・3・6条

613、左馬頭隆保朝臣被_レ參_二六波羅御亭_一。將軍家有_二御對面_一。及_二御贈物等_一云々。其外人々頗群參云々。 D E " 6・3・7条

614、七條院御_二下_一向南都。是依_レ可_レ有_二東大寺供養_一也。右馬頭信清朝臣_{年預候}後騎云々。今日將軍家御_二參石清水并左

女牛若宮等_一。依_レ爲_二臨時祭_一也。御乘車。網代。若公被_レ用_二繪網代車_一。御臺所駕_二八葉車_一。被_レ出_白給。 (中略)於_二石清水_一。通_二夜寶前_一給云々。 (下略) D E " 6・3・9条

615、將軍家爲_レ令_レ逢_二東大寺供養_一給。着_二御于南都東南院_一。自_二石清水_一。直令_二下向_一給云々。 (中略)及_二夜半_一。有_二南都

行幸_一。今日往亡日也。於_二城外行幸_一。無_レ被_レ用_二此日之例_一云々。 D E " 6・3・10条

616、將軍家令_レ施_二入馬千疋於東大寺_一給。義盛。景時。成尋。昌寬等奉_二行之_一。凡御奉加。八木一万石。黄金一千兩。上絹一千疋云々。 D E " 6・3・11条

617、朝雨霽。午以後雨頻降。又地震。今日東大寺供養也。 (中略)寅一點。和田左衛門尉義盛。梶原平三景時。催_二具數万

騎壯士_一。警_二固寺四面近郷_一。日出以後。將軍家御參堂。御乘車也。小山五郎宗政持_二御劔_一。佐々木中務兼經高着

_二御甲_一。愛甲三郎季隆懸_二御調度_一。 (中略)於_二隨兵者數万騎雖_一有_レ之。皆兼令_レ警_二固辻々并寺内門外等_一。 (中略)令_レ

着_二座堂前庇_一給之後。見聞衆徒等群_二入門内_一之刻。對_二警固隨兵_一。有_二數々事_一。景時爲_レ鎮_レ之行向。聊現_二無礼

。衆徒甚相叱之。互發狼藉之詞。弥爲蜂起之基也。于時將軍家召朝光。々々起座。參進御前之時者。懸手於大床端。乍立奉可相鎖之將命。向衆徒之時者。跪其前敬嘔。稱前右大將家使者。衆徒感其礼。先自止嗽々之儀。朝光傳嚴旨云。當寺爲平相國回祿。空殘礎石。悉爲灰燼。衆徒尤可悲歎事歟。源氏適爲大檀越。自造營之始。至供養之今。勵微功成合力。剩斷魔障爲遂佛事。凌數百里行程。詣大伽藍緣邊。衆徒豈不喜歡哉。無慙武士猶思結緣。嘉洪基之一遇。有智僧侶何好違乱妨吾寺之再興哉。造意頗不當也。可承存歟者。衆徒忽耻先非。各及後悔。數千許輩一同靜謐。就中使者勇士。容貞美好。口弁分明。匪畜達軍陣之武略。已得存靈場之礼節。何家誰人哉之由。同音感之。爲後欲聞姓名。可名謁之旨。頻盡詞。朝光不稱小山。号結城七郎訖。歸參云々。次行幸。執柄以下卿相雲客多以供奉。未尅。有供養之儀。導師興福寺別當僧正覺憲。呪願師當寺別當權僧正勝賢。凡仁和寺法親王以下。諸寺龍象衆會及一千口云々。誠是朝家武門之大營。見佛聞法之繁昌也。當伽藍者。安德天皇御宇治承四年庚子十二月廿八日。依平相國禪門惡行。佛像化灰。堂舍殘燼畢。爰法皇勅重源上人曰。訪本願往躅。唱高卑知識。課梓匠而令勤成風業。代檀主而可終不日功之由者。上人奉命旨。去壽永二年己卯四月十九日。令大宋國陳和卿始奉鑄本佛御頭。至同五月廿五日。首尾卅余日。冶鑄十四度。鎔範功成訖。文治元年乙卯八月廿八日。太上法皇手自御開眼。于時法皇攀登數重足代。瞻仰十六丈形像給。中略謂草創濫觴者。聖武天皇御宇天平十四年壬午十一月三日。依當寺建立之叡願。爲大厦經營之祈請。始發遣勅使於太神宮。左大臣諸兄公是也。中略孝謙天皇御宇天平勝寶元年己丑十月廿四日終其功。三ヶ年之間八ヶ度奉鑄之。同十二月七日丁亥。被

- 618、晴。將軍家御參大佛殿。爰陳和卿爲宋朝來客。應和州巧匠。凡厥拜盧遮那佛之修飾。殆可謂毗首羯摩之再誕。誠匪直也人歟。仍將軍以重源上人爲中使。爲值遇結緣。令招和卿給之處。國敵對治之時。多断人命。罪業深重也。不及謁之由。固辭再三。將軍抑感淚。奧州征伐之時以下所着給之甲冑。并鞍馬三疋金銀等被贈。和卿賜甲冑爲造營釘新。施入于伽藍。止鞍一口。爲手搔會十列之移鞍。同寄進之。其外龍蹄以下不能領納。悉以返獻之云々。 D E " 6・3・13条
- 619、將軍家令歸洛給云々。 D E " 6・3・14条
- 620、及晚。參宣陽門院給云々。 D E " 6・3・16条
- 621、將軍家貢馬二十疋令進禁裏給云々。 D E " 6・3・20条
- 622、有御參內。前駟兩三輩。又隨兵八騎在最末。所謂(下略) D E " 6・3・27条
- 623、將軍家招請尼丹後二品宣陽門院御母儀。舊院執權女房也。於六波羅御亭給。御臺所姬君等對面給。有御贈物。以銀作時筥。納砂金三百兩。以白綾三十端。飭地盤云々。又扈從諸大夫侍等。同及御引出物云々。左近將監能直。左衛門尉朝重等從所役云々。 D E " 6・3・29条
- 624、將軍家御參內。殿下有御參會云々。此間。於門前。本間右馬允擲取犯人云々。 D E " 6・3・30条
- 625、於勘解由小路京極。結城七郎朝光。三浦平六兵衛尉義村。梶原平三景時擲取平氏家人等。是前中務兼宗資父子也。此十餘年晦跡云々。 D E " 6・4・1条

626、將軍家并御臺所姫君等。密々清水以下靈地巡礼給云々。 D E " 6・4・3条

627、畠山二郎重忠爲謁明惠上人。參向梶尾。而重忠近到之時。煙塵頗動。上人門弟等洛中有燒亡歟之由成疑

之處。上人云。不然。有其号勇士只今可來入。其氣所見也者。小時重忠參名謁。僧衆今更仰信上人之詞

云々。談淨土宗法門。承出離要道。退出云々。 D E " 6・4・5条

628、將軍家御參内。隨兵十騎在御車後。(中略)今日於禁裏。殿下令對面給。御談話移刻之間。及深更御退出

云々。 D E " 6・4・10条

629、民部卿經房卿被參六波羅御亭。將軍家令相逢給。有盃酒之儀。因幡前司候陪膳云々。此間。云舊院御代

事。云當時御世務事等。御談話及數刻云々。客人退出之後。被送遣砂金龍蹄等。前掃部頭親能爲御使

云々。 D E " 6・4・12条

630、晴。申以後雨降。今日將軍家令參石清水給。若公御同車云々。伊賀守仲教。相模守惟義。豊後守季光等爲前駟

。隨兵廿騎相分先後陣供奉。(下略) D E " 6・4・15条

631、丹後二品局被參六波羅御亭。御臺所姫公等及御對面。今日。殿下參賀茂社給云々。而將軍家被仰御家人

等之中曰。此事爲見物不可罷出云々。是依無御見物也。 D E " 6・4・17条

632、將軍家御參内。又令參宣陽門院給。長講堂領七ヶ所事。任故院遺勅。可被立之由。申沙汰給之云々。 D

E " 6・4・21条

633、今日又御參内云々。 D E " 6・4・22条

- 634、長講堂領七ヶ所如元可進濟乃貢之由治定云々。是將軍家依令申行給也。 D E " 6・4・24条
- 635、將軍家以梶原平三景時爲御使。令奉幣住吉社給。被奉神馬。今夕。景時參着社頭。註付和歌一首於釣殿之柱云々。(下略) D E " 6・4・27条
- 636、將軍家被奉御劔於鞍馬寺。相模守惟義爲御使。 D E " 6・5・3条
- 637、熊野別當獻御甲於若公御方。將軍家有御對面。殊令喜給云々。 D E " 6・5・10条
- 638、今夕。於六条大宮邊。三浦介義澄郎等与足利五郎所從等。發鬪乱。依之和田左衛門尉義盛。佐原左衛門尉義連以下馳集于義澄旅館。又小山左衛門尉朝政。同五郎宗政。同七郎朝光以下大胡佐貫之輩集足利宿所。將軍家被遣景時於兩方。被仰和平之儀間。入夜令靜謐云々。 D E " 6・5・15条
- 639、將軍家可有御參天王寺。御路次可被用船。陸地不可叶之由。一條二品禪室被申之故也。而依此事。人々爲獻路次雜事。被支配所領之由。或觸申之。或風聞之間。將軍家殊令驚給。早可被停止之旨。各被申遣之。是爲佛法值遇。企靈場參詣。若令成人費者。還可乖佛意歟。殊有御愼云々。揚震辞黄金焉。廻耻四知之慮。唐亭造驪宮矣。遺不一幸之譽。今重万人之財力。忝輕一身之志意給。節儉之商量。殆超于古昔者歟。後聞人莫不奉稱美云々。 D E " 6・5・18条
- 640、陰。常小雨灑。卯刻參天王寺給。宛御家人等召疋夫。爲被引御船綱手也。洛中御乘車。自鳥羽被用御船。令借用丹後二品局船給。与一條二品禪室可有御同道之由。依有兼御約諾。禪室用意御船。於路頭庄園被宛雜事之由。有其聞。是太不叶賢慮之間。爲不令請之給。所被止御同道儀也。

- 云々。日中着御渡部。自此所御乘車。御臺所御車連軒。有女房出車等。各整行列。隨兵以下供奉人皆騎馬云々。(中略)午刻御參着。先御念佛所。寺門外。次御礼佛。長吏法親王豫於灌頂堂。令奉待御。將軍則有御謁拜。次令拜見當寺重寶等給。次法親王還御。將軍又歸旅店給。其後被奉御劔銀作時柄作於太子聖靈。被引進御馬一疋(註略)於法親王。左衛門尉朝政爲御使。於御劔者。被相副法親王御使於朝政。被納寶藏云々。此外。以絹布等類。被施寺中僧徒云々。 D E
- 641、晚鐘之程。自天王寺御歸洛云々。 D E
- 642、將軍家御參内。以此次。殿下御對面。都鄙理世事。御談話非一云々。 D E
- 643、御參六條殿。御退出之後。令詣舊院法華堂法住寺給。有施物于供僧等云々。 D E
- 644、前掃部頭親能爲將軍家御使。向高野山。是東大寺重源上人去十三日逐電。在彼山之由。近日風聞之間。可歸洛之旨。依被誘仰也。 D E
- 645、重源上人出來。重將軍芳命之故也。將軍關東御下向事。日來依被尋彼行方延引。至來月者。定可預除祇園忌歟。 D E
- 646、將軍家若公一萬公。歲十四。布衣。御參内。駕網代車給。左馬頭隆保朝臣相具。爲加扶持也。供奉人(中略)於弓場殿。被賜御劔。宰相中將忠經傳之云々。 D E
- 647、將軍家御參六條殿云々。 D E
- 648、御參故院法花堂云々。 D E

649、下河邊庄司行平召進平氏家人桂兵衛尉貞兼。日者半面西都邊云々。凡彼與黨等所被搜求也。 D E

650、御臺所姬公等密々令巡礼清水寺以下靈地給云々。 D E

651、祭主神祇大副能隆朝臣參六波羅。將軍家有御對面。及御談話。是去文治元年十一月補祭主以來。御祈禱

事等殊被仰付之間。頗快然云々。自取劔授之給云々。 D E

652、被廻御使於方々。明後日可令赴關東給由。依被仰也。 D E

653、將軍家御參内。若公織物狩衣。同參給。依令申關東御下向暇給也。 D E

654、時々雨降。將軍家關東御下向也。供奉人同御入洛之時。但畿内西海之間。爲宗之輩。多以扈從云々。又中納言律

師忠快。門脇中納言教盛卿子。中納言禪師增盛新中納言知盛卿息。等。并前美濃守則清子息。令相伴之給云々。是皆平氏緣坐也。 D

E

655、故平大納言時忠卿左女牛地事。雖被入沒官領注文。自然所被閣也。今度御上洛之時。依爲便宜之地。可

宛賜若宮供僧等之旨。内々有御計。而御下向之後。彼亞相後室尼上。并帥典侍尼等傳聞此事。追差進

專使。殊愁申。其狀去夕到着。今朝有御返事。盛時書之。當時無收公之儀歟。早彼跡如元可進退領掌之

由云々。 A C D E

656、貢馬進發事。寄事於御上洛供奉。不可存懈緩儀之由。今日面々被仰付云々。仲業奉行云々。 C D E

由云々。 A C D E

由云々。 A C D E

657、丹波國志樂庄。并伊祢保領家雜掌解到來。地頭後藤左衛門尉基清致濫妨狼藉之由云々。尋聞子細。事實者。分

取地頭職三分一。可注申之。可被補任他人之旨。被仰前掃部頭親能云々。 A D E

6・8・6条

658、熊谷二郎直實法師自京都參向。辭往日之武道。求來世之佛緣以降。偏繫心於西刹。終晦跡於東山。今

度將軍家御在京之間。依有所存不參。追凌千程之嶮難。泣述五内之蓄懷。仍召御前。先申厭離穢土

欣求淨土旨趣。次奉談兵法用意。干戈故實等。今雖法躰。心猶兼眞俗。聞者莫不感歎。今日則下

向武藏國云々。頻雖被令留之給。稱後日可參之由。退出云々。 A D E 6・8・10条

659、蓮花王院領大和國藤井庄事。岡冠者賴基募關東一族之威。恣号地頭。違亂所務之由。有領家訴。此事。去

文治年中依院宣被停止其職。訖。今更不可有子細之趣。今日被出御返事云々。 A D E

6・9・18条

660、天文博士資元朝臣去月十七日書狀參着。太白變事。所副進一卷勘文也。 A E 6・10・3条

賴家將軍記

661、霽。羽林殿下去月廿日轉左中將給。同廿六日宣下云。續前征夷將軍源朝臣遺跡宜令彼家人郎從等如舊奉

行諸國守護者。彼狀到着之間。今日有吉書始。清大夫擇申日時云々。北條殿。兵庫頭廣元朝臣。(中略)平民

- 部蒸盛時。右京進仲業。文章生宣衡等。列着政所。善信草吉書。武藏國海月郡事云々。仲業加清書。廣元朝臣持參之。羽林於寢殿。披覽之給。此事故將軍薨御之後。雖未經廿ケ日。綸旨嚴密之間。重々有其沙汰。以內々儀。先被遂行之云々。 A D E " 10・2・6条
- 662、京都市使者參着。去一日丑剋石清水有火。但不及神殿堂塔之災云々。又五日丁卯大原野釋奠等。依關東御穢氣延引云々。 A E " 10・2・15条
- 663、晴。自今月。每月可行中將家御當年星祭之由。被仰主計頭安倍資元朝臣。其趣載廣元朝臣奉書。以雜色所被遣京都也。 D E " 10・3・6条
- 664、姫君追日憔悴御。依之爲奉加療養。被召針博士丹波時長之處。頻固辭。敢不應仰。件時長。當世有名醫譽之間。重有沙汰。今日被差上專使。猶以令申障者。可奏達子細於仙洞之旨。被仰在京御家人等云々。 C D E " 10・3・12条
- 665、雨降。醫師時長昨日自京都參着。左近將監能直相具之。廻伊勢路參向云々。旅館以下事者。兵庫頭并八田右衛門尉知家等。可致沙汰之由。含御旨者也。今日時長自掃部頭龜谷家。移住于畠山次郎重忠南御門宅。是令候近々。姫君御病惱。爲奉療治也。此事度々雖辭申。去月早可參向關東之旨。被下院宣之間。如此云々。 A D E " 10・5・7条
- 666、勝長壽院別當惠眼房上洛。自中將家賜御馬。又諸人餞送云々。 C D E " 10・5・17条
- 667、晴。主計頭資元朝臣使者自京都參着。申云。中將家御當年星祭。去月廿三日始行云々。 A E

668、掃部頭親能依_レ姫君御事。自_レ京都參着。於_レ洛中沙汰重事等。纏頭之間。于_レ今遲參云々。 A E " 10・6・8条

669、醫師時長歸洛。自_レ中將家。馬五疋。旅糧雜事。送夫二十人。國雜色二人。并兵士給_レ之。又兵庫頭已下引馬。去_レ比雖給_レ身暇。相待守宮令下向。于_レ今遲留云々。 D E " 10・6・26条

670、晴。仙洞御使左衛門少尉信季下向。是依_レ被_レ訪_レ仰姫君遷化事也。 A D E " 10・7・23条

671、陰。信季歸洛。尼御臺所以_レ行光爲_レ使。被_レ遣_レ沙金卅兩。羽林又賜_レ龍蹄五疋。比企三郎爲_レ御使云々。 D E " 10・7・25条

672、京都大番役。依_レ有_レ懈緩之聞。可_レ加_レ催促之旨。被_レ仰_レ諸國守護人等云々。廣元朝臣并景時等奉_レ行之。 B D E " 10・9・17条

673、於_レ幕府。被_レ供_レ養不動尊一鉢。導師葉上房律師榮西。布施被物五重。裘物五。馬一疋也。是於_レ南都。日來被_レ造立。爲_レ掃部頭親能沙汰。去_レ比奉_レ召_レ下之云々。 D E " 10・9・26条

674、以_レ小山左衛門尉朝政。補_レ播磨國守護職。畢。住國家人等相_レ從朝政。勤_レ仕内裏大番。惣可_レ致_レ忠節也。朝政可_レ沙汰事者。謀反殺害人事許也。相_レ交國務。不可_レ成_レ敗人民訴訟。凡觸_レ事不可_レ煩_レ國中住人之旨。被_レ仰_レ含云々。 D E " 正治1・12・29条

675、佐々木左衛門尉定綱景。進_レ碗飯。今日。可_レ勤_レ仕京都大番之由。被_レ仰_レ諸御家人。左衛門尉義盛奉_レ行之。 D " 正治1・12・29条

E

675、又去五日除書。今日參着。羽林件日敍從四位上。同八日聽禁色給云々。 A E " 2・1・15条

676、安達源親長爲使節上洛。被誅景時之由依被申也。御教書云。平景時有用意事之由。依有其聞。加

誅罰候畢。伴類多在京云々。仍可搜求之旨。所下知惟義。廣綱等候也者。廣元朝臣書之。 B C D " 2・1・24条

677、親長自京都歸參。具下國人播磨國惣追捕使芝原太郎長保。是景時与黨也。佐々木左衛門尉廣綱相副郎從送進

之。親長參御所申云。去二日入洛。同七日廣綱。基清相共。先追捕景時之五條坊門面宅。縛郎從。就其

白狀。於近江國富山庄。生虜長保云々。於長保者。所被遣義盛之宅也。 A D E " 2・2・20条

678、陰。掃部頭廣元朝臣。并善信等申云。景時逐電關東之由。去一日披露京都。而仙洞即被始五壇御修法。不

知其故云々。是尤可怪事也。景時逐電之由。誰人所申哉。兼經奏聞。欲上洛之條無異儀歟云々。及晚

推問長保。々々申云。依爲播州守護。就彼吹舉。雖致奉公。敢不与叛逆云々。今日被召預長保於小

山左衛門尉朝政也。 D E " 2・2・22条

679、晴。風烈。佐々木左衛門尉廣綱飛脚自京都參着。申云。去月廿九日白晝。於六條万里小路。若狹前司保季犯

掃部入道郎等吉田右馬允親清之妻。親清自六波羅歸之處。有此事。即取太刀追之。入于六條南。万里

小路西。九條面平門之内斬伏之。其後。彼男來廣綱之許。而号攝津權守入道者奔來。稱傍輩請取之處。依

使廳召。欲渡廷尉方之間。策駿馬逐電畢。仍尋其前途之刻。攝津權守又不知行方。保季父少輔入道。就訴申。頻有其召。定遁下東國。歟之由。廻推察。兼以言上云々。此保季。容顏花麗。不異潘安仁。被斬殺之時。僅所令着之小袖褰頸邊。顯其身。觀者如堵。皆拭悲淚云々。 A E " 2・4・8条

680、北條殿。去一日任遠江守。敍從五位下給。彼除書今日到來云々。 A E " 2・4・9条

681、尼御臺所於京都被圖六羅漢像。佐々木左衛門尉定綱調進之。今日到來。御拜見之後。令奉送葉上房之寺給云々。 A D E " 2・7・6条

682、六波羅書狀等到來。佐々木中務兼經高乍爲帝都警衛人數。奉輕朝威條々也。是於洛中稱生虜強盜人。以其次追捕近隣民居等。加之。令守護淡路國之間。蔑如國司命。妨國務之上。去九日。催聚淡路阿波土佐等國軍勢。各着甲冑令馳騷。依奉驚天聽。被尋問濫觴之處。爲敵欲被襲之由雖申之。更無實證。所行之企。奇怪非一。早可達關東之旨。及勅命云々。上皇頻逆鱗云々。 A E " 2・7・27条

683、佐々木中務兼經高蒙御氣色。淡路。阿波。土佐。以上三ヶ國守護職以下所帶等被召放之。以其趣所被申

京都也。是日來聊依罪科。雖被經沙汰。勳功異他之間。暫相宥之處。爲洛中警衛之士。令騷

京都。背叡慮之條。難及私寬宥之旨。再往被經沙汰。如此云々。 D E " 2・8・2条

684、安達源三親長。山城三郎行村等。日來所望官途事。仍所被舉申勅負尉也。 D E " 2・9・25条

685、晴。被奉貢金五百兩。馬廿疋於京都。今日進發。佐々木五郎義清爲御使相副之。 C D E

686、晴。相摸權守。并佐々木左衛門尉定綱等飛脚自_二京都_一參着。去月廿二日爲_二頭弁公定朝臣奉行_一。可_レ追_二討_一近江國

住人柏原弥三郎_一之由被_二宣下_一。是近年於_レ事背_二帝命_一之故也云々。A E " 2・11・1条

687、陰。小雨常降。今日。澁谷次郎高重。土肥先次郎惟光爲_二使節_一上洛。是爲_レ追_二討_一柏原弥三郎也。各先到_二相摸

國所領_一。自_二彼國所々_一可_レ進發云々。C D E " 2・11・4条

688、晴。京都使者到着。持_二參去月廿六日除書_一。中將家任_二左衛門督_一。敍_二從三位_一給。又所_レ被_二舉申_一之安達源三親

長。山城次郎行村等任_二少尉_一云々。A D E " 2・11・7条

689、晴。先日上洛澁谷次郎高重。土肥先次郎惟光等歸着。申云。高重等上洛以前。官軍發_二向彼柏原弥三郎住所近江國

柏原庄_一之刻。三尾谷十郎襲_二件居所後面山_一之間。賊徒逐電畢。今兩使雖_レ伺_二其行方_一。依_レ無_二所據_一。歸參云々。A

C E

" 2・12・27条

690、未尅。掃部入道。佐々木左衛門尉定綱。小山左衛門尉朝政。爲大番勤仕在京等飛脚參着。申云。去月廿三日。天皇朝_二觀

行_二幸仙洞_一。二條殿春宮。七條院。一宮同臨幸。爰越後國住人城四郎平長茂城四郎助國四男引_二卒軍兵_一。圍_二朝政三條東洞

院宿廬_一。朝政供_二奉行幸_一留守程也。所_レ殘留_二之郎從等禦戰之間_一。長茂引退。卽行幸還御以前推_二參仙洞_一。閉_二四

門_一。申_レ可_レ追_二討關東之宣旨_一。然而依_レ無_二勅許_一。長茂逐電。有_二清水坂_一之由。風聞之間。朝政等雖_二馳向_一。不

知_二行方_一云々。彼使者先到_二着大官令亭_一。次參_二御所_一。此間。諸人群參。鎌倉中騷動。依_レ被_二加制止_一。入_レ夜靜

謐云々。A D E " 3・2・3条

691、京都飛脚等歸洛。長茂事。可伺尋有所之由。被仰京畿御家人等云々。 D E " 3・2・5条

692、陰。南風烈。今日改元詔書到來。去十三日改正治三年爲建仁元年云々。大夫屬入道持參彼書於御所。即可

令施行之由。所被仰也。 A D E 建仁1・2・22条

693、京都飛脚參着。去月廿二日。城四郎長茂并伴類新津四郎已下。於吉野奧被誅畢。長茂先立遂出家。同廿

五日。長茂并伴黨四人首被渡大路。 A E " 1・3・4条

694、京都飛脚參申云。去月廿九日。城四郎長茂餘黨城小二郎資家入道。同三郎資正。本吉冠者隆衡。以官軍被誅

云々。 A E " 1・3・12条

695、昨日。佐々木中務入道經蓮以子息高重。捧一通歎狀。 去月廿一日狀 今日遠州以善信令披露彼狀給。是於身

雖無所犯。依傍人之讒。蒙御氣色之條。含愁訴云々。其旨趣。初謝無科之旨。後載數度勳功。去年

七月致用心事。大和國賊首等企謀叛。群集王城之由。就諸方之告。召聚淡路阿波土佐三ヶ國御家人等。頗

可謂忠節歟。隨而當彼時。号圓識法師者巧叛逆。絳顯露之間。爲伊賀新平内被生虜。令怖畏

經蓮之用心。不達宿望之條。揭焉也云々。謂勲功者。關東草創最初。令誅大夫尉兼隆給之時。經蓮兄弟

四人。列討手人數以降。至世屬靜謐之今。度々忘身弃命破敵陣云々。爰被究評儀之淵源。被免云々。但

於所領等者。只今不被返付云々。 A D E " 1・5・6条

696、佐々木太郎高重帶父經蓮御氣色厚免御教書歸洛。遠州并廣元朝臣等被遣餞馬云々。 D E " 1・5・13条

697、佐々木左衛門尉定綱飛脚參着。申云。柏原弥三郎。去年爲三尾谷十郎被襲之刻。逃亡之後。不知行方之處。廣綱弟四郎信綱伺得件在所。今月九日誅戮之云々。 A E " 1・5・17条

698、晴。殘暑如燒。待晚涼。於御所被始百日御鞠。是左金吾多年雖令好當道給。依未令知其奧旨給。北面等中此藝達者一人可被下之由。令申請仙洞給處。可被差下便宜之由。勅許之間。於携之輩。累調練巧。爲交上足也。 D E " 1・7・6条

699、霽。紀内所行景鞠足。依上皇仰下着。蓋是左金吾依被申請也。今日到着于大膳大夫廣元朝臣亭。下向間。彼朝臣所令沙汰驛路雜事等也。 D E " 1・9・7条

700、佐々木中務入道經蓮御氣色事。依蒙免許。爲賀申之。去比參着。今日迎故將軍家御月忌。於法華堂。供養法花經六部。是於京都。漸々所終寫功也。導師題學房。請僧六口。導師布施。帖絹三疋。請僧口別白布一端也。被收公所帶職等。依微力之不覃。捧少財。志之所之。聖靈可令照鑒給之趣。載諷誦文。和字。唱導讀上之間。令察彼懷舊。聽衆皆不禁悲淚云々。 A D E " 1・11・13条

701、晴。文章生宣衡爲使節上洛。是被上左衛門督辭狀也。依之御位署可略之旨。被仰政所云々。 C D E " 1・12・2条

702、中務入道經蓮參御所。申近日可歸洛之由。能員爲申次。參東小御所。相具子息高重。左金吾對面給。所被收公之所領内。先可返給一所之由。被仰下經蓮。以其次條々述懷移尅。(下略) D E " 1・12・3条

703、善進士自京都歸參。申云。十五日捧御辭表。無勅許。被返下云々。 A E

704、京都使者到來。去月廿三日。左金吾令敍正三位給云々。 A E

705、御所御鞠。人數如例。此御會連日儀也。其後入御于比企判官能員之宅。(中略)爰有自京都下向舞女。号微妙。盃酌之際被召出之。歌舞盡曲。金吾頻感給之。廷尉申云。此舞女依有愁訴之旨。凌山河參向。早直可

被尋聞食者。金吾令尋其旨給之處。彼女落淚數行。無左右不出詞。恩問及度々之間。申云。去建久年

中。父右兵衛尉爲成。依不讒爲官人被禁獄。而以西獄囚人等爲給奧州夷。被放遣之。將軍家雜

色請取下向畢。爲成在其中。母不堪愁歎卒去。其時我七歲也。無兄弟親昵。多年沈孤獨之恨。漸長大之

今。戀慕切之故。爲知彼存亡。始慣當道。而赴東路云々。聞之輩悉催悲淚。速遣御使於奧州。可被

尋仰之由。有其沙汰。盃酒及終夜。鷄鳴以後令還給。 A D E

706、陰。尼御臺所令還給。昨日儀。雖似有興。知康成獨步之思。太奇恠也。伊豫守義仲襲法住寺殿。依致

合戰。卿相雲客及耻辱。其根元。起於知康凶害也。又同意義經朝臣。欲亡關東之間。先人殊令憤

給。可被解官追放之旨。被經奏聞訖。而今金吾忘彼先非。被免昵近。背亡者御本意之由。有御氣

色云々。 D E

707、京都使者參。去月廿二日左金吾敍從二位。補征夷大將軍給之由申之。 A E

708、江兵衛尉能範爲使節上洛。是賴全全成子。可誅之由。被仰相摸權守。佐々木左衛門尉等故也。 C D E

3. 6. 24条

709、相摸權守使者自京都到着。申云。去十六日。催遣在京御家人等。於東山延年寺。窺播磨公賴全。全成法橋息令

誅戮之云々。 A E

" 3・7・25条

710、今日於小御所跡。大輔房源性實。欲奉拾故一幡君遺骨之處。所燒之死骸。若干相交而無所求。而御乳

母云。最後令着染付小袖給。其文菊枝也云々。或死骸。右脇下小袖僅一寸餘焦殘。菊文詳也。仍以之知之奉

拾了。源性懸頸。進發高野山。可奉納奧院云々。 C D E " 3・9・3条

711、知康。行景等可上洛之由。被仰下。仍爲廣元朝臣沙汰。今曉各令歸洛云々。 C D E " 3・9・12条

実朝將軍記

712、霽。幕下大將軍二男若君字千幡君。爲關東長者。去七日。被下從五位下位記并征夷大將軍宣旨。其狀。今日到着

于鎌倉云々。 A E " 3・9・15条

713、掃部頭入道寂忍註申云。叡山堂衆與學生確執及合戰。謂其起者。去五月之比。西塔釋迦堂衆與學生不合

和。惣堂衆始興各列温室。八月一日。學生構城墪於大納言岡并南谷走井坊。追却堂衆。同六日。堂衆引

卒三ヶ庄官等勇士。登山攻戰于上件城墪。兩方傷死之者不可勝計。而依被下院宣。堂衆者同七日弃

城退散。學生者同十九日出城下洛訖。於今者存靜謐由之處。同廿八日復蜂起。本院學生同心。群居靈山長

樂寺。祇園等。重欲及濫行云々。 A E " 3・9・17条

714、武藏守朝雅爲京都警固上洛。西國有所領之輩。爲伴黨可令在京之旨。被廻御書云々。 C D E " 3・10・3条

715、佐々木左衛門尉定綱。中條右衛門尉家長爲使節上洛。是將軍御代始也。京畿御家人等。殊挿忠貞。不可存

貳之由相觸之。且可召進起請文之趣。所被仰遣武藏守朝雅并掃部頭入道寂忍等之許也。兩人去九日出門云々。 C D E " 3・10・19条

716、京都飛脚參着。申云。去十日。叡岳堂衆等以八王子山爲城廓群居之間。同十五日差遣官軍。依被攻

之。堂衆等退散云々。葛西四郎重元。豐嶋太郎朝經。佐々木太郎重綱以下官軍三百人。爲惡徒被討取訖。伊佐

太郎。熊谷三郎等進先登云々。同十九日。仰五畿七道。可召進梟黨等之由宣下云々。其間有可悲事。佐々

木中務養經高。同三郎兵衛尉盛綱。依奉勅定。欲發向山門之處。同四郎左衛門尉高綱入道。着黒衣
檜笠自高野

來。謁舍兄等。而高綱入道子息左衛門太郎重綱屬伯父經高出立之間。入道申可見子行粧之由。重綱着

甲冑。來于父之前。父暫見之。敢不能瞬。亦不出詞。其後重綱退去于休所。其際經高。盛綱等感重綱

云。今度合戰。彰藝舉名。預勲功之賞無其疑云々。高綱入道聞之云。勇士之赴戰場。以兵具爲先。甲

冑者輕薄。弓箭者短小也。是尤爲故實。就中如山上坂本邊。步立合戰之時。可守此式。而重綱之甲冑

太重。弓箭大兮。不相應主之間。更不可免死云々。果而不違其旨。加之彼時吐兵法才學。盛綱等

聞之。挿件詞於意端。致合戰之處。一事而莫不符合之云々。 A E " 3・10・26条

717、將軍家御慶賀之後。始奉神馬於石清水八幡宮給。和田兵衛尉常盛着布衣。爲御使。 C D E

718、夜討人乱入伊勢國守護。其張本爲進士行綱之由。義盛申之。 A E

719、天霽風靜。將軍家去年十月廿四日任右兵衛佐御。始御參鶴岳八幡宮。前後供奉人成墻。朝光持御劔。於宮寺供養法花經。

安樂房爲導師。請僧六口也。其後被引御布施(下略) D E

720、伊勢國員辨郡司進士行綱爲囚人被召置。依義盛之訴也。 D E

721、晴。京都使者參。去月廿日。改建仁四年爲元久元年。又同廿五日。上皇御幸天王寺。是金堂修理供養

云々。 A E 元久 1・3・1条

722、晴。武藏守朝雅飛脚到着。申云。去月日。雅樂助平維基子孫等起伊賀國。中宮長同度光子息等起伊勢國。各

叛逆云々。彼兩國守護人山内首藤刑部兼經俊相尋子細之處。無左右企合戰。經俊依無勢逃亡之間。凶徒

等虜領二ヶ國。固鈴鹿關。八峯山寺道路。仍無上洛之人云々。 A E

723、霽。京都飛脚歸洛。謀叛人事。發向彼國。可令糺彈之由。被仰朝雅云々。 D E

724、伊賀伊勢兩國平氏謀叛。事其後不申左右之間。頗非無御不審。仍今日被遣晝夜雜色等。隨武藏守朝雅

下知。可發向之旨。重被仰京畿御家人之中云々。廣元朝臣奉行之。 D E

725、晴。笠置解脫上人使者去比參着。於當寺可建礼堂間。所申將軍家御奉加也。仍今日賜砂金已下重寶等

於彼使。但無御奉加之狀云々。 A D E 1・4・10条

726、晴。武藏守朝雅飛脚到着。申云。去月廿二日出京。爰伊勢平氏等塞鈴鹿關所。索險阻之際。縱雖不遂。合

戰。人馬依難通之。廻美濃國。同廿七日入伊勢國。凝計議。自今月十日。至同十二日合戰。先襲進士三郎基度朝明郡富田之館。挑戰移尅。誅基度。并舍弟松本三郎盛光。同四郎。同九郎等。次於安濃郡。攻擊岡八郎貞重。及子息伴類。次到多氣郡。与庄田三郎佐房。同子息師房等相戰。彼輩遂以敗北。又生虜河田刑部大夫。凡狼喉雖靡兩國。蜂起不軼三日。件殘黨猶在伊賀國。重可追討之云々。 A D E

" 1. 4. 21条

727、晴。朝雅飛脚重到來。去月廿九日到伊勢國。平氏雅樂助三郎盛時并子姪等。構城塙於當國六ヶ山。數日雖相支。朝雅勵武勇之間。彼等防戰失利敗北。凡張本若菜五郎城塙捕處所。所謂伊勢國日永。若松。南村。高角。關。小野等也。遂於關小野亡其命云々。度々合戰次第。軍士忠否等。分明注申之。山内首藤刑部兼經俊。同瀧口六郎等。始者怖平氏猛威。雖令逐電。後者行逢朝雅。相共勵征伐之由。同載之云々。 A E

" 1. 5. 6条

728、又伊勢國員辨郡司進士行綱。依有夜討之疑。雖爲囚人。彼夜討者。爲伊勢平氏若菜五郎等所行之由。從類白狀出來之間。無行綱過之旨。有其沙汰。今日蒙厚免。剩可安堵本所之趣。遠州加下知給云々。 D

E

" 1. 5. 8条

729、伊勢平氏等追討賞事。有其沙汰。廣元朝臣。問注所入道等奉行之。朝雅補任伊勢國守護職。又給彼輩私領水田。件兩國守護者。經俊本職也。而恐于平氏之片時權威逃亡之間。所被改補也。 D E

- 730、伊勢平氏追討賞事。重有其沙汰。先度漏恩之輩光員以下開愁眉。彼亡卒跡散在名田等云々。遠州令下知之給云々。 D E " 1・5・10条
- 731、依爲臨時祭。將軍家右少將。去三月一日任給。御參鶴岳八幡宮。被奉神馬二疋。流鏑馬經供養如例。 E " 1・6・20条
- 732、將軍家御嫁娶事。日來者可爲上総前司息女歟之由。雖有其沙汰。不及御許容。被申京都已訖。仍彼御迎以下用意事。今日有內談。於供奉人者。爲直御計。被定人數。以容儀花麗之壯士。可被撰遣之由云々 D E " 1・8・4条
- 733、石清水八幡寺領河內國高井田事。爲將軍家御祈禱所。被止地頭訖。可爲宮寺沙汰之由。今日被仰遣云々。 D E " 1・8・21条
- 734、近習之輩十餘人任官事。被舉申之云々。 D E " 1・9・1条
- 735、將軍家以御馬二疋。河原毛。栗毛駁。被奉伊勢内外兩宮。新藤二俊長。和泉掾景家等相具之。今朝進發云々。 C D E " 1・9・2条
- 736、坊門前大納言信清卿。息女。爲將軍家御臺所。依可下令下向給。爲御迎人々上洛。所謂。左馬權助。結城七郎。(中略)佐々木小三郎。南條平次。安西四郎等也。 C D E " 1・10・14条
- 737、伊勢國三日平氏跡新補地頭等募武威。停止大神宮御上分米之由。本宮訴申之。彼地者。當國散在之田畠也。平氏雖管領地下。於上分米者。備進本宮之條。所見分明之間。爲清定奉行。守先例可致其弁

之由。今日被_二仰下_一云々。 A D E " 1・11・4条

738、子尅。從五位下行左馬權助平朝臣政範卒。時十六。年十六。于時在京。 E " 1・11・5条

739、笠置解脫上人使者參着。申云。去月十五日。礼堂造畢之間。無爲_二遂_一供養云々。是將軍家御奉加事賀申之故也云々。 A

D E " 1・11・7条

740、遠江佐馬助。去五日於_二京都_一卒去之由。飛脚到着。是遠州當時寵物牧御方腹愛子也。爲_二御臺所_一御迎。去月上

洛。去三日京着。自_二路次_一病惱。遂及_二大事_一。父母悲歎更無_レ可比云々。 A C D E " 1・11・13条

741、故遠江左馬助僮僕等自_二京都_一歸着。去六日葬_二東山邊_一云々。又同四日。於_二武藏前司朝雅六角東洞院第_一。酒宴之

間。亭主与_二畠山六郎_一有_二諍論之儀_一。然而會合之輩依_レ宥之。無爲退散訖之由。今日風聞云々。 A B E

" 1・11・20条

742、將軍家日來仰_二畫工_一於_二京都_一被_レ圖將門合戰繪。今日到來。掃部頭入道所_二調進_一也。二十ヶ卷。納_二蒔繪櫃_一。殊御

自愛云々。 D E " 1・11・26条

743、爲_二尼御臺所御願_一被_二圖繪_一七觀音像。去比自_二南都_一到着。今日於_二彼御方_一被_レ遂_二供養_一。導師金剛壽福寺方丈葉

上坊。願文仲章朝臣草_レ之。將軍家爲_二御結緣_一渡御云々。 D E " 1・12・18条

744、將軍家令_レ敍_二正五位下_一給。 E " 2・1・5条

745、去月廿九日除書到着。將軍家任_二右中將_一。令_レ兼_二加賀介_一給。善信持_レ參此聞書於御所。 A E " 2・2・12条

746、自坊門殿。扇三十本。櫛箱等被送進之云々。 A E " 2・3・16条

747、今日前大膳大夫屬入道。藤九郎右衛門尉等參會相州御亭。被經評議。被發使者於京都。是可誅右衛門

權佐朝雅之由。依被仰在京御家人等也。 C D E " 2・⑦・20条

748、晴。去廿日進發東使。今日入夜入洛。即相觸事由於在京健士云々。 C D E " 2・⑦・25条

749、晴。右衛門權佐朝雅候仙洞。未退出之間。有圍碁會之處。小舍人童走來招金吾。告追討使事。金吾更

不驚動。歸參本所。令目竿之後。自關東被差上誅罰專使。無據于遁逃。早可給身暇之旨奏

訖。退出于六角東洞院宿廬之後。軍兵五條判官有範。後藤左衛門尉基清。源三左衛門尉親長。佐々木左衛門尉

廣綱。同弥太郎高重已下襲到。暫雖相戰。朝雅失度逃亡。遁松坂邊。金持六郎廣親。佐々木三郎兵衛尉盛綱

等追彼後之處。山内持壽丸後号六郎通基。刑部大夫經俊六男。射留右金吾云々。 C D E " 2・⑦・26条

750、晴。發遣京都之飛脚歸參于關東。金吾伏誅由申之。 A E " 2・8・2条

751、内藤兵衛尉朝親自京都下着。持參新古今和歌集。是通具。有家。定家。家隆。雅經等朝臣奉勅定。於和

歌所。去三月十六日撰進之。同四月奏覽。未被行竟宴。又無披露之儀。而將軍家令好和語給之上。故

右大將軍御詠被撰入之由就聞食。頻雖有御覽之志。態不及被尋申。而朝親適屬定家朝臣嗜當道

。即列此集作者讀人不知。之間。廻計略可書進之由。被仰含之處。依朝雅。重忠等事。都鄙不靜之故。干

今遲引云々。 D E " 2・9・2条

752、晴。首藤刑部兼經俊捧款狀。是去春比伊勢平氏蜂起之時。依無勢。爲聚軍士。暫遁其國之處。差遣朝

雅。被_レ誅_二平氏之間。以_二經俊所_レ帶伊賀伊勢守護職。被_レ宛_二朝雅之賞。而於_レ時進退。兵之故實也。強難_レ被_レ處_二不可_レ歟。就_レ中對_二治朝雅之謀叛事。諸人雖有_二勲功之号。正加_二誅罰。獨在_二愚息持壽丸之兵略也。件兩國守護職。適日來朝雅之所_レ帶也。且經俊本職也。任_二理運。依_二忠節。可_二返給_二之趣載_レ之云々。但無_二御許容歟。隨而此所。先_レ之被_レ補_二帶刀長惟信者也。 A D E

753、駿河前司季時爲_二京都守護_一上洛。 C D E " 2・9・20条

754、晴。五條判官有範使者自_二京都_一參着。申云。去_二二日子_一尅。叡山法花堂渡廊放火。講堂。四王院。延命院。法

花堂。當行堂。文殊樓。五佛院。實相院。丈六堂。五大堂。御經藏。虛空藏王。惣社。南谷。彼岸所。圓融坊。極樂坊。香集坊。皆以爲_二灰燼。餘炎欲_レ及_二中堂之間。本尊十二神將像奉_レ渡_二隨自喜堂_一畢。前唐院聖教寶物等奉_レ取_二出法花常行堂。供養法於_二食堂_一修_レ之。放火事。堂衆所行歟之由。有_二其疑_レ云々。當山。桓武天皇御

宇延曆四年_六——乙丑七月廿日。傳教大師經_一始_レ之。草_二創根本中堂_一以降。朱雀院承平五年乙未三月十六日。火

災。中堂_{本尊奉_レ取_二出之_一}已下堂舍僧坊四十餘ヶ所燒亡。村上天皇康保二年乙丑十月廿八日戊子亥尅。延曆寺講堂。文

殊樓。延命院之本堂。法花三昧。常行三昧堂。鐘樓及僧坊等卅一字。一時燒失。火出_二於故座主喜慶坊_一。但四王

院四天像。雖_二僅存_二北方像_一。自_レ腰燒絕。頭足已別。見者拭_二悲淚_一云々。而今年又當_二于乙丑歲_一。十月有_二此災

。可_レ謂_二不思議_一歟。 A E " 2・10・13条

755、小澤左近將監信重相_二伴綾小路二位師季_一。息女_二二歲_一。自_二京都_一參着。卽以_二行光_一。啓_二事由於尼御臺所_一云々。是母

儀者。稻毛三郎入道重成女。遠州禪室御外孫也。去_二六月重成入道被_レ誅之後。乳母夫信重雖_レ有_二扶持之号_一。猶恐_二

- 彼餘殃。隱居之處。尼御臺所可有御哀愍之由。内々被仰之間。參向云々。 A D E " 2・11・3条
- 756、伊勢平氏跡新補地頭事今日被定率法。悉被施行之。清定爲奉行云々。 D E " 2・12・10条
- 757、陰。一日百座仁王講可勤行之由。被下院宣於諸國。關東分今日到着。前大膳大夫執啓之。 A E " 3・2・20条
- 758、去月廿二日除目聞書到着。將軍家令敍從四位下給。前大膳大夫持參之。 A E " 3・3・2条
- 759、今日有改元。改元久三年。爲建永元年。 E 建永1・4・27条
- 760、晴陰。祭主從二位能隆卿進使者。申云。加藤左衛門尉光員者。微臣家司也。而頃年之間。依令祇候關東。募武威。不從所堪。於神領者。又恣數ヶ所令知行之。剩不相觸子細。去年十一月。潛蒙使宣旨云々。早可被止其職者。爰相州。廣元朝臣。善信等被經沙汰。光員。於神領知行事者可加禁遏。至廷尉事者候西面之間。爲仙洞御計敷。不及關東御沙汰之由被仰之云々。 A D E " 1・5・6条
- 761、雨降。爲前大膳大夫奉行。能隆卿之所申。被尋下于光員之處。陳申云。伊勢國道前郡政所職者。爲祭主恩願之間。所從其成敗也。神領知行事者。元自開發之地。寄附神祝許也。難稱押領云々。依之不及沙汰云々。 A D E " 1・5・24条
- 762、伊勢平氏等蜂起之時。朝雅朝臣爲大將軍。相催近國御家人。發向之處不參之輩所領等。雖被召放之。面々依申披子細。五條藏人長雅已下所領被返付云々。 A D E " 1・7・1条
- 763、將軍家令敍從四位上給云々。 E " 2・1・5条

764、霽。時房朝臣去月十四日任武藏守之間。國務事。任故武藏守義信入道之例。可被沙汰之旨被仰下云々。 D

E " 2. 2. 20 条

765、霽。坊門亞相信清卿。使者參着。所被進仁和寺御室令旨也。是紀伊國土民等乱入高野山。企狩獵。押妨寺

領。和泉紀伊國守護代專爲其張本。爲關東御沙汰。可被止狼藉之趣。有寺門愁訴之間。御室以件金

剛峯寺所司等狀。被仰合坊門。仍又被傳申其旨云々。 A E " 2. 6. 22 条

766、晴。就御室仰。坊門亞相被執申高野山愁訴紀伊國土民狼藉事。於御所有其沙汰。和泉紀伊兩國守

護者。佐原十郎左衛門尉義連職也。義連卒去之後。未被補其替。而彼兩國。爲院御熊野詣驛家雜事。自今

以後。無指事外。不可置守護人。就之。諸事可爲仙洞御計之由被定之。仍義連代早可召上之

由。所被遣御書於掃部入道寂忍之許也。廣元朝臣奉行之。 A D E " 2. 6. 24 条

767、陰陽師左京亮維範自京都參着。爲被仰付御祈禱事。態以被召下之。 D E " 2. 6. 29 条

768、掃部入道寂忍使者參着。和泉紀伊兩國守護代事。任御下知。去九日可參上之旨相觸之。同十三日言上其趣

於坊門殿之由申之。 A D E " 2. 7. 23 条

769、霽。掃部頭入道寂忍。自京都參着。具參近江國住人盤五家次。是伴四郎儼仗祐兼後胤也。去元久元年所被追

討之伊勢平氏富田三郎基度賀也。募武威企謀叛。又於諸處道路。煩往反鄙民云々。去建仁三年叡山堂衆令

蜂起事。起自家次之謀計。仍彼時雖擬召禁之。逃亡不知行方之處。五日於白河邊生虜之云々。 A

E " 2. 9. 24 条

770、被_レ推_レ問囚人盤五家次。不_レ隱_レ密所存。悉以載_レ白狀。罪科無_レ異儀之間。殊所_レ被_レ加_レ禁遏也。 D E

" 2・10・2条

771、晴。改元詔書到着。去月廿五日改_レ建永二年爲_レ承元々々年。問注所入道持_レ參之。 A E 承元1・11・5条

772、伊勢國小幡村者。爲_レ伊勢平氏富田三郎基度。年來忽_レ緒領家_レ押_レ領之。滅亡後。又爲_レ沒收地_レ被_レ補_レ新地頭之間。領家女房頗被_レ愁_レ申之。爲_レ大夫屬入道善信奉行。今日停_レ止其職。如_レ本可_レ爲_レ領家進止之由。被_レ仰遣

云々。 A D E " 1・11・17条

773、小野大夫判官義成於_レ京都_レ煩_レ時行。獲鱗之由風聞之間。親昵等揚_レ鞭云々。 B D E " 2・4・23条

774、晴。坊門前亞相使者參着。來五月南山御幸可_レ令_レ供奉。可_レ賜_レ龍蹄之由被_レ申之。又去十三日。々來風聞仙洞

御鞠被_レ遂_レ之。於_レ大炊御門_{御亭}左相國有_レ其儀。南庭構_レ新造屋爲_レ御所。其東有_レ公卿殿上人之屋。按察卿爲_レ

成通卿之子息。古老依_レ召參上。凡至_レ北面西面之輩。鞠足等給物皆金銀也。 A E " 2・4・27条

775、陰。防鴨河使判官從五位下行左衛門少尉小野朝臣義成卒。于時在京。 E " 2・4・3条

776、京都使者參着。去十五日洛中燒亡之由申之。火出_レ自_レ北小路。仍東洞院七條東西十二町。洞院西朱雀東朱雀南北十二

町。七條以北自_レ六條東洞院。至_レ于五條坊門朱雀邊。宣陽門院。坊門太政大臣舊宅。右大將六條堀河御亭等在_レ其中

云々。 A E " 2・4・25条

777、東平太重胤上洛。是父胤賴弱冠之當初候_レ本所。任_レ其例_レ片時可_レ級_レ上日奉公名之由。致_レ懇望之間。依_レ被_レ

舉申也。 C D E " 2・4・27条

778、藤内左衛門尉季康御臺所侍。上洛。是上皇可有南山臨幸。坊門殿忠信。可被供奉之間。爲彼扈從被差進之。又

被獻龍蹄并旅調度等也。 C D E " 2・5・26条

779、陰。兵衛尉清綱御臺所侍。昨日自京都下着。今日參御所。是隨分有職也。仍將軍家有御對面。清綱稱相傳物

令進古今和歌集一部。左金吾基俊令書之由申之。先達筆跡也。已可謂末代重寶。殊有御感。又令

尋問當時洛中事御。去九日新日吉小五月會上皇御幸流鏑馬已下事。故以被刷。射手等多西面之輩子息垂髮

也。各爲月卿雲客。被出立之。卽清綱息童從其役。又号峯王童。院御籠童。候西面。箭不中之之間逐電。忽以出

家云々。射手等記。可有御覽之由。被仰之間。自懷中取出之。被置御前。是子息列射手之間爲申出

兼用意云々。(下略) A D E " 2・5・29条

780、晴。南風舉塵。晚鐘之程。藤内左衛門尉季康自京都歸參。去月日。上皇南山臨幸。新宮三ケ日。本宮七日御逗

留也。今月五日還御。而御奉幣之後。院入御々所。不經幾程。坊門殿宿所失火。御先達僧正之坊爲灰燼

。黑煙又覆寶殿。上皇臨幸。以人勢打鎖之間。無爲云々。 A E " 2・7・22条

781、故大夫判官義成嫡男左兵衛尉時成參上。讓得亡父遺跡也。於朝恩無異儀。關東御恩地同可蒙其旨之

由申之。 A E " 2・8・20条

782、陰。熊谷小次郎直家上洛。是父入道來十四日於東山麓可執終之由。示下之間。爲見訪之云々。進發之後。此

事披露于御所中。珍事之由。有其沙汰。而廣元朝臣云。兼知死期。非權化者。雖似有疑。彼入道遁世

塵之後。欣求淨土。所願堅固。積念佛修行薰修。仰而可信歟云々。 C D E " 2・9・3条

783、晴。尼御臺所爲果御宿願。御參熊野山。今朝卯尅。令進發給。武藏守扈從。同廿七日御入洛也。 C D E

784、東平太重胤東所。遂先途。自京都歸參。即被召御所。申洛中事等。先熊谷二郎直實入道。以九月十日未尅可爲終焉之期。由相觸之間。至當日。結緣道俗圍繞彼東山草庵。時尅。着衣袈裟。昇礼盤。端坐合掌。唱高聲念佛執終。兼聊無病氣云々。次去月廿七日夜半。朱雀門燒亡。常陸介朝俊朝隆卿末孫。弓馬相撲達者。取松

明昇門。取鳩子歸去之間。件火成此災。凡近年天子。上皇悉令好鳩給。長房。保教等本自養鳩。得時兮殊奔走云々。依彼門燒亡。去五日射場始延引云々。 A E

785、晴。囚人柏木五郎家次男貞次爲日吉社明年五月會馬上役人而被宥父之罪科。可從此役之由。愁申于社家社司。又捧解狀於貫首之間。被執申之。仍被優神事。忽被厚免。廣元朝臣爲奉行。向後猶見不義者。定可後悔之趣。被仰含云々。 A D E

786、晴。正五位下行掃部頭藤原朝臣親能法師法名。卒。年六十六。于時在京。 E

787、未尅。去九日除書參着。將軍家令敍正四位下給。又尼御臺所自熊野山御還向。 A E

788、霰飛。今日。掃部入道卒去事有其告。去十三日五條大宮新造屋移徙。同十八日於件亭執終云々。 A E

789、大夫屬入道持參鞠於御所。自京都到來之由申之。又去二日大柳殿御鞠記一紙進覽之。彼日。大輔房源性始參于御鞠云々。是左金吾將軍御時近士也。去建仁三年九月坐事之後所在京也。件御鞠衆。御所刑部卿。宗長

(中略)源性等也云々。

D E

" 3・3・21条

790、京都使者參着。去十日將軍家敍從三位給。 A E

" 3・4・22条

791、霽。將軍家更令任右中將給。 E

" 3・5・26条

792、將軍家依御夢想。被奉二十首御詠歌於住吉社。内藤右馬允知親好士也。定家朝臣門弟。爲御使。以此去建永元年

" 3・7・5条

御初學之後御歌撰卅首。爲合點。被遣定家朝臣也。 C D E

" 3・7・5条

793、知親。

元朝字也。与美作藏人朝親名字着到時。混乱間改之。

自京都歸參。所被遣于京極中將定家朝臣之御歌。加合點返進。又獻詠歌

" 3・8・13条

口傳一卷。是六義風躰事。内々依被尋仰也。 A D E

" 3・8・13条

794、晴。園城寺明王院僧正公胤下着。是依御召請也。以行光宿所爲旅亭。宿直等事。廣綱奉之。 D E

" 3・9・29条

795、明王院僧正被參御所。將軍家有御面談。園城寺興隆事。豫州刺史禪室以後。源家代々之間。令歸當寺給

" 3・9・29条

事。具述旨趣。前大膳大夫令候廣庇。依仰註僧正之被申事等。是本寺貴德也。 A D E

" 3・10・15条

796、晴。權僧正歸洛。而時節屬寒天。殊可有遠路煩之間。將軍家頗雖令拘留給。依可爲長講堂供養導

" 3・10・15条

師。被急歸寺云々。相州。大官令已下至諸御家人。餞送物及數百種。剩可獻宿繼兵士之由。被觸仰相

" 3・10・17条

摸國以西守護人等云々。 D E

" 3・10・17条

797、紀伊國安弓川庄地頭職者。故右大將軍御時。爲高野大塔造營奉行賞。賜高雄文學房訖。御素意被限彼一身

" 3・10・17条

- 之處。此間。湯淺兵衛尉宗光稱得上人讓狀。望申安堵御下文。被經御沙汰。以二件地頭職。不申子細。無左右難讓補。輒不可被許容之由雖被仰之。宗光爲御家人有其功之上。准新恩可宛給之旨。頻依愁申。今日被成政所御下文云々。 A D E " 4・2・10条
- 798、晴陰。爲廣元朝臣奉行。發御使於京都。是明王院僧正公胤依可爲長講堂供養御導師。被遣上童等於裝束也。 C D E " 4・2・21条
- 799、駿河前司季時使者自京都參着。申云。去月晦日未尅。高陽院殿馬場御所燒失云々。 A E " 4・3・10条
- 800、去月所被遣明王院之御使歸參。申云。去二日。六條殿長講堂被遂供養。公胤爲御導師云々。 A E " 4・3・13条
- 801、相州室依可有熊野詣。路次雜事等被充地頭等云々。仲業奉行之。 D E " 4・3・22条
- 802、晴。京都飛脚參着。去四日。坊門院院御於一條室町故皇太后宮御所崩御。仍南山御幸延引之由申之。又三月十九日。入夜有院号。改中宮職爲陰明門院云々。 A E " 4・4・19条
- 803、晴。伊賀守朝光爲使節上洛。依坊門院崩御事也。 C D E " 4・4・22条
- 804、御家人中可參候本所瀧口之由。被仰下之間。早任勅宣。可擗參之旨。今日被下御書。小山。千葉。三浦。秩父。伊東。宇佐美。後藤。葛西以下家々十二流奉之云々。皆是有譜第之寄云々。 D E " 4・5・11条
- 805、伊賀守朝光自京都下着。上皇去十七日南山御幸。御精進屋七條殿云々。 A E " 4・5・29条

- 806、御臺所御方女房丹後局自京都參着。於駿河國宇都山。爲群盜等。所持財寶并自坊門殿被整下御裝束等。悉被盜取之由申之。 A E " 4・6・12条
- 807、駿河國以西海道驛家等結番夜行番衆。殊可致旅人警固。將又丹後局參向之時。所被盜取之財寶等可尋出之由。今日被仰守護人云々。 D E " 4・6・13条
- 808、崇徳院御影堂領可被止地頭職之由。及寺家之訴。右大將家御時雖有此所望。勲功之輩不可空手之旨。被出御返事之上。今更不能御許容云々。 A D E " 4・6・20条
- 809、主計頭資元朝臣自京都進使者。申云。依兼日仰。今日^{日十四}行如法泰山府君云々。是將軍家御祈禱也。 A D E " 4・6・27条
- 810、熊野鳥居禪尼知行地頭職讓補養子事。有故將軍御避狀之上。不及左右之由。被仰出。廣元朝臣奉行之。 D E " 4・9・14条
- 811、佐々木左衛門尉廣綱進御馬一疋。昨日自近江國到來。今日於鞠御壺有御覽。被預義村云々。 D E " 4・9・20条
- 812、京都飛脚參着。去卅日異星爲彗星之由。主計頭資元朝臣進勘文。依變公家被行内外御祈等之上。可有改元云々。 A E " 4・10・12条
- 813、聖徳太子十七箇條憲法。并守屋逆臣跡收公田員數在所。及所被納置于天王寺。法隆寺之重寶等記。將軍家日來有御尋。廣元朝臣相尋之。今日進覽云々。 D E " 4・10・15条

- 814、奥州十二年合戰繪。自京都被召下之。今日御覽。仲業依仰讀申其詞云々。 D E " 4・11・23条
- 815、晴。京都使者到着。去月廿五日俄御讓位之由申之。是後朱雀院例云々。 A E " 4・12・5条
- 816、晴。京都使者參。去五日將軍家令敍正三位給云々。 A E " 5・1・16条
- 817、小雨降。京都使者參。去十八日將軍家令兼美作權守給云々。 A E " 5・1・28条
- 818、晴。京都使者到着。持參改元詔書。去九日。改承元五年爲建曆元年云々。又近日南都北嶺不靜。去月廿二日以後。山門騷動。可燒三井寺之由有風聞。廿七日夜。雷電之際。奈良法師成群。入蓮花王院寶藏。縛兵士。破開寶藏。盜銀藥師像一鉢。御劔二十逃去。而今日四日依賣銀事露顯。其使者被擲取之故。南都蜂起云々。 A E 建曆1・3・19条
- 819、山門騷動事。任被仰下之旨。相催京畿御家人。可警固園城寺之由。被仰駿河守季時。左衛門尉廣綱等。足立八郎元春爲御使。 C D E " 1・3・23条
- 820、晴。今曉。内藤右馬允盛時爲御使上洛。是去月廿五日坊門中納言忠信卿。依遊放事。勅勘之由。風聞之故也。中將信能朝臣依同事。勅勘云々。 B C D E " 1・9・12条
- 821、霽。禪師公公曉。爲登壇受戒。相伴定曉僧都。令上洛給。自將軍家被差遣扈從侍五人。是依爲御猶子也。 C D E " 1・9・22条
- 822、鴨社氏人菊大夫長明入道。法名蓮胤。依雅經朝臣之舉。此間下向。奉謁將軍家。及度々云々。而今日當干幕下將軍御忌日。參彼法花堂。念誦讀經之間。懷舊之淚頻相催。註一首和歌於堂柱。(下略) A D E

823、盛時自京都歸參。坊門黃門事已。勅許。去月八日除目。雖爲勅勘之身。被任左衛門督云々。又今月五日申尅。非暴風。非地震。內裏瀧口本所屋顛倒。所置之箭皆打損。雜仕女一人在其內。聞搖動之聲奔出。僅雖全命。打損右手。依此事。貫首召陰陽家令卜。 A E " 1・10・20条

824、小川法印忠快上洛。爲民部丞康俊奉行。被遣御馬并驛路雜掌等云々。 C D E " 1・11・2条

825、夜雨休。曉風寒。申尅。坊門黃門使者參着。是勅勘之時態預專使事。卽雖可賀申。行幸已下公事連綿之間。遲々云々。去月廿二日行幸。入夜。造朱雀門大工國永已下番匠等給使廳。本國司猶終不日之功。可營假葺之由。有勅定云々。此等之趣。被載黃門書狀。善信讀申之。就之。將軍家有被尋仰事等上。善

信申云。此門末代不相應歟。其故者。通憲入道營大內。無罪兮被處斬罪。治承大極殿朱雀門燒亡。建久九年。僅造彼門。造營之國務人一條二品能保父子卽時薨卒。元久。後京極攝政殿令書額給。御身頓滅。今又造營

上棟之後。病忽愈至槐門兮。御禊之間。又還御之時。御輿未入建礼門。此門顛倒。魏文帝當臨幸之日。離宮南門壞云々。 A D E " 1・11・4条

826、惟義。賴時。廣綱等依在京奉公之勞。各拜領一村。地頭職云々。廣元朝臣爲奉行云々。 D E " 2・3・20条

827、駿河前司惟義使者自京都到來。持參藤中納言資實卿。奉書。是賀茂河堤事。除江丹兩國并神社佛寺權門庄領等。可致穩便沙汰之由。可被下知惟義等。又此趣被仰諸國守護畢者。駿州使者申云。件堤事。當時致其沙汰之處。去月廿四日。藤中納言資實卿。奉仰。被相觸云。堤事。被仰關東時。全可費煩諸國之由。不

- 思食寄。而仰九ヶ國御家人。不論權門勢家神社佛寺領。可宛催由。被加下知之間。賀茂八幡已下庄々面々訴申。就中修理職杣役事。於此所々者。奉公異他之地也。又大嘗會卜合。兩國在此中。彼是可免許云々。惟義申云。件杣分可宛催何所乎云々。而此申狀事。太以不足言也。仍直被遣奉書之由。同廿五日。重被仰之旨云々。 A D E " 2・7・7条
- 828、彈正大弼仲章朝臣使者參着。去月廿七日造閑院事始也。上卿光親卿并家宣。行事官人明政也。上卿事不被思食定。度々被改之。所謂。始光親治定通。次師經。遂以治定光親云々。大夫屬入道於御前讀申此狀。而善信申云。適有造營事。須上藹上卿宰相弁奉之歟云々。 A D E " 2・7・8条
- 829、堤事雖爲難儀。勅定之上者。早可除彼所々之由被仰出。仍駿州使者歸洛。 D E " 2・7・9条
- 830、晴。筑後前司賴時去夜自京都下向。當時可勤前駟已下事之輩不幾之間。所被召下也。此便宜。定家朝臣進消息并和歌文書等。今日持參御所。又申云。去十三日。八幡神人數十輩列立隆衡卿門前。其根源。去年山城國有件神人殺害者。今年重長賢僧正所領者殺神人。仍如此。無裁許者。不歸宮寺。可逐電云々。同日此神人半分參院御所。明旦以前可有勅裁。若遲々者。可奉捧神輿之由。被仰下云々。十七日。大膳大夫業忠年五十三。歸寂。相撲之間。合忠綱朝臣。損頸骨。以之爲病。遂終命。是強不思官祿已下世報事。十五歲以後。每日讀法花經之仁也云々。 A D E " 2・9・2条
- 831、將軍家。神馬二疋進石清水并六條新八幡宮給。今曉。雜色等相具之進發云々。 C D E " 2・9・16条
- 832、就關東御寄進石清水住吉廣田等御領訴訟事。社解令到來者。不經宿可申沙汰之由。被仰問注所

云々。 A D E

" 2 · 9 · 17 条

833、京都使者參着。去八日閑院立柱上棟之由申之。 A E

" 2 · 10 · 19 条

834、於御所有繪合之儀。以男女老若。相分左右。被決其勝負。此事。自八月上旬。有沙汰之間。面々

結構尤甚。或自京都尋之。或態令圖風情。廣元朝臣獻覽繪者。圖小野小町一期盛衰事。朝光分繪者。吾

朝四大師傳也。數卷之中。此兩部頗及御自愛。仍老方勝訖云々。 D E

" 2 · 11 · 8 条

835、河内國關東藍御作手六十人事。任例以中右衛門尉朝定。爲奉行人。可致官仕之旨。被仰下之。 D

E " 2 · 11 · 11 条

836、晴。爲將軍家御祈。可被進奉幣御使於南山事。今日於政所有其沙汰。日次已下治定。行光參御所申

其由云々。 C D E " 2 · 11 · 15 条

837、晴。伊賀守朝光爲奉幣御使。進發熊野山。於彼山可越年云々。 C D E

" 2 · 12 · 2 条

838、京都使者參着。去十一日造閑院被立門々云々。 A E

" 2 · 12 · 11 条

839、陰。京都使者持參去十日除日聞書。將軍家叙從二位給。(下略) A E

" 2 · 12 · 21 条

840、天霽。彈正大弼仲章朝臣使者自京都到來。去月廿七日閑院遷幸。今夜即被行造宮賞。將軍敘正二位給。仍送

進其除書。正二位源實朝。從二位藤光親。上卿。正五位下平義時。同朝臣相摸國重任。此外權弁經高。大夫史國

宗。檢非違使明政賞逐可申請云々。遷幸供奉公卿。内大臣。右大將。大納言三人(中略)賢所家兼。師季。宗宣

也。行幸之後。宗宣自奔參。奏賢所入御之由。主上有御敬神禮之間。以出納可奉入之由。等閑下知。而出

納依_レ緩怠_レ不_レ傳_レ其由。宗宣奉_レ副_レ賢所。終夜候_レ東門。攤儀等訖退出。公卿見_レ之乍_レ驚相尋。宗宣無_レ所_レ陳。更密奉_レ入_レ之。又造宮之際。公私奔營之。仍建_レ殿舍_レ之後。相_レ違于指圖_レ之事多_レ之。亦間數等不_レ似_レ前々儀。作改之事及_レ度々。南殿間挾_レ陳座_レ間數有限。或出_レ南無_レ小庭。或出_レ北無_レ恭礼門_レ等事也。遂以_レ恭礼門_レ被_レ向_レ北。行幸夜。爲_レ清範朝臣奉行。召_レ弁經高。俄破_レ南殿西階。略其階南簀子中央寄_レ之。爲_レ去溜
水濕也。長橋南板一枚放之敷_レ北。其跡爲_レ弘壁下座也。雖有_レ柱。通_レ橋可_レ着_レ前座_レ之故也。此外所々多以被_レ改之。去月廿五日。行幸
以前。上皇雖有_レ御覽。不被_レ思食定_レ歟。又日來可有_レ額乎。陣口可有_レ烏居_レ乎。被_レ問_レ人々。各依_レ申_レ不可_レ然之由。無_レ沙汰_レ云々。此條々。仲章朝臣所_レ注申_レ也。將軍家自令_レ披覽_レ御云々。 A D E

" 3・3・6条

841、長定朝臣獻_レ繪_レ二十ヶ卷。納_レ詩
繪櫃。古今以下三代集中。撰_レ女房作者。取_レ其詠歌。并事書之意圖_レ之。將軍家甚御入

興_レ云々。 D E

" 3・3・28条

842、尙友調進更衣御裝束。自_レ京都_レ到着。廣元朝臣進_レ覽御前。日來依_レ有_レ遲引御疑。尙友可_レ被_レ行_レ其科_レ之旨。雖_レ及_レ御沙汰。每_レ物美麗之間。還有_レ御感。剩可_レ賜_レ一村_レ云々。 D E

" 3・4・1条

843、於_レ南京十五大寺。供_レ養衆僧。可有_レ非人施行_レ之由。將軍家年來御素願也。今日被_レ仰_レ京畿内御家人等

云々。廣元朝臣奉_レ行之。 D E

" 3・4・20条

844、和田左衛門尉義盛追_レ放年來歸依僧。伊勢國者。
号_レ尊道房。人成_レ恠_レ之處。外成_レ追出_レ之儀。内爲_レ祈禱_レ令_レ參_レ太神宮_レ之由。有_レ

再三流言。仍世上旃物念_レ云々。 D E

" 3・4・24条

845、又相州。大官令承_レ仰。被_レ發_二飛脚_一。遣_二御書於京都_一。兩人連署之上。所_レ被_レ載_二將軍家御判_一也。是義盛雖_レ令_レ伏誅。餘黨之令_二紛散_一。未_レ知其存亡。凡京畿之間。有_二骨肉_一。不日無_二縑索之儀_一者。難_レ斷_二後昆狼唳_一也。御書之樣。(下略) C D E " 3・5・3条

846、天霽。義盛。時兼以下謀叛之輩所領。美作淡路等國守護職。横山庄以下爲_レ宗之所々先以收_二公之_一。可_レ被_レ充_二勲功之賞_一云々。相州。大官令被_レ申_二沙汰之_一。 D E " 3・5・5条

847、遠江守親廣自_二京都_一參着。爲_レ供_二養修造之塔婆_一上洛。終_二其節之故_一。去_二日出京之處_一。於_二路次_一聞_二合戰事_一。揚_レ鞭云々。 C D E " 3・5・8条

848、天晴。爲_二廣元朝臣奉行_一。被_レ送_二御教書於在京御家人之中_一。相州。大官令連署。又被_レ載_二御判_一云々。是在京武士不可_レ參向。於_二關東_一者令_二靜謐_一畢。早可_レ守_二護院御所_一。又謀叛之輩廻_二西海_一之由有_二其間_一。可_レ致_二用意_一之由也。宗被_レ仰_二佐々木左衛門尉廣綱_一云々。及_二晚景_一。近_二江美濃尾張等國御家人參着_一。國土人民候煩已以千万。悉忘_二東作之勤_一云々。今日重勲功賞御下文等賜_レ之。伊賀前司朝光以下數輩云々。 A B D E " 3・5・9条

849、天晴。關東飛脚等自_二京都_一歸參。初使節去八日戌尅入洛。後飛脚同十四日丑尅入洛。因_レ茲京中浮說非_一。自_二院有_二御禁制_一。亦在京士卒雖_レ申_下可_レ參向_上之由。有_二天氣_一。爲_レ警_二固洛中_一被_レ留之。佐々木左衛門尉廣綱得_二私飛脚_一。相_二伴五條大夫判官有範_一。有_二範_一廣綱各自_二坊門殿_一給_二馬_一。已擬_二進發_一之處。御教書到着之間。留_レ訖。又去十四日。故掃部

頭親能入道猶子左衛門尉能直在_二六波羅家_一。三浦輩者依_レ有_二外家之好_一。其身警固。夏野次郎左衛門尉盛時。大夫尉_二義盛子_一。自_二筑紫_一上洛。欲_レ討_二彼金吾_一。自_レ院御禁制之間。無事云々。 A C D E " 3・5・22条

850、晴。炎旱涉旬。今日。壽福寺長老榮西。自京都參着。日來所望大師號。去月三日有議定。存生大師號

事。本朝依無先蹤。同四日被任權僧正元權云々。律師。 A E

3・6・2条

851、廣澤左衛門尉實高自備後國歸參。是令海陸賊徒蜂起之間。相鎮之。去々年爲使節。下向彼國。而通志

於義盛。令用意征箭尻百腰。送遣之由。讒訴出來。被仰在京之士。可誅其身之趣。及御沙汰。實高

不知之。今日已所令參着也。(下略) D E

3・6・25条

852、新造御所御障子畫圖風情事。先々繪不相叶御意。被仰含職者。又有御尋旨等。仍今日被遣其事書等於

佐々木太郎左衛門尉廣綱之許。御使紀伊刑部次郎上洛云々。 C D E

3・8・6条

853、天晴。京都飛脚參着。申云。去月廿五日。清水寺法師建立一堂。其地在清閑寺領之由。彼寺憤鬱。相論

之間。清閑寺爲台嶺之末寺。山又咎之。清水寺依爲南都末寺。奈良殊怒之。而今日三日。清水寺構

城。山僧集會于長樂寺。自公家先遣檢非違使有範。惟信。基清等。破却清水之城。制止武備。急着

法衣。可在佛前之旨被仰含。寺僧承伏之。相次遣廳官長季於長樂寺。被禁制之處。所司法師等僅

相逢。更無承伏之詞。廳官猶逢衆徒。可傳綸言之由示含之間。惡僧等出來。妄吐奇恠之詞。曾不可

惜身命。不及承綸言由呵叱。殆及放言。廳官爲遁當時耻。退去之間。飛礫打門扉。馳歸奏聞之

間。忽被仰北面之輩并在京健士近臣家人等。圍彼寺四至。不殘一人。可生虜之由宣下。依之壯

士等進先登。近江守賴茂。將伏兵遮嶺東之險阻。生虜山上者。是惡徒等多赴險阻。仍先令家人廻

其所。指上旗於嶺上之間。更還奔。登嶺者不幾。于時不及狼藉。剩甲冑相具之令參。殊預叡感。凡

生虜二十人。被誅者十余人也。同六日。山門衆徒悉離山。打付中堂。三味堂。滅常燈。截落七社以下御簾神鏡。鎖門々。追放祠官云々。天台佛法及魔滅之期歟云々。 A E " 3・8・14条

854、京極侍從三位定家付二條中將雅經朝臣。献和歌文書等於將軍家。蓋是先日被尋仰之故也。件双紙等。今日到着于廣元朝臣宿所。即持參御所之處。御入興之外無他云々。 A D E " 3・8・17条

855、今日。大友左衛門尉能直爲使節上洛。依山門騷動事也。 C D E " 3・8・22条

856、豐前々司尙友參御所。相具子息内藏允尙光。兵衛尉能尙等自京都參着云々。藤民部大夫行光爲申次。入見參。是爲西國御領乃貢納下奉行。令在洛者也。 A D E " 3・9・8条

857、今日。以御書。有被仰于大宮大納言殿方之事。自公家被課西國御領等臨時公事也。一切不可及御沙汰之由。如廣元朝臣雖申之。仰曰。於一向停止之儀者不可然。至向後者。楚忽事者。非雜掌等之所堪。假令兼日粗可被定仰之旨。可載之者。仍前大膳大夫於宿館。書整此御書。遠江守親廣爲御使。數度往廻。親廣申請御判。即爲京進被下藤民部大夫行光云々。 D E " 3・10・3条

858、天晴。六波羅飛脚參着。申云。清水寺法師等。依寄附寺家於台嶺之末寺。山門使入部彼寺領之間。南都衆徒憤之。爲燒失延曆寺擬發向。就之。重可發遣官軍之由。及公卿僉議云々。 A E " 3・10・29条

859、天晴。京極侍從三位定家。献相傳私本萬葉集一部於將軍家。是以二條中將雅經。依被尋也。就之。去七日。羽林請取之送進。今日到着之間。廣元朝臣持參御所。御賞翫無他。重寶何物過之乎之由。有仰云々。彼卿家

領伊勢國小河射賀御厨地頭澁谷左衛門尉致非法新儀之間。領家之所務如無。三品雖爲年來之愁訴。本自依

不染世事。不奔營此事。思而涉旬月許也。而去比。以廣元朝臣消息。有愁訴歎之由。至被觸遣之時。爲休士民之歎。始發言之間。有其沙汰。被停止件非儀云々。是併被賞歌道之故也。 A D E

時。爲休士民之歎。始發言之間。有其沙汰。被停止件非儀云々。是併被賞歌道之故也。 A D E

3 · 11 · 23 条

860、天晴。六波羅飛脚參。申云。南都騷動事。遣官軍被防禦之間。去廿日。衆徒自宇治無爲退出云々。關東之御

使大友左衛門尉能直。于今在京云々。 A E " 3 · 11 · 30 条

861、改元詔書到來。去六日。改建曆三年。爲建保元年。卽廣元朝臣令遠江守親廣。進御所云々。 A E

建保 1 · 12 · 15 条

862、曉風少吹。朝陽快霽。今日。坊門新黃門忠信。使者。自京都參着。被送進蹴鞠書一卷。彼卿去年十二月二日。被

聽紫革襪。宗長等朝臣同之云々。將軍家賞翫諸道給中。殊叶御意者。歌鞠之兩藝也。 A E

" 2 · 2 · 10 条

863、陰。酉尅。京都飛脚參着。申云。去十五日。山門衆徒發向于園城寺。金堂上下佛閣僧坊。不殘一字。放火烧

失云々。被尋濫觴之處。去十四日者日吉祭也。而大津神人唐崎御供備進。背先規不法之由。寺社共以責勘神

人等之時。兒濱相撲清四郎卒一族等。乘左方船。向公人發箭。專當法師忽被疵畢。翌朝衆徒爲召取彼

張本等。差遣所司以下公人於大津東浦之間。喧嘩出來。所司等歸却之處。三井寺大衆追到大津邊及合戰。依

之山徒令發向。先燒錦織里西浦在家并北院坊舍。次丑刻燒堂塔等云々。近代。叡岳殊成群動。仍飛脚馳走

東西。使節往來于都鄙。公家之煩。民戶之費。職而此由也。匪直事也歟。抑園城寺者。天武天皇御宇十六

年草創之後。為山徒燒失事。已及五ケ度。始白河院御宇承保元年甲寅六月九日。山僧發向彼寺。金堂已下悉

燒失。鳥羽院保安二年辛丑後九月二日。崇德院保延六年庚申後五月廿五日。二條院長寬二年甲申六月九日。此四ケ

度皆燒拂金堂并三院云々。 A E " 2・4・23条

864、晴。園城寺長吏僧正公胤進使者。愁申當寺燒失事云々。 A E " 2・4・25条

865、晴。園城寺回祿之間。可被修造唐院并堂舍僧坊之由。有其沙汰。以駿河前司惟義朝臣。豐前守尚友等

。為惣奉行。宇都宮入道蓮生山王社并拜殿。佐々木左衛門尉廣綱。四足門源三左衛門尉親長。鐘樓。内藤左衛門尉盛家預坊。已

下。所被定十八人雜掌也。(中略)鎮守府將軍義家朝臣。殊特當寺之丹祈。而最愛御息女盲給。錦織僧正行觀奉加

持之。忽以復本。將軍感悅之餘。三度拜僧正。吾子孫永可歸和尚門徒云々。幕下將軍者。以兩ケ庄園為

一寺依怙。又鎌倉中建立數字之伽藍。以公顯。公胤兩僧正為供養導師。剩被納御鬢髮於青龍院。依此等

芳躅。及今儀歟。 D E " 2・5・7条

866、大夫判官惟信使者參着。申云。去四日。南都衆徒稱有鬱訴事。奉移春日神木於木津邊。今日七日。此使者出京日。欲入

洛之由。有其聞之間。在京士卒。悉以奉勅定。為防禦之。向于宇治勢多之兩途畢云々。 A E " 2・8・13条

867、陰。去十六日。仙洞秋十首歌合。二條中將雅經朝臣寫進。將軍家殊令賞翫之給云々。 A D E " 2・8・29条

868、晴。六波羅飛脚到着。申云。和田左衛門尉義盛。大學助義清等餘類住洛陽。以故金吾將軍家御息号禪師爲大將

軍。巧叛逆之由。依有其聞。去十三日。前大膳大夫之在京家人等。襲件旅亭一條北邊之處。禪師忽自殺。伴黨

又逃亡云々。 A E " 2・11・25条

869、霰降。京都使者參着。去月廿一日未尅。高陽院仙洞有失火。但打消之間。兩宇之外不燒。同日亥刻。仁和寺

御室道。御入滅御年四十九云々。 A E " 2・12・2条

870、坊門内府御使到來于御臺所御方。是來二月可下令遂素懷給之由也。亦件使者申云。去年十二月廿九日晚

景。於殿上藏人勘解由次官平宗直与中宮大進藤兼隆起鬪諍。大進打次官。仍翌日卅日。兼隆被配流土

佐國。參議定家卿參結政。被行請印云々。 A E " 3・1・20条

871、左衛門大夫光員上洛。是爲御臺所御使。坊門内府今可有御除髮之儀。又依可被修御逆善。所被進

捧物也。 C D E " 3・2・2条

872、在京御家人等洛中守護不法事。殊有其沙汰。就忠否可有賞罰之旨。今日被遣御書云々。親廣奉行之。 D

E " 3・4・18条

873、晴。坊門黃門忠信卿被進去六月二日仙洞歌合衆議叛一卷於將軍家。是依内々勅定也云々。 A E " 3・7・6条

874、霽。將軍家御持佛堂御本尊。釋迦像。雲慶奉造之。自京都被奉渡。可有開眼供養事。爲信濃守行光奉行。有其沙

汰。 A D E " 4・1・17条

- 875、宣旨狀一通到來于大夫屬入道許。季時取進之。但御精進之間。不能覽之。任其旨。可施行東國御家人等之由。仰善信。是去五日夜。群盜入東寺寶藏。佛舍利道具已下代々寶物等。併盜取之。仍同九日。可尋搜件盜人之由。被下宣旨於五畿七道。宣下狀云。(下略) A D E " 4・2・19条
- 876、京都使者到着。申云。去月廿九日申尅許。於東山新日吉邊。大夫尉秀能。淡路守秀康等生虜東寺強盜。佛舍利道具等不紛失。仍今月九日如元被奉安置于東寺。即日。秀康任右馬助。淡路守秀能任出羽守。使如元。各擲進東寺強盜賞也云々。爲此御祈。二月廿三日被立公卿。勅使。光親卿。於伊勢太神宮。今月廿九日入洛之後。彼賊徒等露顯。是則云王化。云佛法。未盡之所致也云々。 A E " 4・3・22条
- 877、京都飛脚參着。去十四日夜。坊門前内府禪室於西郊別業。薨御。仍十五日寅尅。上皇自八幡俄還御。上皇御外之由申之。 A E " 4・3・24条
- 878、御臺所御車。依嚴閣薨御。渡御信濃守行光山庄。密儀也云々。 D E " 4・3・25条
- 879、爲此御訪。佐々木左近將監。足立八郎元春等上洛。 C D E " 4・3・26条
- 880、京都飛脚參着于相州御亭。去廿二日三條中納言實宣。室逝去給之由申之。是故遠州禪室御息女。相州御妹也。仍御輕服之間。諸人令群參。 A D E " 4・3・30条
- 881、廣元朝臣改中原姓。可爲大江氏之由。可申請。勅裁之趣。日來内々談合于都鄙。遂今日屬女房。伺許否云々。 D E " 4・4・7条
- 882、京都飛脚參。去二日殷富門院崩御之由申之。 A E " 4・4・15条

883、廣元朝臣申大江姓事。有御左右云々。 D E " 4・4・17条

884、御臺所被修御佛事。坊門殿三十五日也。 D E " 4・4・19条

885、陰。美作左近大夫朝親爲使節上洛。是依彼崩御事也。 C D E " 4・4・20条

886、晴。陳和卿參着。是造東大寺大佛。宋人也。彼等供養之日。右大將家結緣給之次。可被遂對面之由。頗以雖

被命。和卿云。貴客者多令断人命給之間。罪業惟重。奉值遇有其憚云々。仍遂不謁申。而於當將軍

家者。權化之再誕也。爲拜恩顏。企參上之由申之。卽被點筑後左衛門尉朝重之宅。爲和卿旅宿。先

令廣元朝臣問子細給。 A D E " 4・6・8条

887、去比。佐々木左衛門尉廣綱使者相具所參上之東寺凶賊已下強盜海賊之類五十餘人事。今日有沙汰。可被遣

奧州之由。被仰下云々。是爲放夷鳴。去四月廿八日給廣綱。々々於一條河原。自廷尉之手請取之

云々。此東寺賊徒者。同月十八日秀能家子四人郎等二人相具之。自三條坊門東洞院家。向大理之正親町西洞院門前

路次自東洞院北行。至一條西折。至西洞院南行。次禁獄舍。見物者如堵。上皇被立御車於大炊御門東洞院覽之云々。 A D E

888、晴。召和卿於御所。有御對面。和卿三反奉拜。頗涕泣。將軍家憚其礼給之處。和卿申云。貴客者。昔爲

宋朝醫王山長老。于時吾列其門弟云々。此事。去建曆元年六月三日丑尅。將軍家御寢之際。高僧一人入御夢

之中。奉告此趣。而御夢想事。敢以不被出御詞之處。及六ヶ年。忽以符合于和卿申狀。仍御信仰之

外。無他事云々。 A D E " 4・6・15条

889、陰。京都使者參着。去廿日。將軍家令任中納言給云々。 A E " 4・6・30条

890、廣元朝臣今月一日遷大江姓訖。勅裁之趣。以行光申入之。即彼綸旨等。被寫留御前云々。(下略) D E " 4・⑥・14条

891、去廿日未刻。前大僧正法務公胤入滅。年七有往生瑞之由。今日風聞。是將軍家御歸依僧也。故前幕下殊有仰置之旨云々。 B D E " 4・⑥・29条

892、晴。去月廿二日除書參着。將軍家更令兼左近中將給。 A E " 4・8・3条

893、晴。相州招請廣元朝臣。被仰云。將軍家任大將事。内々思食立云々。右大將家者。官位事宣下之每度固辞之給。是爲令及佳運於後胤給也。而今御年齡未滿成立。壯年御昇進。太以早速也。御家人等亦不候京都兮。面々補任顯要官班。可謂過分歟。尤所歎息也。下官以愚昧短慮。縱雖傾申。還可蒙其誠。貴殿盍被申之哉云々。(下略) D E " 4・9・18条

894、晴。鶴岳宮神事。將軍家御出。依御昇進。中納言中將被用拜賀之儀。相州。武州已下前後扈從如堵。 D E

895、霽。將軍家令任中納言給之後御直衣始也。 D E " 4・11・23条

896、伊賀國壬生野庄者。爲春日社領。而宇都宮弥三郎賴綱入道稱地頭押領之由。興福寺住侶僧信賢所參訴也。今日有其沙汰。不能關東御成敗。於記錄所。被遂對決可宜之由。被仰下云々。 A D E " 4・12・8条

897、晴。右京兆室依重服移住万年九郎宅給。是去十日母儀。山城前司行政女。於京都卒去之由。飛脚到來之故也。 A

D E

" 5・2・19条

898、晴。阿闍梨公曉賴家卿息自園城寺令下着給。依尼御臺所仰。可被補鶴岳別當闕云々。此一兩年。爲明王

院僧正公胤門弟。爲學道所被住寺也。 D E

" 5・6・20条

899、晴。京都使者參着。自去十日。上皇御瘧病。每日令發給。内外御祈禱更不見其驗云々。 A E

" 5・7・24条

900、晴。山城大夫判官行村爲使節上洛。依院御惱事也。 C D E

901、雨降。山城廷尉自京都歸參。院御惱事。自七月十日。連日御瘧病也。有智高僧面々雖勵修驗。無御滅之

儀。而同廿五日。前陰陽博士道昌於赤山修泰山府君祭。翌日御平愈。仍道昌被聽勅勘云々。是去二

月。於廣瀨殿。白虹出見之由。道昌奏聞之處。傍輩等依不伺之歟。非白虹之旨。依令言上。被止所

職云々。 A E " 5・8・25条

902、奥州闕。右京兆可令兼任給之由。被預御吹舉云々。 D E " 5・11・17条

903、霽。右京兆去十二日兼陸奥守給。仍被參賀御所。美作左近大夫朝親爲申次。 D E " 5・12・24条

904、晴。後藤大夫判官基清飛脚自京都參着。申云。去三日。白河邊有謀叛者。基清卽行向。追捕之處。郎從等

多以被疵。然而遂臬件賊主。是伊勢平氏餘流掃部權助正重云々。依有驕奢。擬申鳥合者也。 A E

" 6・1・12条

905、晴。於政所。尼御臺所南山御參詣事。有其沙汰。相州可被扈從云々。 D E " 6・1・15条

906、晴。將軍家令舉申讚岐國守給。早可奏達之由。今日被仰遣駿河守季時京都守護之許。是以式部大夫泰時朝

臣。可被任一件國守之由。有其沙汰。勅許之後可被申任人云々。 D E " 6・1・17条

907、雨降。京都使者參着。去十三日將軍家令任權大納言給之由申之。 A E " 6・1・21条

908、快霽。尼御臺所御上洛。相州扈從。是爲熊野山御斗敷也。以此次。令伴故稻毛三郎重成入道孫女

年十六。綾小路三品師季卿女。給。依可被嫁于土御門侍從通行朝臣也。同廿一日入洛給云々。 C D E " 6・2・4条

909、晴。廣元朝臣奉仰。發使者於京都。是將軍家依大將御所望事也。 C D E " 6・2・10条

910、霽。波多野旅次郎朝定爲使節上洛。大將事。必可令任左給之由。被申之故也。 C D E " 6・2・12条

911、霽。京都使者參着。關東令舉讚岐守給事。去十二日達天聽。早可被申任人之由。被仰下云々。 A " 6・2・23条

D E " 6・2・23条

912、晴。波多野弥次郎朝定自京都歸着。持參去六日除書。將軍家令兼任左近大將給。始御使入洛之時。任故

右大將軍之例。可被任右。仍右幕下擬被辭申之刻。朝定上洛之間。亦改先篇。有其沙汰。御使往反

于博陸御亭數箇度云々。件聞書。安藝權守範高參進。被置御前。（中略）先召藤右衛門尉景盛於御前。賜聞書

。範高於御前更書寫之。是任出羽守之故也。景盛恐悅彰顏色。當職者。醍醐天皇御宇昌泰二年以來中絶。而至後冷泉院

御時。永承五年九月日。平繁盛始任之。其後亦無補任人之處。今被興絕之條。尤可謂珍重歟。又去月十

八日。源文章博士仲章朝臣侍讀昇殿事勅許。翌日十九日宣下。是雖依關東之御舉。爲希代朝恩歟。次召朝定於簾下。賜御劔。被賞今度使節之忠故也。 A C D E " 6・3・16条

913、霽。權少外記中原重繼爲勅使下着。是去六日將軍家可爲左馬寮御監之旨。被宣下。仍所持參件宣旨狀

也。先着鶴岳宮廻廊。次爲前大膳大夫入道沙汰。點旅亭。請勅使。 A D E " 6・3・18条

914、霽。今日依爲良辰。勅使重繼參御所。(中略)右京兆布衣。被申次之。小時而將軍家御直衣。出御。上車寄間

御簾。有御對面。重繼膝行。置宣旨狀大外記師重奉。於笏上令獻。(下略) D E " 6・3・23条

915、晴。已剋。重繼歸洛。將軍家被遣鞍馬三疋。砂金百兩。三浦右衛門尉胤義爲御使。勅使令進發之時。李

部。并大夫判官行村。小山左衛門尉朝政。奉仰爲送之。到固瀨驛。重繼不進前途。頻以敬嘔之間。各還

參。又李部可被任讚州史事。被仰下之處。稱過分。固被辭申。仍可奏此趣之由。被仰重繼云々。

D E " 6・3・24条

916、晴。申剋。尼御臺所御還向。南山御奉幣無爲。御在京之間有玃事等。去四日御幸于大秦殿。仍立御車於三

條河原邊。令見物給。因茲。御幸之儀殊被刷之云々。同十四日可令敍從三位之由宣下。上卿三條中納言。參

陣。卽以清範朝臣。被下件位記於三品御亭。此事儀定及細碎歟。出家人敍位事。道鏡之外無之。女敍

位者。於准后者有此例。所謂。安德天皇御外祖母也。亦知足院殿御母儀准后事。適出家以後也。仍以彼准

據被敍之云々。同十五日自仙洞可有御對面之由雖被仰下。邊鄙老尼咫只龍顏無其益。不可然之旨

被申之。拋諸寺礼佛之志。卽時下向給云々。 A E " 6・4・29条

917、陰。相州自_二京都_一下着給。三品御上洛之時被_二扈從_一。而三品去月十五日雖_二出京給_一。爲_レ參_二仙洞御鞠_一。被_二逗留_一云々。 A C E " 6・5・4条

918、晴。相州依_レ召被_レ參_二御所_一。洛中事被_二尋仰之處_一。相州被_レ申去。先去月八日梅宮祭之時。御鞠有_二拜見志之由_一。内々

申之間。臨_二幸件宮_一。右大將_{半部車具}被_レ刷_二顯官之威儀_一。是皆下官見物之故也云々。同十四日初_二參于御鞠庭_一。着

布衣。_{顯文紗狩衣。白指貫。}伴_二愚息二郎時村_一。_{二藍布狩衣。白狩袴。}公卿候_二簀子_一。上皇上_二御簾_一。穀_二覽之_一。同十五日。十六日以

後。連々參入。當道頗得_二其骨之由_一。穀感及_二數度_一。院中出仕不知_二案内之旨_一。示合之間。尾張中將清親_{坊門内府甥。}

每事扶持。生涯爭忘_二其芳志哉云々_一。 A E " 6・5・5条

919、霽。女房_{三條局}_{督典侍女。}自_二京都_一歸參。是亡父越後法橋範智之粟田口遺跡造_二一堂_一。依_二此事_一上洛。彼堂去月八日遂

供養。先是_二三ケ日内_一。尊長法印俄築_二々垣_一。花山院右府被_レ送_二被物十重_一。布施取公卿前中納言範朝。宰相中

將經通。刑部卿宗長。三位兼季云々。 A C E " 6・5・9条

920、霽。新藏人時廣自_二京都_一參着。去月十七日補_二藏人_一。同廿七月初參。而將軍家大將御慶賀御神拜之時。爲_レ勤_二前

駟。廿八日出京。從_二其役之後_一。又可_二還參之由奏聞云々_一。 A D E " 6・6・14条

921、晴。伊与少將實雅。花山院侍從能氏等。自_二京都_一下向。_{去十二日進發。}是爲_二將軍家御神拜扈從_一云々。 A D E " 6・6・17条

922、霽。内藏頭忠綱朝臣爲_二勅使_一下向。_{去五日進發。}申斜着_二中條右衛門尉家長若宮大路家_一。(下略) A E " 6・6・20条

923、晴。午剋。忠綱朝臣令運半檜件御調度等於御所。御車二兩。御裝束。御隨身裝束。移鞍等也。是皆

自仙洞被調下云々。爲仲章朝臣奉行請取之。小時而將軍家召忠綱朝臣於簾中。有御對面。慇懃朝恩。

殊被賀申云々。 A D E " 6・6・21条

924、晴陰。將軍家任大將御之間。爲御拜賀。參鶴岳宮給。早旦爲行村之奉。觸申可有御拜賀之由於下向

雲客等。申斜有其儀。(下略) D E " 6・6・27条

925、晴。勅使忠綱朝臣歸洛。自將軍家。給鞍馬三疋已下餞物。 D E " 6・7・1条

926、霽。藏人左衛門尉時廣爲致禁裏奉公。申可上洛之由。行村爲申次。而御氣色頗不快也。先日已交其号

於仙籍。下向之上者。強不可好還參歟。所存之企。似編關東也。心中殊不審云々。行村垂面於地。無

申旨兮。退出傳仰之趣於時廣。 C D E " 6・8・20条

927、晴。時廣上洛事。以昨之趣。泣依愁申于右京兆。令申達給之間。可上洛云々。 C D E " 6・8・21条

928、陰。京都飛脚參着。申云。去廿一日。山門衆徒頂戴日吉祇園北野等神輿入洛。奉振閑院殿陣頭。仍遣北面

衆。被防禦之。又住京健士光員。基清。能直。廣綱等。依勅定馳參宮門。相支之處。加藤兵衛尉光

資。光員男。後号加藤新左衛門尉。切落八王子駕輿丁男腕之間。令汚穢神輿。仍奉振弃歸山。是石清水別當法印宗清執務

鎮西筥崎宮之間。天台末寺大山寺神人船頭長光安。爲筥崎宮留主相摸寺主行遍。并子息左近將監光助等被殺

害。仍衆徒蜂起。勒奏狀訴申之間。行遍。光助雖被禁獄。沒收筥崎宮爲山門領。并可被配流宗清法

害。仍衆徒蜂起。勒奏狀訴申之間。行遍。光助雖被禁獄。沒收筥崎宮爲山門領。并可被配流宗清法

印之由訴申之。所奉動神輿也。 A E " 6・9・29条

929、陰。佐々木判官廣綱飛脚參着。申云。去十日。中宮故中御門關白御女御產。皇子御誕生。九日有任大臣等。將軍家任内

大臣給。仍持參彼除書。太政大臣。公房。内大臣。實朝大將如元大納言定通。中納言實氏云々。同十一日又除目。時

廣已下少々令敍留也。此外中宮御產之時鳴弦輩任官云々。 A E " 6・10・19条

930、日吉神輿入洛以下事。已靜謐之由。有其沙汰。日來度々被申京都訖。去月廿一日入洛。同廿三日。三塔諸堂

日吉社頭閉門。又祇園北野以下末寺末社同以閉門。雖然。今月十二日。貫首以下門徒僧綱登山。宥衆徒。令

開山上社頭門戶。中堂四社神輿奉歸座本社云々。 E " 6・10・22条

931、晴。京都使者參。去十三日。禪定三品令敍從二位給云々。 A E " 6・10・26条

932、霽。秋田城介景盛爲使節上洛。依被賀申皇子降誕之事也。 C D E " 6・10・27条

933、大夫判官廣綱自京都進上書狀。是去月十五日日吉社御幸之時供奉之間。有令刃傷專當童。廣綱射留

之訖。依彼賞。同廿一日所令敍留也。朝恩之至。已爲無双面目之由云々。將軍家又殊有御感。以近江

國松伏別府。被加其勸賞云々。 A D E " 6・11・5条

934、晴。景盛自京都歸參。去十日。嵯峨栖霞寺釋迦阿弥施兩堂燒失。本尊者奉取出。同十一日。八條左大臣良輔。薨

給年三十四云々。 A E " 6・11・25条

935、右京兆依靈夢所下令草創給之大倉新御堂被安置藥師如來像。雲慶奉造之今日被遂供養。導師莊嚴房律師行

勇。咒願圓如房阿闍梨遍曜。堂達頓覺房良喜若宮供僧也。(下略) D E " 6・12・2条

- 936、霽。鶴岳別當參籠宮寺。更不被退出。被致數ヶ祈請。都以無除髮之儀。人恠之。又以白河左衛門尉義典。爲奉幣于太神宮令進發。其外諸社被立使節之由。今日披露于御所中云々。 C D E " 6・12・5条
- 937、晴。去二日。將軍家令任右大臣給。仍今日有政所始。右京兆并當所執事信濃守行光。(中略圖書允清定等着布衣列座。清定爲執筆。書吉書。(下略) D E " 6・12・20条
- 938、晴。將軍家爲大臣拜賀。明年正月依可有御參鶴岳宮。御裝束御車已下調度等。又自仙洞被下之。今日到着。又扈從上達部坊門亞相已下可被參向云々。 A D E " 6・12・21条
- 939、今日坊門大納言自京都下着。以右京兆大倉御亭。被點彼旅館云々。此外卿相雲客多以下向。是爲將軍家大臣御拜賀扈從也。 A D E " 7・1・23条
- 940、今曉加藤判官次郎爲使節上洛。是依被申將軍家薨逝之由也。行程被定五箇日云々。 C D E " 7・1・28条
- 941、下向上達部殿上人等歸洛。始慶賀之道揚鞭。今悲哀之淚霑纓云々。 D E " 7・2・5条
- 942、故鶴岳別當闍梨使白河左衛門尉詣大神宮。遂奉幣還向之處。於三河國矢作宿。聞彼滅亡事自殺云々。 C D E " 7・2・6条
- 943、加藤判官次郎自京都歸參。去二日入京。申彼薨御由之處。洛中驚遽。軍兵競起。自仙洞御禁制之間。靜謐云々。 A E " 7・2・9条

- 944、信濃前司行光上洛。是六條宮。冷泉宮兩所之間。爲關東將軍可下令下向御之由。禪定二位家令申給之使節也。宿老御家人又捧連署奏狀。望此事云々。 C D E " 7・2・13条
- 945、卯剋。伊賀太郎左衛門尉光季爲京都警固上洛。又同時爲右京兆御願。被修天下泰平御祈等。天地災變祭以下也。 C D E " 7・2・14条
- 946、入夜。或卿相書狀自京都參着于二位家。去六日。致故右府將軍御祈禱之陰陽師等。悉以被停所職。是上皇御沙汰也云々。 A E " 7・2・20条
- 947、白河左衛門尉義典爲惡別當使詣大神宮。剩於途中自殺之間。依其科被收公彼遺領。被補地頭。在相摸國大庭御厨内之地云々。而祭主神祇大副隆宗朝臣。以加藤左衛門大夫光員。進狀申云。義典遺跡内於外家傳領御厨分者。輒難被收公歟。可被返付神宮者。仍卽有其沙汰。可被付神宮之由。今日被定云々。 A C D E " 7・2・21条
- 948、武藏守親廣入道爲京都守護上洛。 C D E " 7・2・29条
- 949、信濃前司行光使者參着。彼宮御下向事。今月一日達天聽。於仙洞有其沙汰。兩所中一所。必可下令下向給。但非當時事之由。同四日被仰下。此上可歸參歟之由申之云々。 A E " 7・2・12条
- 950、行光使者歸洛。彼御下向事。猶以可爲近々之由。可伺奏聞之趣被仰遣云々。 D E " 7・2・14条
- 951、光季飛脚參着。去廿日戌剋。頭中將青侍与大番武士等。起鬪乱。同廿二日入夜。彼勇士等擬襲夕郎亭之由。風聞之間。光季馳向。依加禁制靜謐。而自使廳被召張本之由申之。 A E " 7・2・28条

952、一條中將信能朝臣參_二二品御亭_一。申云。依_レ不_レ忘_二右府御旧好_一。于_レ今祇候之處。穀慮頗不快。剩去十九日可_二解官之由_一。及_二御沙汰_一云々。然者可_二參洛_一歟云々。無_二左右不可_レ被_二歸洛_一之由。有_二二品御返答_一云々。 D E

" 7・3・29条

953、内藏頭忠綱朝臣爲_二上皇御使_一下向。 A E

" 7・3・8条

954、仙洞御使忠綱朝臣參_二禪定_一二品御亭_一。右府御舊跡右府薨御事。穀慮殊御歎息之由。依_レ被_二仰下_一也。次謁_二申于右京兆_一。是

" 7・3・9条

955、今曉。御使忠綱朝臣歸洛。申刻。伊賀太郎左衛門尉光季飛脚參着。去月晦日江州有_二謀叛輩_一之由。風聞之間。自

今月一日_一至_二同四日_一。雖_二搜求_一無_二其實_一。但有_二疑貽_一。一兩輩生虜。是刑部僧正長賢一族之由申_レ之。 A E

" 7・3・11条

956、右京兆。相州。駿州。前大膳大夫入道參_二會于_一二品御亭_一。以_二忠綱朝臣_一被_二仰下_一條々。追可_二上啓_一之由被_レ申_二

御返事_一畢。急速無_二左右者_一。定背_二天氣_一歟之由。有_二評議_一云々。 D E

" 7・3・12条

957、相州爲_二二位家御使_一上洛。扈從侍千騎云々。是今度以_二忠綱朝臣_一被_二仰下_一條々事勅答并將軍御下向事等也。 C

D E " 7・3・15条

958、信乃前司行光。自_二京都_一歸參。是相州上洛之間。所_二下向_一也。依_二病痾_一兩三日逗_二留路次_一云々。 C E

" 7・3・28条

賴經將軍記

959、霽。左大臣道家公。賢息二歲。母公經卿女。建保六年正月十六日寅刻誕生。下二向關東。是故前右大將後室禪尼重將軍舊好之故。為繼二其後嗣。

依申請之。去月三日可有下向之由。宣下。同九日參春日社。乘車。殿上人一人。諸大夫三人。侍十人在共云々。同十四日。於左府有

魚味之儀。同十七日院參。賜御馬御劔等云々。同廿五日自一條亭渡六波羅則進發云々。今日午尅。入鎌倉

。着于右京權大夫義時朝臣大倉亭堀内南方。此間構新造屋。其行列。（下略） D E 承久1・7・19条

960、霽。酉尅。伊賀太郎左衛門尉光季使者自京都到着。申云。去十三日未刻。誅右馬權頭賴茂朝臣。虜子息下

野守賴氏訖。折節若君御下向之間。故止飛脚于今不啓子細云々。賴茂依背二叡慮遣官軍於彼在所昭陽

舍賴茂守護大内間。住此所。合戰。賴茂并伴類右近將監藤近仲。右兵衛尉源貯。前刑部兼平賴國等。入籠仁壽殿自殺。放

火堀内殿舍以下。仁壽殿觀音像。應神天皇御輿。及大嘗會御即位藏人方往代御裝束靈物等。悉以為灰燼。朔平

門。神祇官。々外記廳。陰陽寮。園韓神等免其災云々。 A E " 1・7・25条

961、後藤左衛門尉基綱為使節上洛。一院自去十三日御惱之由。依有其告也。 A C D E " 1・8・26条

962、陰陽頭資光朝臣勘文光季取進到着。其狀云。去廿日酉尅。彗星見西方有騰蛇中云々。仍下件狀於司天之輩。被

尋問之處。於關東。一切不見及由。八人同心申之云々。 A D E " 1・12・29条

963、大夫尉惟義使自京都到來。去月廿二日造内裏木作始。上卿參議辨大夫史等着行事假屋行事云々。又同廿六日清水

寺本堂燒失之由申之。當寺。桓武天皇御宇延曆十七年戊寅七月二日。大納言田村麻呂壞渡私宅草創云々。

A E

" 2・4・3 条

964、去月廿七日未剋。大内。陽明門。左近府。上東門左腋齋院御所等燒亡。火起於中御門町。又同十三日祇園本社

燒失云々。有範差專使所申送也。 A E

" 2・5・7 条

965、左府使下着。依去年十二月彗星事。公家被行御祈所謂。去月廿四日於延曆寺根本中堂有千僧御讀經。業師

經。東塔五百口。西塔三百口。橫河二百口也。關東司天不伺見之由。令申之條。非無不審。何無若宮御祈

乎之由申之云々。 A E

" 2・6・10 条

966、依去年彗星可有祈禱否事。於關東不出見上者。不可及沙汰歟由。司天輩依申之。就左府命。如

入道前大膳大夫有其定。今日。於鶴岡。一日轉讀三部大般若經。啓白導師別當法印定豪。伊賀左衛門尉光

宗爲今日奉行云々。 D E

" 2・6・12 条

967、依可有若君着袴。日時勘文并調度等自京都到來。 A D E

" 2・11・23 条

968、今日。小山左衛門尉朝政爲使節上洛。着袴無事所令啓也。 C D E

" 2・12・2 条

969、惟信使下着。去八日建大内殿舍。上卿源大納言通具。參議公賴。右中辨賴資。右少辨光俊等着行事所。大夫

史國宗。六位史檢非違使章重等奉行云々。是賴茂朝臣追討之時火災之間。所被新造也云々。 A E

" 2・12・20 条

970、町野民部大夫康俊爲使節上洛。是去十日夜半。七條院三條御所。依放火燒失之由。有其聞之間。所

" 2・12・20 条

驚申也。放火人等事。可_二糺彈_一之由。示_二遣親廣入道。光季等許_一云々。 B C D E " 3・2・26条

971、波多野次郎朝定爲_二二品使_一。進_二發伊勢大神宮_一。是今曉有_二二品夢想_一。面_二二丈許之鏡_一。浮_二由比浦浪_一。其中有聲

云。吾是大神宮也。天下於鑿留仁。世大仁濫天。兵於可_レ徵。泰時吾於瑩者太平於得_レ牟者。仍殊凝_二信心_一。朝定爲_二祠官

外孫_一之間。故以應_二使節_一。 C D E " 3・3・22条

972、朝定自_二大神宮_一歸着。願書付_二于祭主神祇大副隆宗朝臣_一。訖之由申_レ之。 A D E " 3・4・17条

973、京都使者到_二來大官令禪門之許_一。去廿日俄有_二御讓位_一。春秋四歲之由云々。 A E " 3・4・29条

974、午刻。大夫尉光季去十五日飛脚下_二着關東_一。申云。此間。院中被_レ召_二聚官軍_一。仍前民部少輔親廣入道昨日應_二勅

喚_一。光季依_レ聞_二右幕下公經_一。告_一。申_レ障之間。有_レ可_レ蒙_二勅勘_一之形勢_上云々。未刻。右大將家司主稅頭長衡去十五

日京都飛脚下着。申云。昨日。十四日。幕下。并黃門實氏。仰_二二位法印尊長_一。被_レ召_二籠弓場殿_一。十五日午刻。遣

_二官軍_一被_レ誅_二伊賀廷尉_一。則勅_二按察使光親卿_一。被_レ下_二右京兆追討宣旨於五畿七道_一之由云々。關東分宣旨御使。今

日同到着云々。仍相尋之處。自_二葛西谷山里殿邊_一召_レ出之。稱_二押松丸_一。秀康所從云々。取_二所持宣旨并大監物光行副狀_一。同

東土交名註進狀等_一。於_二二品亭_一。号御堂御所。披閱。亦同時廷尉胤義。義村弟。私書狀到_二着于駿河前司義村之許_一。是應_二勅

定_レ可_レ誅_二右京兆_一。於_二勲功賞_一者可_レ依_レ請之由。被_レ仰下_二之趣載_レ之。義村不能_レ返報_一。追_二返彼使者_一。持_二件

書狀_一。行_二向_レ右京兆之許_一云。義村不_レ同_二心弟之叛逆_一。於_二御方_一可_レ抽_二無_二二忠_一之由云々。其後招_二陰陽道親職_一。泰

貞。宣賢。晴吉等_一。以_二午刻_一。初飛脚到來時也。有_二卜筮_一。關東可_レ屬_二太平_一之由。一同占_レ之。相州。武州。前大官令

975、
禪門。前武州以下群集。二品招家人等於簾下。以秋田城介景盛。示含曰。皆一心而可奉。是最期詞也。故右大將軍征罰朝敵。草創關東以降。云官位。云俸祿。其恩既高於山岳。深於溟渤。報謝之志淺乎。而今依逆臣之讒。被下非義綸旨。惜名之族。早討取秀康。胤義等。可全三代將軍遺跡。但欲參院中者。只今可申切者。群參之士悉應命。且溺淚申返報不委。只輕命思酬恩。(下略) A D E
" 3・5・19条

976、
午刻。一條大夫賴氏自京都下着。

去十六日出京云々。

致二品亭。宰相中將信能。以下一族。多以雖候院中。獨不忘舊

好。馳參云々。二品乍感悅。尋京都形勢。賴氏述委曲。自去月洛中不靜。人成恐怖之處。十四日晚景。召

親廣入道。又被召籠右幕下父子。十五日朝。官軍競起。警衛高陽院殿門々。凡一千七百餘騎云々。內藏

頭清範着到之。次範茂卿爲御使。被奉迎新院。則御幸。

御布衣。

與彼卿同車也。次土御門院。

御烏帽子直垂。與彼卿二品御同車。

六

條。冷泉等宮。各密々入御高陽院殿。同日。大夫尉惟信。山城守廣綱。廷尉胤義。高重等。奉勅定。引率八

百餘騎官軍。襲光季高辻京極家。合戰。絳火急而。光季并息男壽王冠者光綱自害。放火宿廬。南風烈吹。餘烟延

至數十町。姉小路東洞院。申尅。行幸于高陽院殿。步儀。攝政供奉。近衛將一兩人。公卿少々參。賢所同奉渡。同

時。火起六角西洞院。欲及閑院皇居之間。所令避御也。御讓位以後初度。又於高陽院殿。被行御修法。仁和

寺宮道助并良快僧正以下奉仕之。以寢殿御所爲壇所云々。 A E
" 3・5・21条

976、
陰。小雨常灑。夕尅。武州進發京都。從軍十八騎也。所謂子息武藏太郎時氏。弟陸奧六郎有時。又北條五郎。(中

略)內嶋三郎等也。京兆招此輩。皆與兵具。其後。相州。前武州。駿河前司。同次郎以下進發訖。式部兼爲北陸

大將軍。首途云々。 C D E " 3・5・22条

977、自去廿二日。至今曉。於可然東土者。悉以上洛。於京兆所記置其交名也。各東海東山北陸分三道。可上洛之由。定下之。軍士惣十九萬騎也。 C D E " 3・5・25条

978、今日晚景。秀澄自美濃國去十九日遣官軍。所被固關方々也。進飛脚於京都。申云。關東土爲敗官軍。已欲上洛。其勢如雲霞。非佛神之冥助者。難攘天災歟云々。依之。院中徐周章。三院及御立願五社可有御幸之由云々。 C D E " 3・5・26条

979、返進勅使押松丸。進士判官代隆邦書。宣旨請文。則付押松訖。 D E " 3・5・27条

980、相州。武州等卒大軍上洛事。今日達叡聞云々。院中上下消魂云々。 C D E " 3・5・29条

981、相州着遠江國橋本驛。入夜勇士十余輩潛相交于相州大軍。進出先陣。恠之令内田四郎尋問之處。候于仙洞之下。總前司盛綱近親筑井太郎高重令上洛云々。仍誅伏之云々。 C D E " 3・5・30条

982、押松歸洛。參高陽院殿。被尋聞食關東子細。押松自下着之日。至上洛路次令痛心神。爲傾官軍參洛之東土不知幾千万之由申之。院中諸人仰天之外無他云々。 C D E " 3・6・1条

983、關東大將軍著于遠江國府之由。飛脚昨日入洛之間。有公卿僉儀爲防戰。被遣官軍於方々。仍今曉各進發。所謂。北陸道。宮崎左衛門尉定範。糟屋左衛門尉有久。仁科次郎盛朝。東山道。大井戸渡。大夫判官惟信(中略)鵜沼渡。美濃目代帶刀左衛門尉(中略)池瀨。朝日判官代。(中略)摩免戸。能登守秀康。(中略)食渡。山田左衛門尉(中略)洲俣。河内判官秀澄。山田次郎重忠。市脇伊勢守光員等也。 D E " 3・6・3条

984、相州。武州以下東山東海道軍士陣于野上垂井兩宿。有合戰僉議。義村計申云。北陸道大將軍上洛以前。可被

遣軍兵於東路歟。然者勢多。相州。手上。城介入道。武田五郎等。宇治。武州。芋洗。毛利入道。淀渡。結城左衛門尉。并義村可向之由云々。武州承諾。各不及異儀。駿河次郎泰村從父義村。雖可向淀手。爲相具武州。加彼陣云々。 D E " 3・6・7条

985、寅刻。秀康。有長。乍被疵令歸洛。去六日。於摩免戶。合戰。官軍敗北之由奏聞。諸人變顏色。凡

御所中騷動。女房并上下北面醫陰輩等。奔迷東西。忠信。定通。有雅。範茂以下公卿侍臣可向宇治勢多

田原等云々。次有御幸于叡山。女御又出御。女房等悉以乘車。上皇。御直衣御腹卷。土御門院。御布新院同。六

條親王。冷泉親王。已上御直垂。皆御騎馬也。先入御尊長法印押小路河原之宅。号之泉房。於此所。諸方防戰事有評

定云々。及黃昏。幸于山上。内府。定輔。親兼。信成。隆親。尊長各甲。等候御共。主上又密々行

幸。被用女房。職事資賴朝臣。具實朝臣。已上直垂。劍璽在御輿。中納言局大相國女。奉相副云々。主上。上皇入御于西

坂本梶井御所。兩親王令宿十禪師御云々。右幕下公經。父子如囚人被召具之云々。(中略)加賀國住人林次

郎。石黒三郎爲降人。來向于李部并朝廣等陣。又武州逗留野上。 E " 3・6・8条

986、上皇御坐坂本。偏被侍思食山門之由被仰。以衆徒之微力。難防東土強威之旨奏聞。仍可有還御

否。有其沙汰之處。右京兆被誅之由有浮說。人々一旦成喜悅之思云々。又右幕下父子欲被斬罪。然而有

儀。被止其事云々。 E " 3・6・9条

987、主上三院自梶井御所。還御于高陽院殿。於白河邊各御乘車。土御門院与冷泉宮御同車。新院与六條宮

御同車云々。今日。右幕下父子被免勅勘云々。 E

” 3・6・10条

988、陰。重被遣官軍於諸方。所謂。三穗崎。美濃堅者觀嚴。一千騎。勢多。山田次郎。伊藤左衛門尉。并山僧

引卒三千余騎。食渡。前民部少輔入道。能登守。下総前司。平判官。二千余騎。鵜飼瀨。長瀬判官代。河

内判官。一千余騎。宇治。二位兵衛督。甲斐宰相中將。右衛門權佐。伊勢前司。清定。山城守。佐々木判官。小

松法印。二萬余騎。眞木嶋。足立源三左衛門尉。芋洗。一條宰相中將。二位法印。淀渡。坊門大納言等也。今

日。相州。武州休息野路邊。幸嶋四郎行時。或号下河邊相具小山新左衛門尉朝長以下親類上洛之處。運志於武

州年尚。於所々令傷死之條。稱日者本懷。離一門衆。先立自杜山。馳付野路驛。加武州之陣。于

時酒宴砌也。武州見行時。感悅之餘閣盃。先請座上。次與彼盃於行時。令太郎時氏引乘馬。剩

至于所具之郎從及小舍人童。召幕際。與餉等云々。芳情之儀。觀者弥成勇云々。 E

” 3・6・12条

989、雨降。相州以下自野路相分于方々之道。相州先向勢多之處。曳橋之中二箇間。並楯調鏃。官軍并叡岳

惡僧列立招東土。仍挑戰爭威云々。酉刻。毛利入道。駿河前司向淀。手上等。武州陣于栗子山。武藏前司

義氏。駿河次郎泰村不相觸武州。向宇治橋邊始合戰。官軍發矢石如雨脚。東土多以中之。籠平等

院。及夜半。前武州。以室伏六郎保信。示送于武州陣云。相待曉天。可遂合戰。由存之處。壯士

等進先登之余。已始矢合戰。被殺戮者太多者。武州乍驚。凌甚雨。向宇治訖。此間又合戰。東土廿

四人忽被疵。官軍頻乘勝。武州以尾藤左近將監景綱。可止橋上戰之由。加制之間。各退去。武州休

990、霽。雷鳴數聲。武州。越河不相戰者。難敗官軍。由相計。召芝田橋六兼義。示可尋究河淺瀨之旨。兼義伴南條七郎。馳下真木嶋。依昨日雨。綠水流濁。白浪漲落。雖難窺淵底。爲水練。遂知其淺深。頃之馳歸。令渡之條。不可有相違之由申畢。及卯三刻。兼義。春日刑部三郎貞幸等受命爲渡。宇治河伏見津瀨馳行。佐々木四郎右衛門尉信綱。中山次郎重繼。安東兵衛尉忠家等。從于兼義之後。副河俣下行。(中略)信綱。重繼。貞幸。忠家同渡。官軍見之。同時發矢。兼義。貞幸乘馬。於河中各中矢漂水。貞幸沈水底。已欲終命。心中祈念誡方明神。取腰刀一切甲之上帶小具足。良久而僅浮出淺瀨。爲水練郎從等被救訖。武州見之。手自加數箇所灸之間。住正念。所相從之子息郎從等。以上十七人沒水。其後。軍兵多水面並轡之處。流急未戰。十之二三死。所謂。關左衛門入道(中略)安保刑部兼以下九十六人。從軍八百餘騎也。信綱獨在中嶋古柳之陰。依後進勇士入水。欲渡失思慮。遣子息太郎重綱於武州陣云。賜勢可令着向岸者。武州示可加勇士之由。與餉於重綱。賜之訖。又歸于父之所。勿刻。雖着此中嶋。相待勢之程。重綱不著甲冑。不騎馬。裸而纏帷許於頭。往還之間。依移剋。及日出之期也。武州招太郎時氏云。吾衆擬敗北。於今者。大將軍可死之時也。汝速渡河入軍陣。可捨命者。時氏相具佐久滿太郎。南條七郎以下六騎進渡。武州不發言語。只見前後之間。駿河次郎泰村主從五騎以下數輩又渡。爰官軍見東士入水。有乘勝氣色。武州進駕擬越河。貞幸雖取騎之轡。更無所于拘留。貞幸謀云。着甲冑渡之者。大略莫不沒死。早可令解御甲給者。下立田畝。解甲之處。引隱其乘馬之間。不意留訖。信

綱者。雖有先登之号。於中嶋經時刻之間。令着岸事者。與武藏太郎同時也。排大綱者。信綱取太刀切棄之。兼義乘馬雖中矢斃。依爲水練。無爲着岸。時氏揚旗發矢石。東士官軍挑戰爭勝負。東士已九十八人被疵云々。武州。武藏前司等乘筏渡河。尾藤左近將監令平出弥三郎壞取民屋造筏云々。武州着岸之後。武藏相摸之輩殊攻戰。大將軍二位兵衛督有雅卿。宰相中將範茂卿。安達源三左衛門尉親長等失防戰之術遁去。筑後六郎左衛門尉知尙。佐々木太郎右衛門尉。野次郎左衛門尉成時等。以右衛門佐朝俊爲大將軍。殘留于宇治河邊相戰。皆悉亡命。此外官兵忘弓箭敗走。武藏太郎進彼後。令征伐之。剩放火於宇治河北邊民屋之間。自逃籠之族。咽煙失度云々。武州相具壯士十六騎。潛陣于深草河原。右幕下使長衡。來此所云。迄何所有渡乎可奉見由。有幕下命云々。武州云。明日可入洛候。最前可啓案内者。問使者名。長衡名謁訖。則以南條七郎付長衡。遣幕下之許。可警固其亭之旨。示付云々。毛利入道。駿河前司破淀。芋洗等要害。宿高島邊。武州依立使者。兩人到深草云々。相州於勢多橋與官兵合戰。及夜陰。親廣。秀康。盛綱。胤義。棄軍陣歸洛。宿于三條河原。親廣者於關寺邊零落云々。官軍佐々木弥太郎判官高重以下。被誅于諸處云々。 D E " 3・6・14 條

991、陰。寅剋。秀康。胤義等參四辻殿。於宇治勢多兩所合戰。官軍敗北。塞道路之上。已欲入洛。縱雖有萬々事。更難免一死之由。同音奏聞。仍以大夫史國宗宿祿爲勅使。被遣武州之陣。兩院。土御門新院。兩親王令遁于賀茂貴舟等片土御云々。辰刻。國宗捧院宣。於樋口河原。相逢武州。述子細。武州稱可拜院宣。下馬訖。共勇士有五千餘輩。此中可讀院宣之者候歟之由。以岡村次郎兵衛尉。相尋之

處。勅使河原小三郎云。武藏國住人藤田三郎。文博士者也。召出之。藤田讀院宣。其趣。今度合戰。不起於叡慮。謀臣等所申行也。於今者。任申請。可被宣下。於洛中不可及狼暖之由。可下知東土者。其後又以御隨身賴武。於院中被停。武士參入畢之旨。重被仰下云々。盛綱。秀康逃亡。胤義引籠于東寺門內之處。東土次第入洛。胤義與三浦佐原輩。合戰數反。兩方郎從多以戰死云々。巳刻。相州。武州之勢着于六波羅。申刻。胤義父子於西山木嶋自殺。廷尉郎從取其首。持向太秦宅。義村尋取之。送武州館云々。秉燭之程。官兵宿廬各放火。數箇所燒亡。運命限今夜之由。都人皆迷惑。非存非亡。各馳走東西。不異秦項之災。東土充滿畿內畿外。求出所遁戰場之步兵。斬首拭白刃不有暇。人馬之死傷塞衢。行步不安。鄉里無全室。耕所無殘苗。好武勇西面北面忽亡。立邊功近臣重臣。悉被虜。可悲。當于八十五代澆季。皇家欲絕。 D E

” 3・6・15条

(以下次号)